SHIMANO

電動丸 1000XT

取 扱 説 明 書

このたびは、シマノ電動丸1000XTをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、リール同様大切に保存してくださいますようお願い申し上げます。

特長 …… 2
探見丸システムについて …… 4
デジタルカウンターの各部の名称 …… 5
メニュースイッチの操作 …… 6
取扱説明書中のマーク・表示について …… 8
各部の名称 …… 9
電源とコードについて …… 10
学習方法 …… 11
学習方法（全体の流れ） …… 12
学習方法　1.メータごとのマーカのある糸を巻かれる場合（学習モード） …… 14
学習方法　2.ナイロンラインなどマーカのない糸を巻かれる場合（学習モード） …… 16
学習方法　3.シマノ・デュラPE船4号300mを巻かれる場合（指定モード） …… 18
学習方法　4.PEライン4号200mを巻かれる場合（下巻モード） …… 20
学習方法　5.それ以外の組み合わせを巻かれる場合（下巻モード） …… 20
糸巻学習後の手順 …… 24
色々なテクニック …… 26
０（ゼロ）セットの設定 …… 28
高切れの補正 …… 30
A-RB（アンチラストベアリング）について …… 31
船べり自動停止について …… 31
棚または底の水深をメモリーする方法 …… 33
棚停止の設定 …… 34
メモアラームと棚停止 …… 36
２通りの棚の取り方・上からモードと底からモード …… 37
上からモードの実釣編 …… 38
底からモードの実釣編 …… 39
楽楽モード …… 40
探見丸システム　システムの設置方法 …… 42
探見丸システム　電動丸接続時の魚探画面と操作ボタン …… 43
探見丸システム　電動丸と接続した場合の機能一覧 …… 44
探見丸システム　メニュー画面の基本的な操作 …… 45
探見丸システム　シカケ軌跡 …… 47
探見丸システム　棚停止の設定 …… 49
探見丸システム　さそいの準備 …… 50
探見丸システム　さそいの準備（さそいパターンの入力） …… 52
探見丸システム　さそいの準備（さそい幅の指定） …… 55
探見丸システム　さそいの準備（オートさそいの設定） …… 56
探見丸システム　さそいの再現方法 …… 57
探見丸システム　さそいの再現方法（棚停止の利用） …… 60
探見丸システム　位置補正 …… 63
探見丸システム　底拡大 …… 65
お取り扱い上の注意 …… 66
セーフティ機能／仕様 …… 68
故障かな？と思われたときは …… 69
製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内 …… 70
安全上のご注意／サービスネット …… 71

特長

更なるスプールフリーを実現…
A-RB（アンチラストベアリング）。 P31参照
「表面改質」により、高耐触性金属を表面に高密度に密集させ、安定した「不動態層」が表面を確実にガードし、サビに強いA-RB（アンチラストベアリング）がスプールの両端に入ることにより更なるスプールフリーが実現！

巻き上げ速度が変化する…
楽楽モード P40～41参照

巻き上げフィーリング抜群の…
スーパーストッパーII
アソビがないのでシャクリに威力を発揮します。

このクラストップレベルの…
軽量コンパクト化を実現。

さらに磨きのかかった…
ハイスピード＆ハイパワーを装備。

速巻きスイッチ採用・スピーディーに巻き上げる…
カラ巻きHiスピード。 P5･27参照
シカケのカラ巻きを高速で行ない、手返しやポイントの移動などで威力を発揮します。

より正確に何回でも狙った水深にシカケを落とす…
0（ゼロ）セット。 P28～29参照
シカケが水面にあるときを0メートルとして設定できますから、狙った水深に、より正確にシカケを投入できます。

竿を立てたときにシカケが手元に戻ってくる…
船べり自動停止。 P31～32参照
船べり停止位置が自動的に設定されますから、船べり停止後、竿を立てるだけでシカケが手元に戻ります。

高切れをワンタッチで修正する…
高切れ補正。 P30参照
高切れした場合は、再度シカケを結びシカケを水面に合わせて0セットスイッチを押してください。カウンターが修正されます。

プログラマ不要の新SLS方式…
SLSII（シマノ･ラインプログラム･システム2）**搭載。**
より正確な棚取りが可能です。 P11～23参照

レバー操作で巻き上げ速度と楽楽設定値をらくらく調整…

テクニカルレバー。

P9·40〜41参照

水深をアラームで知らせる…

オート棚メモ。

P33·36参照

棚または底の水深をメモリーすれば、次回そこにシカケがくるとアラームが鳴ります。

シカケが棚を正確に狙う…

棚停止。

P34〜36参照

棚または底の水深をメモリーすれば、次回そこにシカケがくるとアラームが鳴り、自動的に棚停止します。

カウンター表示を選択できる…

「上からモード」「底からモード」切り替え。

P37〜39参照

釣場、釣り方、対象魚など場合に応じて上（水面）から・底からの水深表示を切り替えることができます。

より速くシカケを落とす…

糸送り機能。

P26参照

●探見丸システムを組み合わせれば、さらに便利に！

船べりで魚探が見える！

探見丸システム対応。

P4·42〜65参照

探見丸と組み合わせることで双方向に通信が可能となり、使い勝手が広がります。

探見丸と接続すれば、あなたの釣技をリールが再現

テクニックマスター。

P50〜62参照

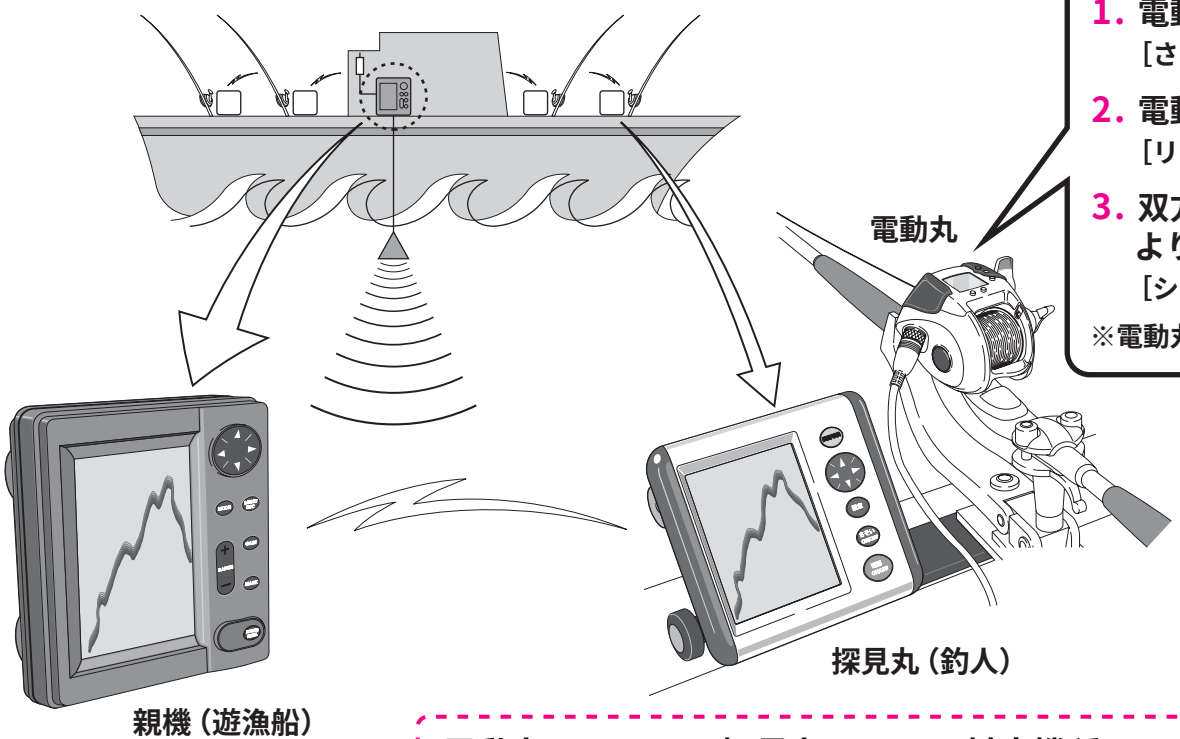
釣人の学習させた「さそい動作」をリールが再現するシマノテクニックマスター（TM）。モータのON/OFFによる入力、手巻操作による入力とも、マイコンによるファジー制御で釣人の感性に忠実な「さそい動作」をリールがそのまま再現します。
また、操作を覚える必要はなく、ディスプレイの説明にそって操作をすれば簡単にマスターできます。

探見丸システムについて（探見丸システムを組み合わせた使用方法について、詳細は42～65ページへ！）

探見丸システム　親機からの魚探映像を無線でキャッチ。船べりで魚探が見える！

あらかじめ遊漁船に設置された親機魚探からの情報を探見丸がキャッチ。釣座に居ながらにして魚探の映像を見ることができる画期的なシステムです。〔探見丸対応遊漁船につきましては、弊社ホームページ、パンフレット等をご覧下さい。〕

※ご注意　探見丸に映る映像はご自身の位置ではなく、親機送受波器の位置映像です。



さらに探見丸システム対応電動丸と組み合わせることで、双方向に通信が可能となり、使い勝手が広がります。

1. 電動丸の操作が探見丸で可能に
   ［さそい、棚停止、オートシャクリetc.］
2. 電動丸からのデータを探見丸で表示
   ［リール水深、棚タイマーetc.］
3. 双方のデータを組み合わせて
   より便利な情報を表示
   ［シカケ軌跡、テクニックマスターetc.］

※電動丸の機種によって使える機能は異なります。

電動丸1000XTは探見丸システム対応機種です。
探見丸システムを組み合わせた使用方法について、詳細は42～65ページをご覧下さい。

デジタルカウンターの各部の名称

◎現在の水深
水面からの水深を表示します。
（底からモード時は底からの水深を表示します。）
※水深は10cm単位です。（100m以上は
下図のように1m単位になります。）

99.9 → 100

◎棚停止モード
棚停止ONの時は左側に▶が
点灯します。▶の点灯がない時は
棚停止OFFです。

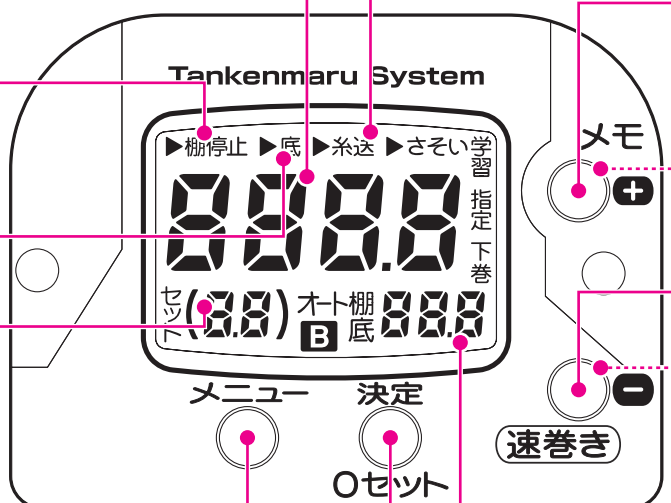
◎底からモード
底からモード時は左側に▶が
点灯します。▶の点灯がない時は
上からモードです。

◎テクニカルレバーの設定値
巻き上げの力（糸のテンション）
を数字で表示しています。
（数字=kgではありません。）

◎各種表示
学習・指定・下巻：
各学習モード時に点灯します。
底（下段）：底からモード時に点灯します。
棚：上からモード時に点灯します。
オート：オート棚セットまたは
オート底セットが有効な時に点灯します。
セット：糸巻学習、0セット等の
受け付け時に点灯します。
B：バッテリーが不足したときに点灯します。
さそい：探見丸接続の場合に点灯します。
さそいモード時は「▶さそい」となります。

●図は説明のために液晶を全部点灯させています。

◎自動糸送り機能
シカケをおろす時船べり位置より
5m以上で自動的にモーターが回り
スプールが糸の出る方向に回転
しやすくなります。機能がオフ
の時は左側の▶が消灯します。



◎メモリーした水深

■メモスイッチ
ワンタッチ
現在の水面からの水深を
メモリーします。
底からモードの時には
同時に「◎現在の水深」が
0.0になり、底からの
カウントに変わります。

■＋/－スイッチ
ワンタッチ
棚停止水深6.1m以上
入力されている時、その
水深の変更に使用します。

■速巻きスイッチ
Hiスピード
ワンタッチ
速巻きスイッチを
押すと電動リールが
最高速で巻き上がります。
再度押すと止まります。
シカケの回収等に
便利です。

■メニュースイッチ
ワンタッチ
押すごとに底・糸送の
表示が順に点滅になり、
さらに押すと標準画面に
戻ります。
決定スイッチと合わせて
使用します。

■決定/0セットスイッチ
ワンタッチ
メニュースイッチで点滅
表示にした項目のオン/
オフに使用します。

3秒以上
0セットします。
シカケを水面に合わせて
0セットしてください。

メニュースイッチの操作

メニュースイッチの操作

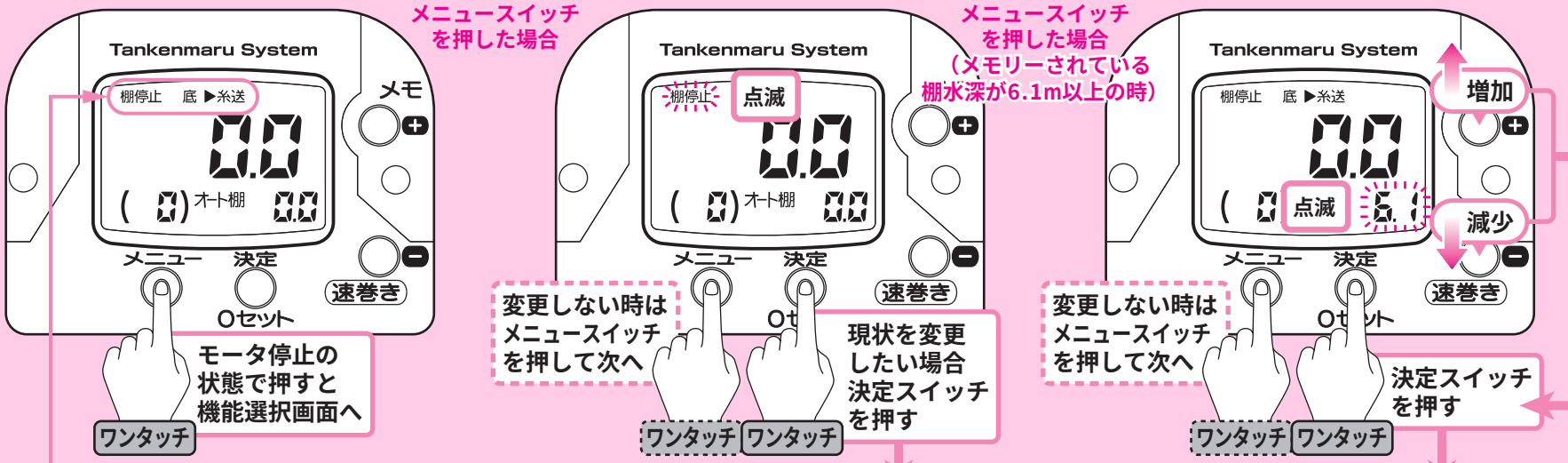
棚停止モード、底からモード、自動糸送り機能をオン/オフしたい場合に操作します。
押すごとにモード・機能の表示が順に点滅になり、さらに押すと標準画面に戻ります。
設定の変更は、変更したい機能の点滅時に下記の手順で行います。

メモリーされている棚水深が0.0mの時は
「選択画面-3」になります

標準モード → 選択画面-1【棚停止モード】 → 選択画面-2【棚停止水深の設定】

メニュースイッチを押した場合

メニュースイッチを押した場合
（メモリーされている棚水深が6.1m以上の時）



現在の機能の状態を表しています。
左側に▶が点灯している機能は現在オンになっています。図の場合、棚停止モードと底からモードはオフ、自動糸送り機能はオンになっています。

実際に釣る場合に使用するモードです。
電源ON時はこの状態です。

図は棚停止モードがオンに変更された場合です。
オフにしたい時は再度同様の操作を行います。

再度、停止水深を変更したい時は同様の操作を行います。停止水深の設定方法については34～36ページ「棚停止水深の設定」も合わせてご覧下さい。

メニュースイッチ
を押した場合

数値を変更する場合
メモ/＋スイッチと
速巻き/－スイッチ
で設定する

設定

押すたびに0.1mずつ
1秒以上押しで1mずつ
増減(表示が100m以上
になると、押すたびに
1mずつ、1秒以上押し
で10mずつ増減)

設定は6.1～999までです。

選択画面-3【底からモード】

変更しない時は
メニュースイッチ
を押して次へ

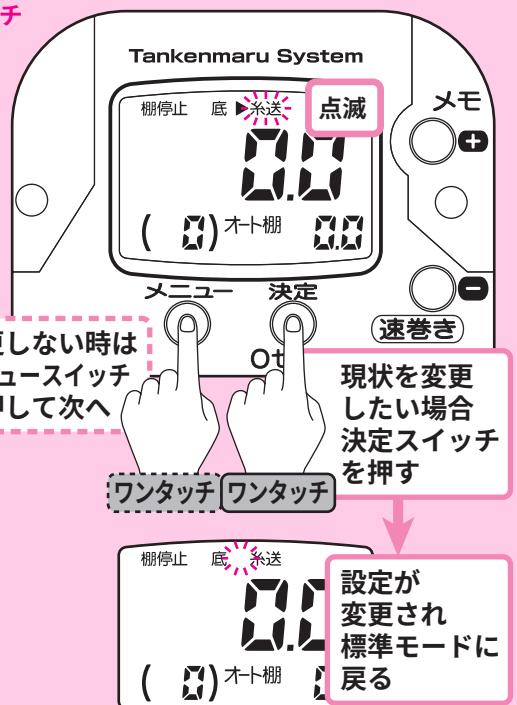
現状を変更
したい場合
決定スイッチ
を押す

設定が
変更され
標準モードに
戻る

図は底からモードがオンに変更された場合です。
オフにしたい時は再度同様の操作を行います。

メニュースイッチ
を押した場合

選択画面-4【自動糸送り機能】



変更しない時は
メニュースイッチ
を押して次へ

現状を変更
したい場合
決定スイッチ
を押す

設定が
変更され
標準モードに
戻る

図は糸送りが解除された場合です。
作動させたい時は再度同様の操作を行います。

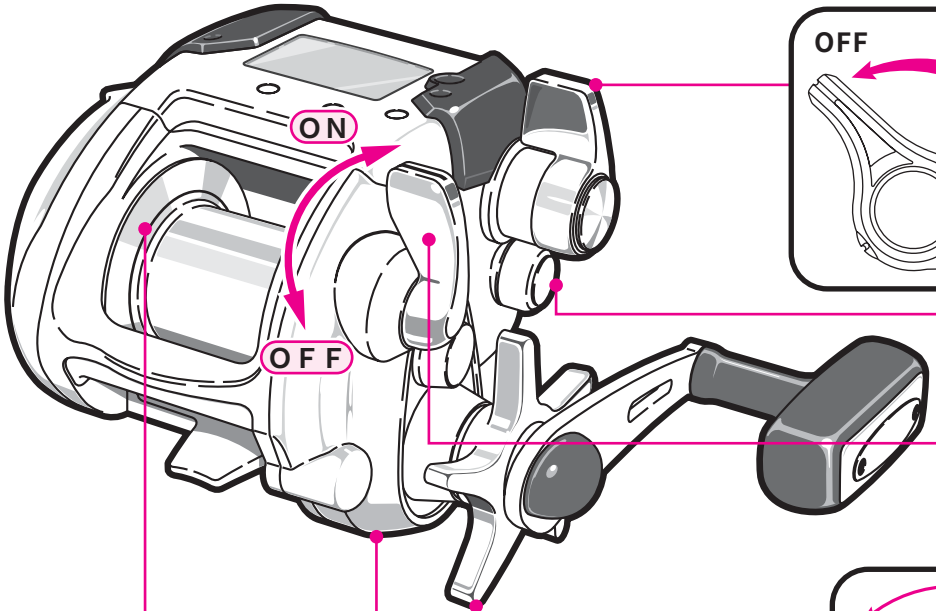
メニュースイッチを押した場合標準モードに戻ります

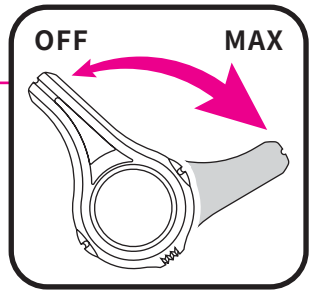
取扱説明書中のマーク・表示について

●本文の説明中に次のようなマークが出てきた場合は…

ご注意：
本文の説明中に出てくるカウンター内の数値・設定などは例として表示している場合があります。全く同じ表示になるわけではありません。

各部の名称





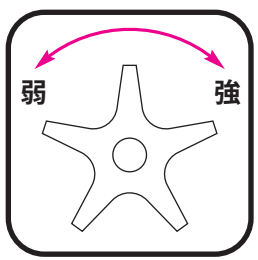
テクニカルレバー
巻き上げ速度と楽楽設定値をらくらく調整できます。船べり停止後等で、いったん停止後の再始動時には一度OFFに戻してから始動させます。
※水深表示が0.0m未満の場合に、さらに巻き上げる時には2秒以内に2回OFFにした後、巻き上げてください。
ただしシカケの巻き込みには十分に注意してください。

スプールコントロールツマミ
スプールの回転にブレーキをかけてシカケをおろす時のバックラッシュを防止します。

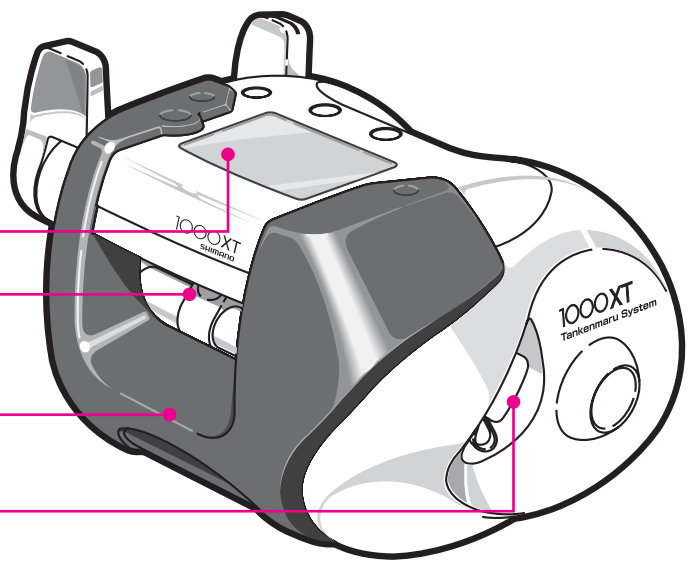
クラッチ
ハンドル正転または手で戻すとＯＮになります。
ＯＮ　：シカケの巻き上げ
ＯＦＦ：スプールをフリーにしてシカケをおろします。

4号-200m用の下巻ライン

ラインホルダー
糸を止めておくものです。



スタードラグ
魚が強く引いた時、ハリス切れをおこさないように糸を送り出す力を調整します。



デジタルカウンター

DDL（ダイレクトドライブレベルワインド）
※電動巻上げ時に指をはさまないよう注意してください。

セーフティレベルワインドカバー
（カウンタ部も保護します。）

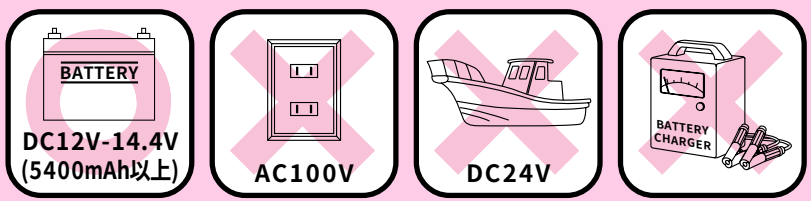
電源コネクター
※使用時は防水キャップを外して下さい。

電源とコードについて

1 お取り扱い上の注意

電源について

電源は直流（DC）12Vです。公称電圧が12Vから14.4V（リチウムイオンバッテリーなど）までのものをご使用下さい。指定外の電源（たとえば家庭用の交流100V、船装備の直流24Vなど）ではご使用できません。バッテリーチャージャーなどは絶対に使わないで下さい。



- 船に備え付けの電源を利用される時は、電圧が直流（DC）12Vから14.4Vであることをご確認ください。（船のバッテリーをご使用になる場合は、12Vを直接とるのではなく、DC-DCコンバータにより24Vから12Vに変換されたものに限ります。）また、端子がサビているとリールが正常に作動しない場合がありますので、サビを取り除いてご使用ください。
- 船電源の設備や個人でご使用されますバッテリーによっては、電源の容量が足らず本製品の一部の機能に支障をきたす場合があります。このような場合には、シマノ・スペシャル・リチウム・バッテリーを使用し、安定した電源を確保していただく事によって防止する事ができます。
- 十分に充電したバッテリーをご使用ください。
- 釣行後、バッテリーは長持ちさせるためすぐに充電してから保管し、リチウムイオンバッテリーは使い切ってから充電せずに保管してください。そして再度、釣行前に充電してご使用ください。
- バッテリーは長期間使用されますと、次第に充電できる容量が少なくなります。
  その場合は、バッテリーのみ新しいものをお求めください。

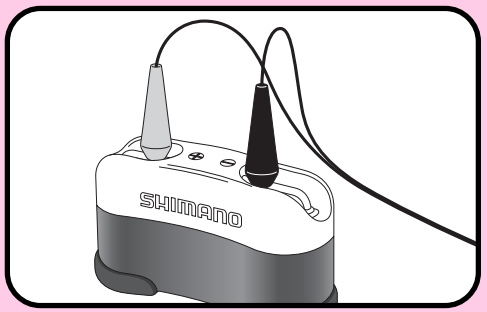
コードについて

電源との接続は、必ず付属のシマノ純正電源コードを用いてください。

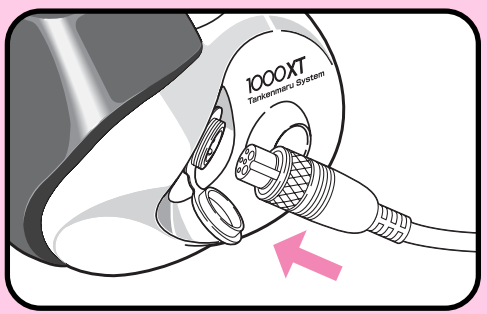
ご注意：純正以外のコードを使用されると、リールが正常に作動しない場合があります。
また、電源コードは乱暴に扱わないでください。踏んだり、折り曲げたりすると、故障の原因となります。

2 バッテリーとの接続方法

1 バッテリーに付属の電源コードを接続してください。
下図のように、赤クリップを（＋）側に、黒クリップを（－）側に、つないでください。



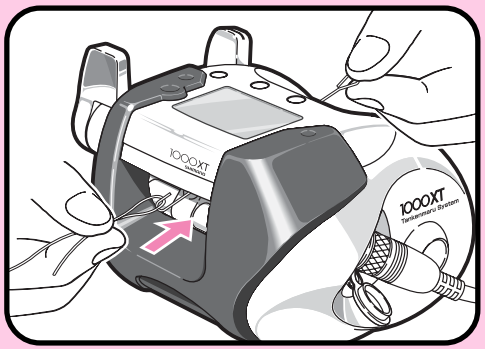
2 それから、リールと電源コードを接続します。
電源コードのプラグの凹部と、リールの電源のコネクターの凸部を合わせ奥まで差し込んで、ネジを締めてください。



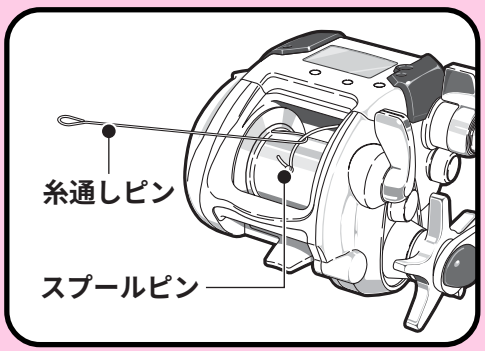
学習方法（使用するラインの実測値をリールに記憶させます。）

糸をセットします。

1 糸をレベルワインドに通します。
糸を通すときは、付属の糸通しピンを使用することをおすすめします。



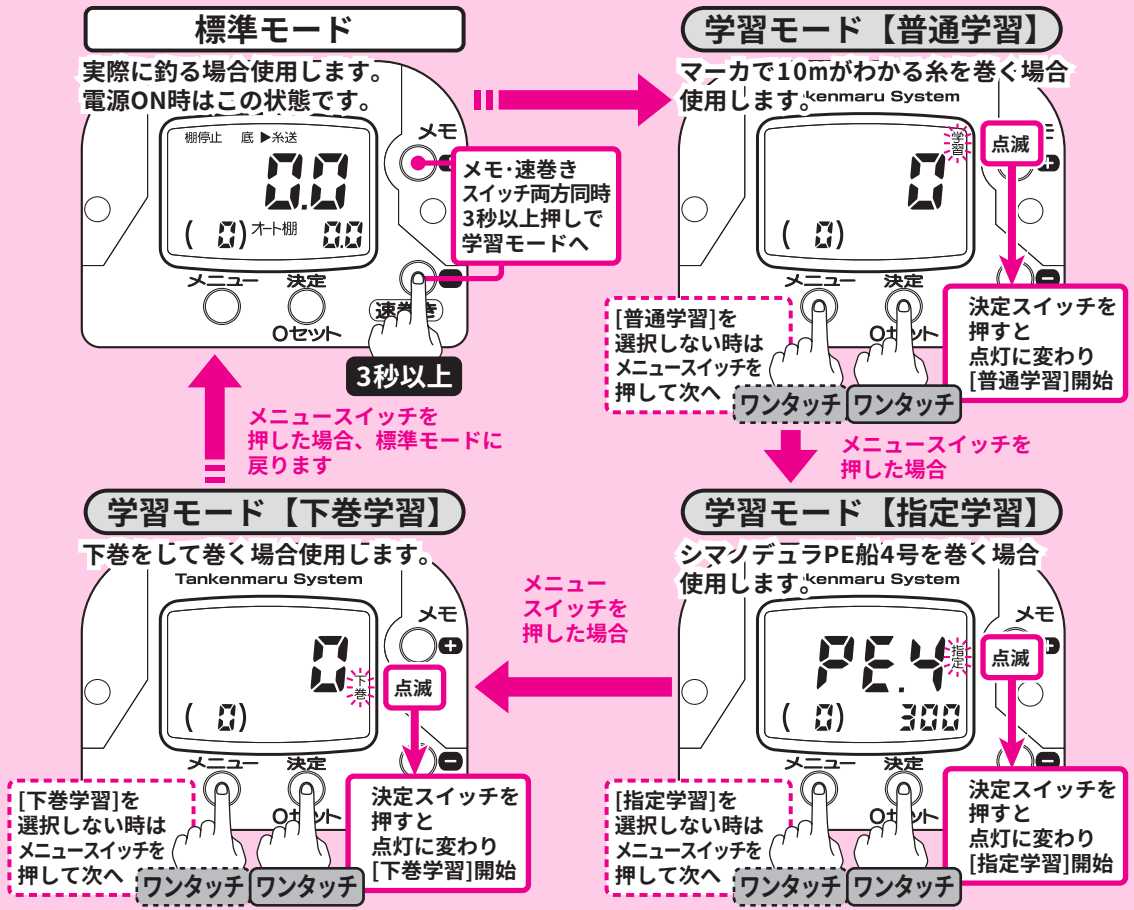
2 スプールピンに糸を結んでください。



学習方法の選択

まず下記の操作で標準モードから学習モードに入り、使用する糸の種類に合った学習方法を選択します。
それぞれの学習方法については次ページからの説明をご覧ください。

※電源をつないでいないとこの操作は行えません。
※カウント値が6m以下で操作してください。6.1m以上の時はいったん0セットしてください。



学習方法（全体の流れ）

糸を巻く前にどのようにするのか、学習の全体の流れをつかんでください。

大きくは下図の*1*～*5*までの５通りの学習方法があります。よりくわしい説明はそれぞれのページを参照してください。

※電源をつないでいないとこの操作は行えません。

下巻なしでフルに巻くなら…

1 メータごとのマーカのある糸を巻かれる場合（14～15ページ参照）

①メモ･速巻きスイッチ同時3秒以上押す
②決定スイッチを押す
普通学習

→ 糸巻きスタート～終了
テクニカルレバーかハンドルで巻上

→ 決定スイッチを３秒以上押す

→ 10m糸を引き出すマーカで確認してください

→ 決定スイッチを３秒以上押す

→ 完了

*2*はこちらへ

10mの長さの別の糸を結び手動で巻き取ってください

2 ナイロンラインなどマーカのない糸を巻かれる場合（16～17ページ参照）

3 シマノ・デュラPE船4号300mを巻かれる場合（18～19ページ参照）

①メモ･速巻きスイッチ同時3秒以上押す
②メニュースイッチ1回押す
③決定スイッチを押す
指定学習

→ 糸巻きスタート～終了
テクニカルレバーかハンドルで巻上

→ 決定スイッチを３秒以上押す

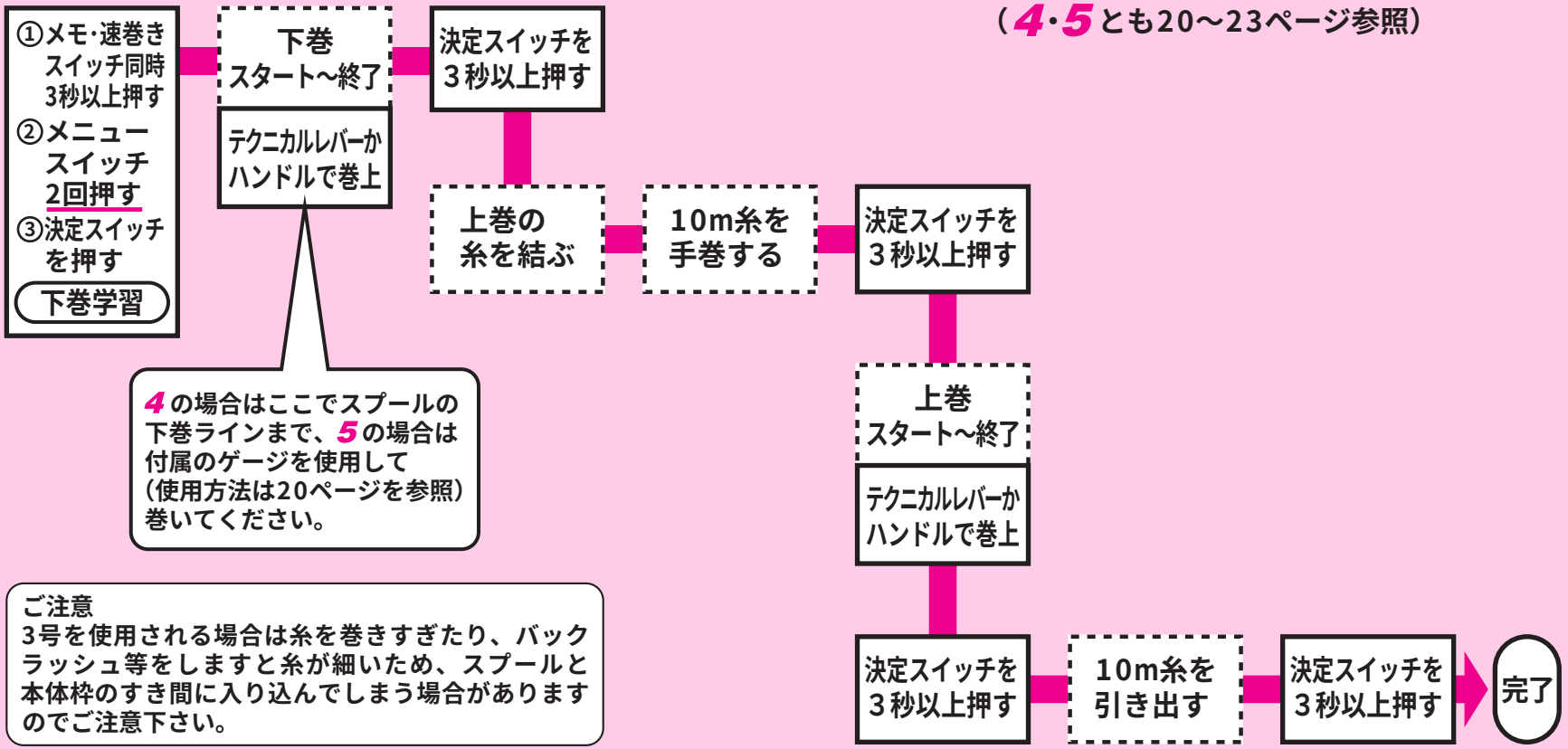
→ 完了

下巻をして巻くなら…

4 PEライン4号200mを巻かれる場合：スプールの下巻ラインを使用

5 それ以外の組み合わせを巻かれる場合（PEライン3号200m/3号300m/6号100m）：付属ゲージを使用

（**4**・**5**とも20〜23ページ参照）

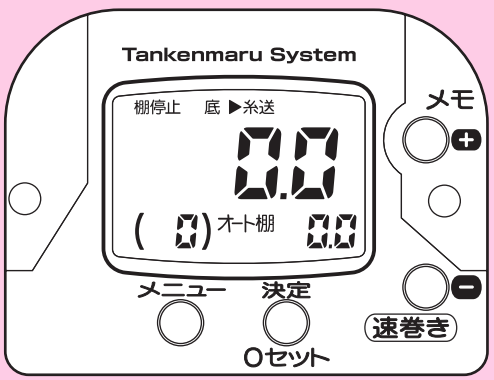


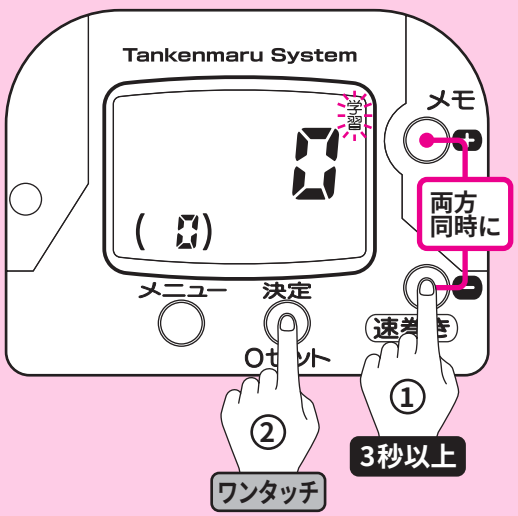
ご注意
3号を使用される場合は糸を巻きすぎたり、バックラッシュ等をしますと糸が細いため、スプールと本体枠のすき間に入り込んでしまう場合がありますのでご注意下さい。

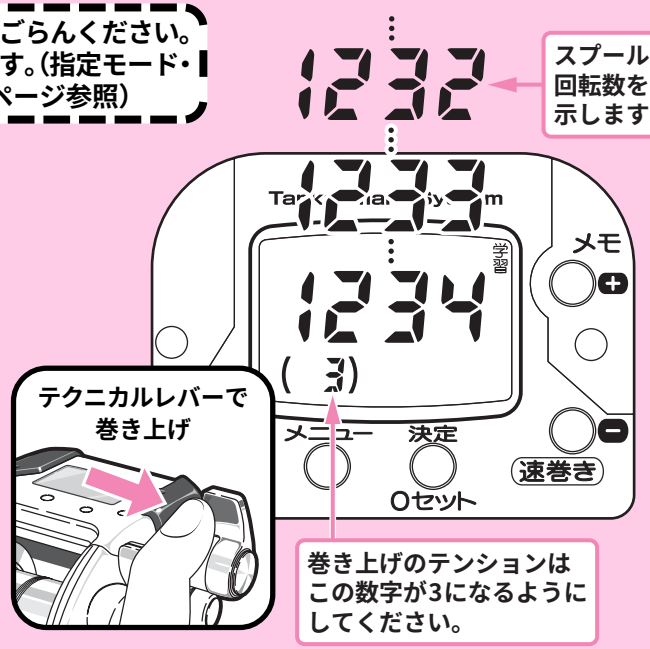
学習方法（使用するラインの実測値をリールに記憶させます。）

1 メータごとのマーカのある糸を巻かれる場合 → [普通学習]を使用します。

ナイロン糸など（メータのマーカのない糸）を巻かれる場合は16～17ページをごらんください。
また、デュラPE（新素材）4号を300m巻いたデータはすでにインプットずみです。（指定モード・18～19ページ参照）下巻を行っての学習も可能です。（下巻モード・20～23ページ参照）





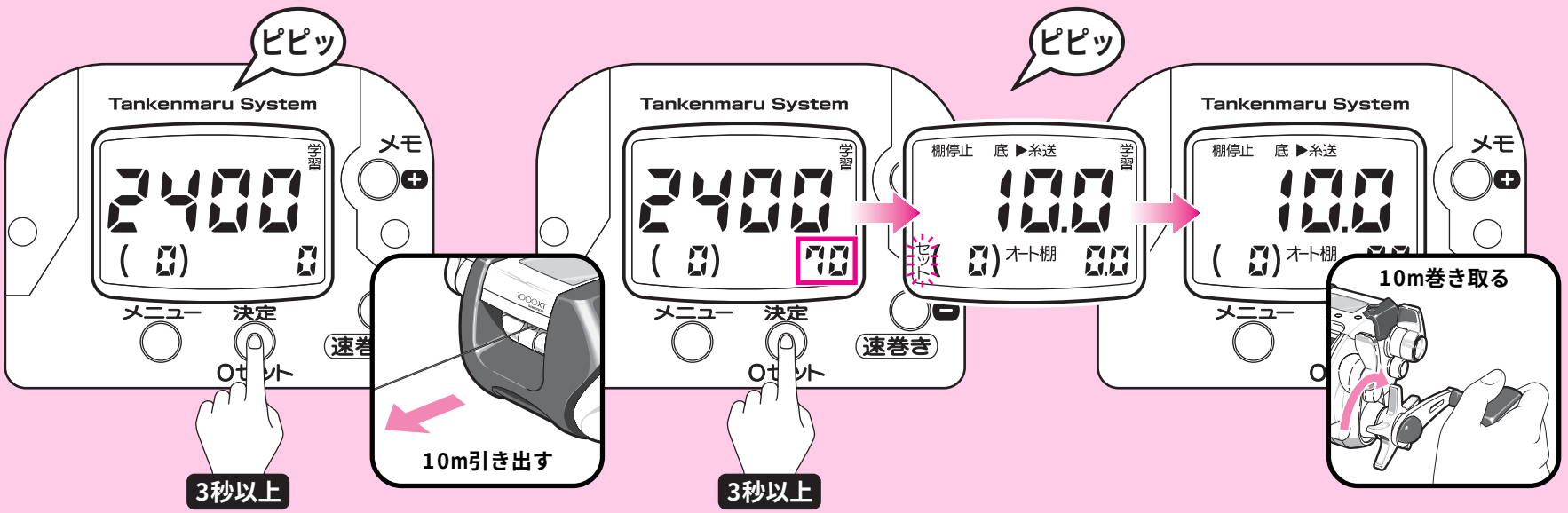


1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット（28～29ページ参照）しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
（標準モードの状態です。）

2 メモスイッチ、速巻きスイッチを両方同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。
「学習」（普通学習）が点滅します。
決定スイッチを押し、普通学習を決定します。
「学習」が点灯に変わります。
（学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは11ページ「学習方法の選択」をご参照ください。）

3 テクニカルレバーで糸を巻いてください。
回転数が表示されます。
糸巻学習時、速巻きスイッチは無効です。
巻き上げのテンションは（）内の数字が3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力（糸のテンション）を数字で表示します。数字=kgではありません。また、楽楽モード時の数値とも異なります。
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「0」にしてください。

注意:カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。



4 糸を完全に巻き終えたら、決定スイッチを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。
糸を正確に10m分引き出します。（糸の10mごとの色の変化、もしくは1mごとのマーカの数で確認します。）

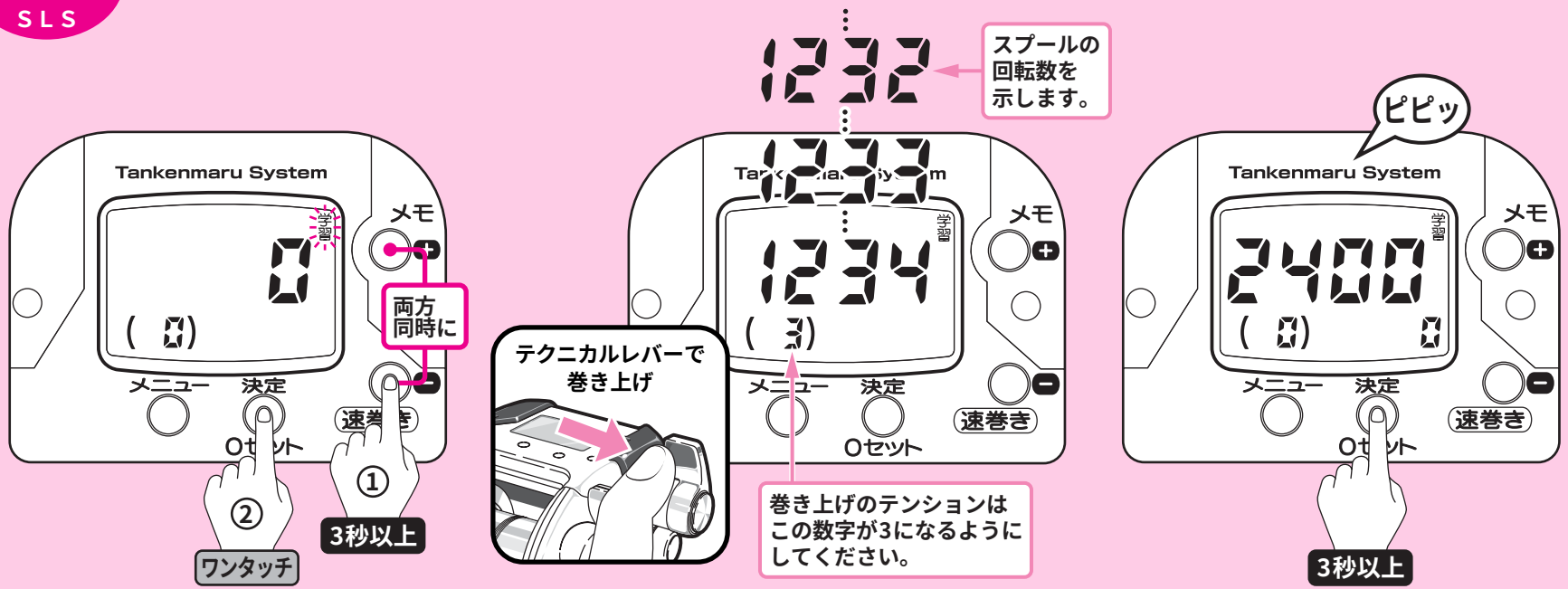
5 回転数が画面右下に表示されます。（□部分）
学習を終了するため、決定スイッチを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、「セット」が2秒間表示されます。
※各入力途中でメニュースイッチを誤って押してしまった場合、途中のデータはキャンセルとなります。もう一度最初からやり直してください。

6 表示が標準モードに戻り、学習は完了です。
（カウンターの数値と実際の糸の出た長さとでは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。）
※誤差とは、学習後1投目の誤差です。

7 引き出した10m分の糸を巻き取ってください。

学習方法（使用するラインの実測値をリールに記憶させます。）

2 ナイロンラインなどマーカのない糸を巻かれる場合 → [普通学習]を使用します。

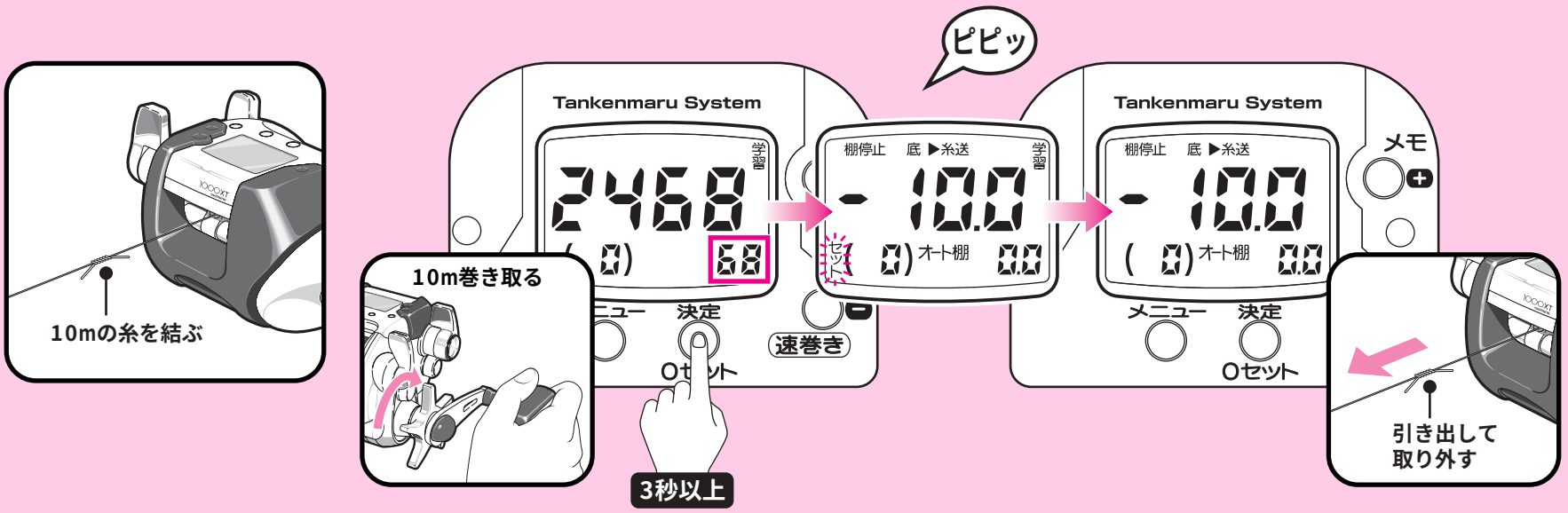


1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット（28～29ページ参照）しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
メモスイッチ、速巻きスイッチを両方同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。
「学習」（普通学習）が点滅します。
決定スイッチを押し、普通学習を決定します。
「学習」が点灯に変わります。（学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは11ページ「学習方法の選択」をご参照ください。）

2 テクニカルレバーで糸を巻いてください。
回転数が表示されます。
糸巻学習時、速巻きスイッチは無効です。
巻き上げのテンションは ( ) 内の数字が3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力（糸のテンション）を数字で表示します。数字=kgではありません。また、楽楽モード時の数値とも異なります。
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「0」にしてください。

3 糸を完全に巻き終えたら、決定スイッチを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

注意:カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。



4 巻き取った糸の先に長さ10mの別の糸を結びつけます。

5 結びつけた糸を手巻きで巻き取ります。
回転数が画面右下に表示されます。(□部分)
学習を終了するため、決定スイッチを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、「セット」が2秒間表示されます。
※各入力途中でメニュースイッチを誤って押してしまった場合、途中のデータはキャンセルとなります。もう一度最初からやり直してください。

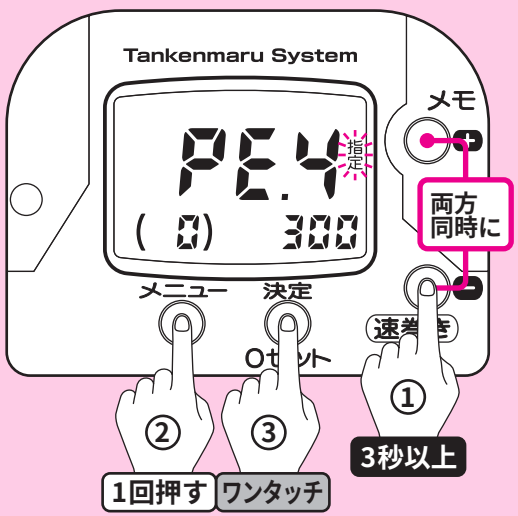
6 表示が標準モードに戻り、学習は完了です。
(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとでは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。)
※誤差とは、学習後1投目の誤差です。

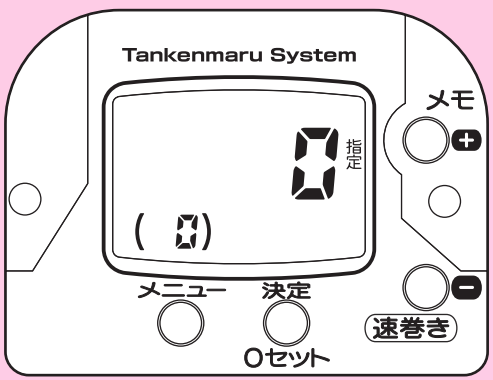
7 結びつけた糸を引き出して、取りはずしてください。

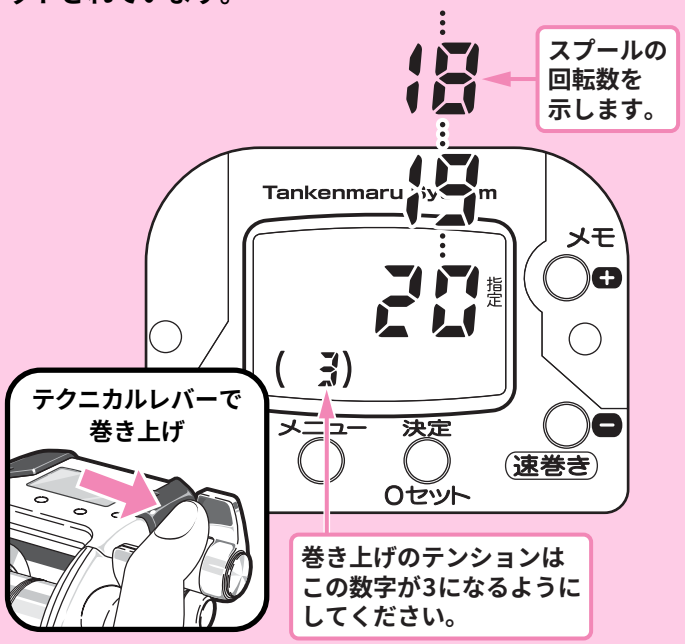
ご注意:ナイロンラインは、巻き上げ繰り返しのテンション変化にて誤差が3%以上生じる可能性があります。

3 シマノ・デュラPE 4号-300mを巻かれる場合 → [指定学習]を使用します。

このリールにはデュラPE（新素材）4号を300m巻いたデータがインプットされています。
この糸を巻かれる場合は次のような操作をしてください。





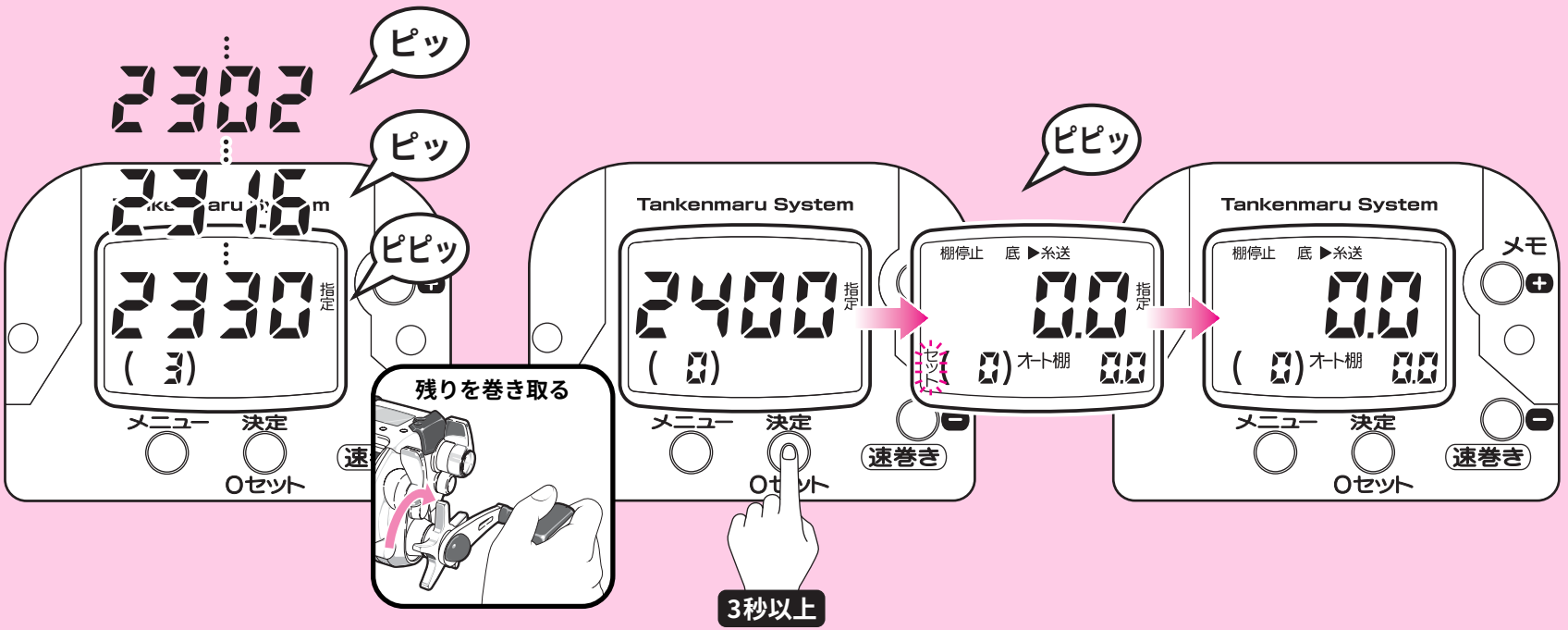


1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット（28～29ページ参照）しておきます。
メモスイッチ、速巻きスイッチを両方同時に3秒以上押して学習モードに入り、メニュースイッチを1回押してください。「指定」（指定学習）が点滅し、表示は図のようになります。
決定スイッチを押し、指定学習を決定します。
（学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは11ページ「学習方法の選択」をご参照ください。）

2 「指定」が点灯に変わり、2秒後に表示は図のようになります。

2 テクニカルレバーで糸を巻いてください。
回転数が表示されます。
糸巻学習時、速巻きスイッチは無効です。
巻き上げのテンションは（）内の数字が3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力（糸のテンション）を数字で表示します。数字=kgではありません。また、楽楽モード時の数値とも異なります。

注意:カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。



2 テクニカルレバーでの巻き上げの場合、残り約10mでアラームが鳴って、自動的にストップします。
ストップしたらテクニカルレバーを「0」にして、残りの糸を手巻きで巻いて下さい。

3 糸を完全に巻き終えたら、学習を終了するため、決定スイッチを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、「セット」が2秒間表示されます。
※各入力途中でメニュースイッチを誤って押してしまった場合、途中のデータはキャンセルとなります。もう一度最初からやり直してください。

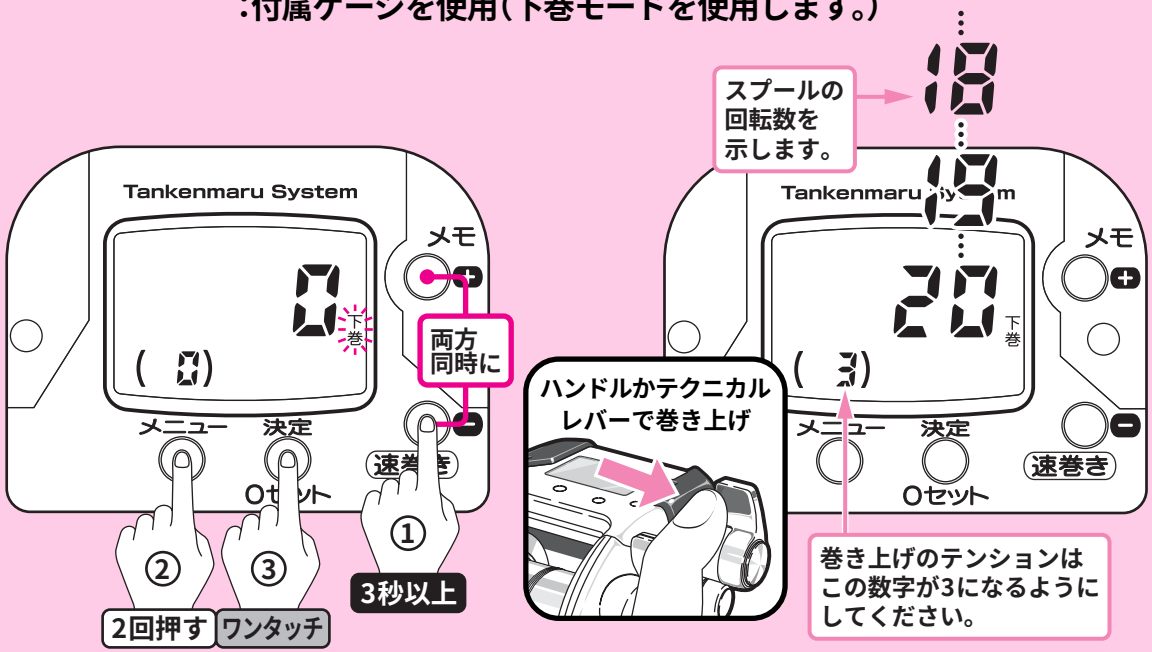
4 表示が標準モードに戻り、学習は完了です。

ご注意：他社PE4号-300mを使用される場合カウンターの誤差が3%を超えて生じる場合があります。

学習方法（下巻を行っての学習も可能です。）

4 PEライン4号200mを巻かれる場合：スプールの下巻ラインを使用 → [下巻学習]を使用します。

5 それ以外の組み合わせ（PEライン3号200m/3号300m/6号100m）を巻かれる場合
：付属ゲージを使用（下巻モードを使用します。）

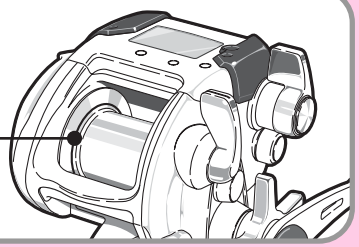


1 カウント値が6m以下で操作します。6.1m以上の時は0セット（28～29ページ参照）しておきます。メモスイッチ、速巻きスイッチを両方同時に3秒以上押して学習モードに入り、メニュースイッチを2回押してください。「下巻」（下巻学習）が点滅し、表示は図のようになります。決定スイッチを押し、下巻学習を決定します。「下巻」が点灯に変わります。（学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは11ページ「学習方法の選択」をご参照ください。）

2 右の要領でそれぞれ下巻を行います。
ハンドルかテクニカルレバーで糸を巻いてください。（糸巻学習時、速巻きスイッチは無効です。）巻き上げのテンションは（ ）内の数字が3になるようにしてください。
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「0」にしてください。

4の場合

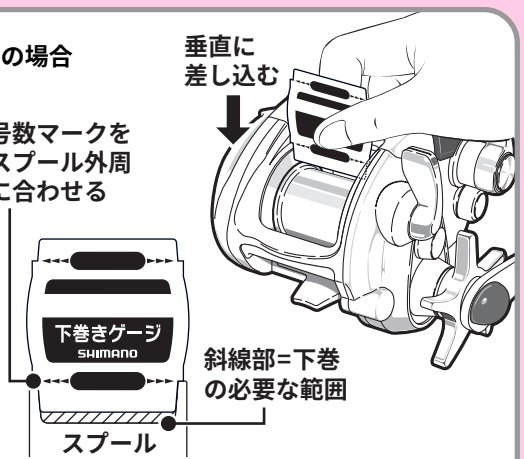
スプールの
下巻ラインまで
下巻します。



5の場合

垂直に
差し込む

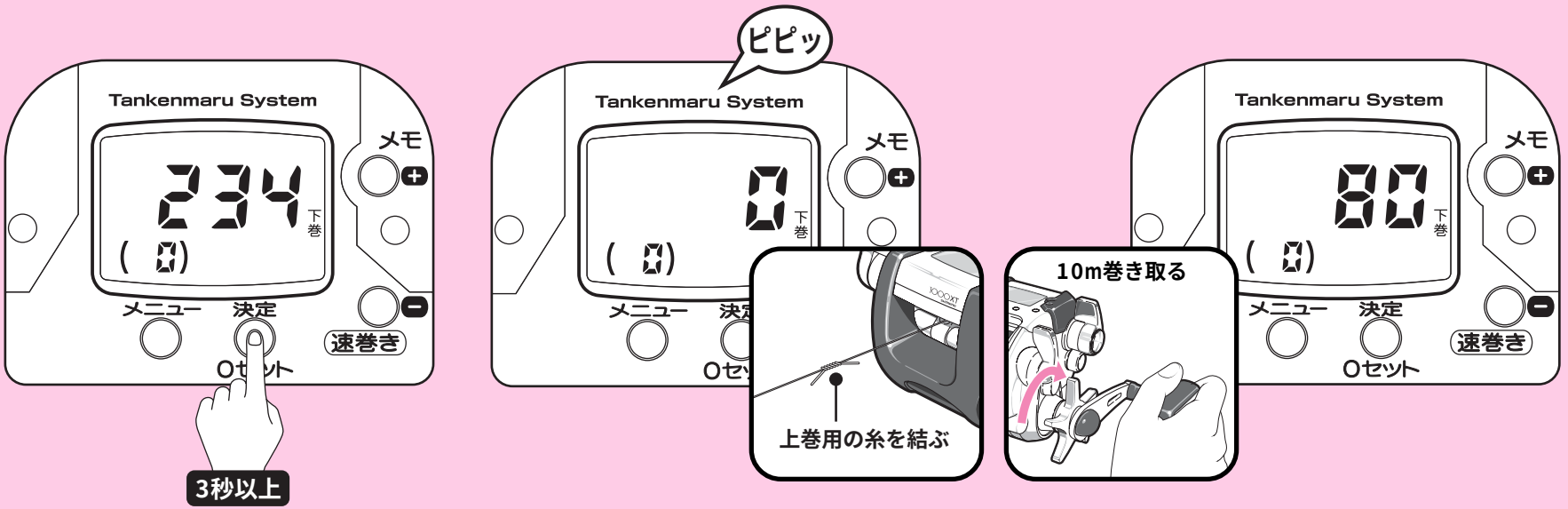
号数マークを
スプール外周
に合わせる



ゲージの使用方法

上図のように付属のゲージをスプールに垂直に差込み、号数マークをスプールの外周に合わせます。スプールとゲージの間にできたすき間（図の斜線部）が下巻をする範囲です。ゲージに当たるまで下巻をしてください。

注意:カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。



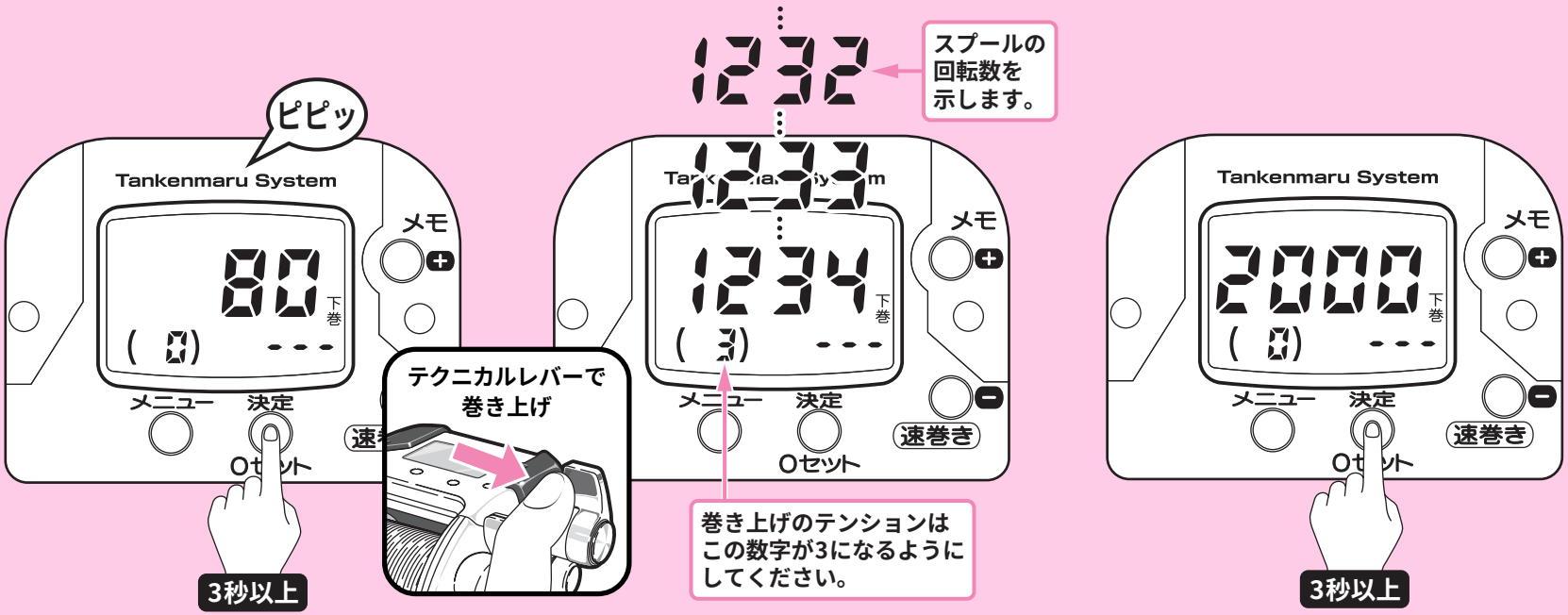
3 下巻を完全に終えたら、決定スイッチを3秒以上押してください。

4 「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。
巻き終えた下巻糸に上巻用の糸を結びます。

5 上巻糸を正確に10m分手巻きで巻き取ります。
回転数が表示されます。

次ページにつづく

注意:カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

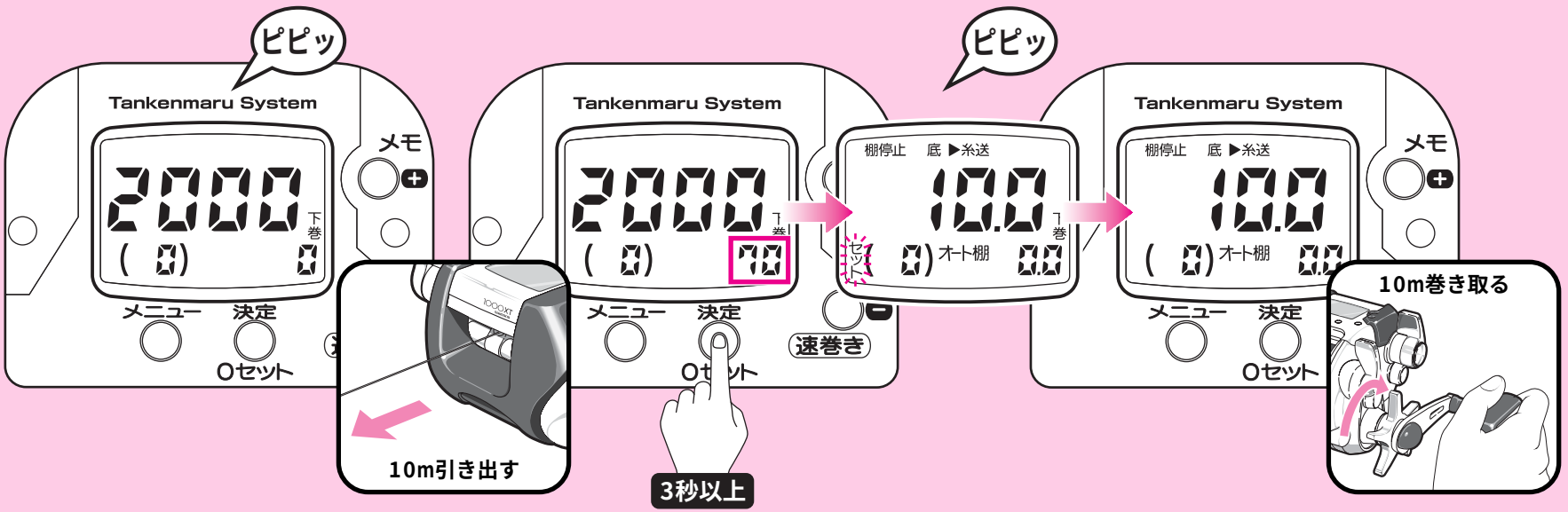


6 決定スイッチを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

7 残りの上巻糸を巻き上げます。
テクニカルレバーで糸を巻いてください。
巻き上げのテンションは( )内の数字が3になるようにしてください。
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「0」にしてください。

8 糸を完全に巻き終えたら、学習を終了するため、決定スイッチを3秒以上押してください。

注意:カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。



9 「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。
糸を正確に10m分引き出します。（糸の10mごとの色の変化、もしくは1mごとのマーカの数で確認します。）

10 回転数が画面右下に表示されます。（□部分）
学習を終了するため、決定スイッチを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、「セット」が2秒間表示されます。
※各入力途中でメニュースイッチを誤って押してしまった場合、途中のデータはキャンセルとなります。上巻分の糸を出してもう一度 **3** からやり直してください。

11 表示が標準モードに戻り、学習は完了です。
（カウンターの数値と実際の糸の出た長さとでは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。）
※誤差とは、学習後1投目の誤差です。

12 引き出した10m分の糸を巻き取ってください。

糸巻学習後の手順（早く、有効に使いこなすために…）

かんたん手順

これさえ知っていれば
とにかく使えます。

べんり手順

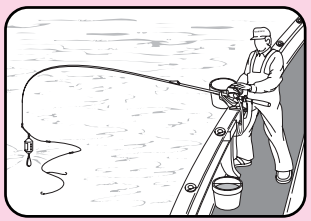
簡単で、とっても
便利です。

もっともっと べんり手順

知れば知るほどあなたの
釣りの世界が広がります。

0セット

0セット

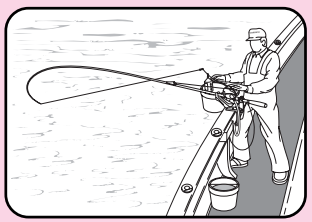


ボタンひとつでシカケが水面にあるとき0mになるよう設定。狙った水深に正確にシカケを投入できます。

くわしくはP28〜29へ!!

船べり停止

船べり自動停止



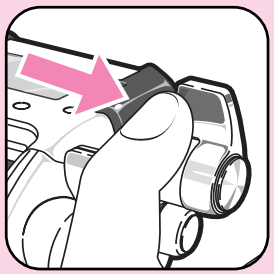
竿を立てるとシカケが手元にピタリともどる、船べり自動停止機能は手返しにダンゼン差がつきます。

くわしくはP31へ!!

テクニカルレバー

Hiスピード

テクニカルレバー



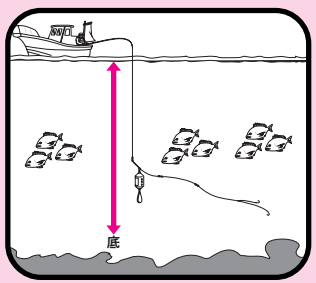
エサの付けかえをするときあるいはアタリがあれば、テクニカルレバーで、らくらく巻き上げ。ワンタッチで30段階に巻き上げ速度と楽楽設定値をらくらく調整できます。速巻きスイッチを押せば、最高速で巻き上げます。

くわしくは
P9·40〜41·5·27へ!!

メモ

棚停止

メモ・棚停止

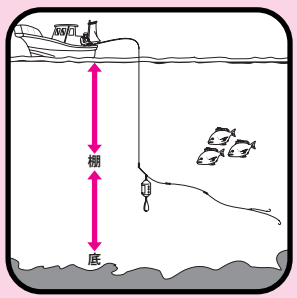


水深をメモリーすれば、次回そこにシカケがくるとアラームが鳴り、底を知らせます。
さらに、自動的に停止を行うよう設定することも可能です。

くわしくはP33～36へ!!

上・底から

上から・底から モード切替え



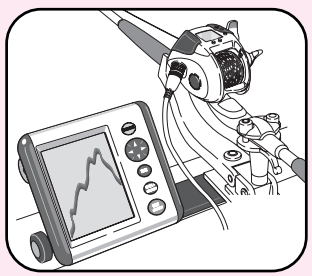
釣場、釣り方、対象魚など場合に応じたカウンター表示「上からモード」「底からモード」が切り替え可能。棚の水深が一目でわかります。

くわしくはP37～39へ!!

魚探と連動!! 探見丸システム対応

テクニック

探見丸システム



船べりで魚探が見える探見丸システムと組み合わせることで双方向に通信が可能となり、使い勝手が広がります。
シマノテクニックマスターで釣人の「さそい動作」をリールに再現させることも可能です。

くわしくはP4･42～65へ!!

応用 その1

シカケを速く落すテクニック。

特にイカを狙うときに有効なテクニックです。

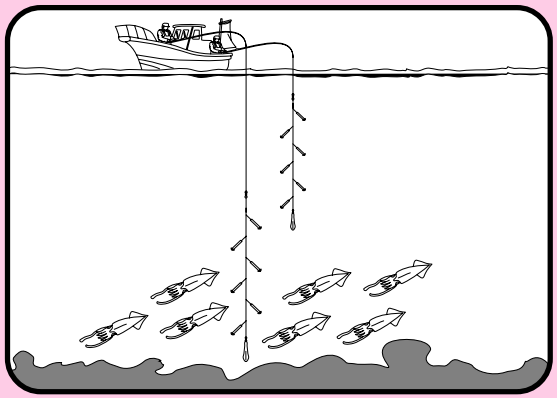
●一般的にはスプールコントロールツマミを締めて、スプールのフリー回転を少し悪くし、船の上下動による糸のバックラッシュを防ぎます。

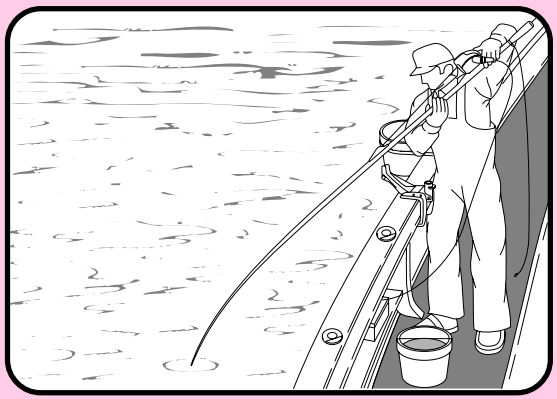
●しかし、より速くシカケを落とすためにはスプールコントロールツマミを使わずに、自分の指でスプールをサミングしてください。

この他にも次のようなテクニックがあります。

●この電動丸1000XTには、自動糸送りの機能が付いています。シカケを投入して水深が船べり停止位置+5m以上になったら、自動的にモーターのスイッチがONになります。
モーターの回転の反動で、スプールが糸の出る方向に回ります。
クラッチをリターンさせると、モーターの回転は自動的にストップします。また、この時テクニカルレバーをオフにしてもストップします。

●竿先を下に向け、竿全体を立てることで、ガイドの抵抗を少なくすることができます。（右図）



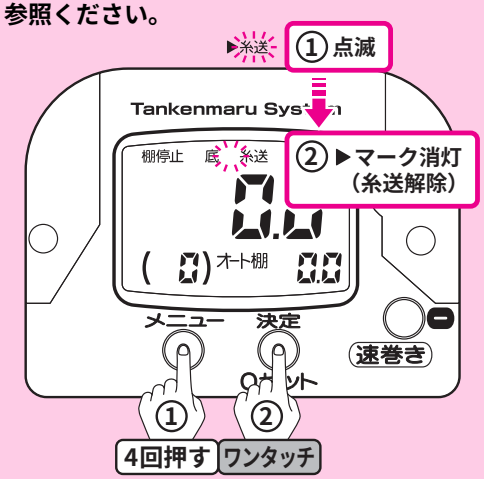


自動糸送り機能を解除する方法

電源を入れたときは自動糸送り機能が作動するようになっています。ガイドの抵抗、バックラッシュなどでこれを解除したいときは下記のような操作をしてください。

1. モータが停止した状態で、標準モードの時に、メニュースイッチを4回押します。「糸送」が点滅になります。
2. 決定スイッチを押すと▶マークが消灯し、自動糸送りが解除されます。
もう一度作動させたいときは、同様の操作を行ってください。

メニュースイッチの操作について、詳しくは6〜7ページ「メニュースイッチの操作」をご参照ください。

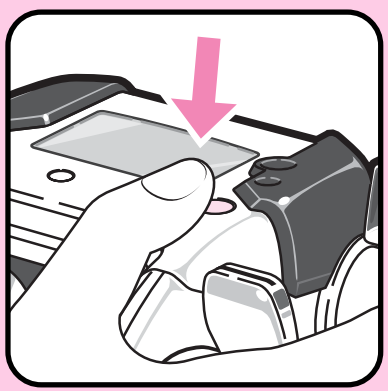


応用 その2

速巻きスイッチで スピーディーにシカケを 回収するテクニック。

手返しの時やポイントの移動時のシカケのカラ巻きを、スピーディに行なうテクニックです。

●速巻きスイッチを押しますと、船べり停止位置まで一気に高速で巻き上げます。再度ボタンを押せば止まります。
また、この時レバーを操作してOFF位置にしても止まります。

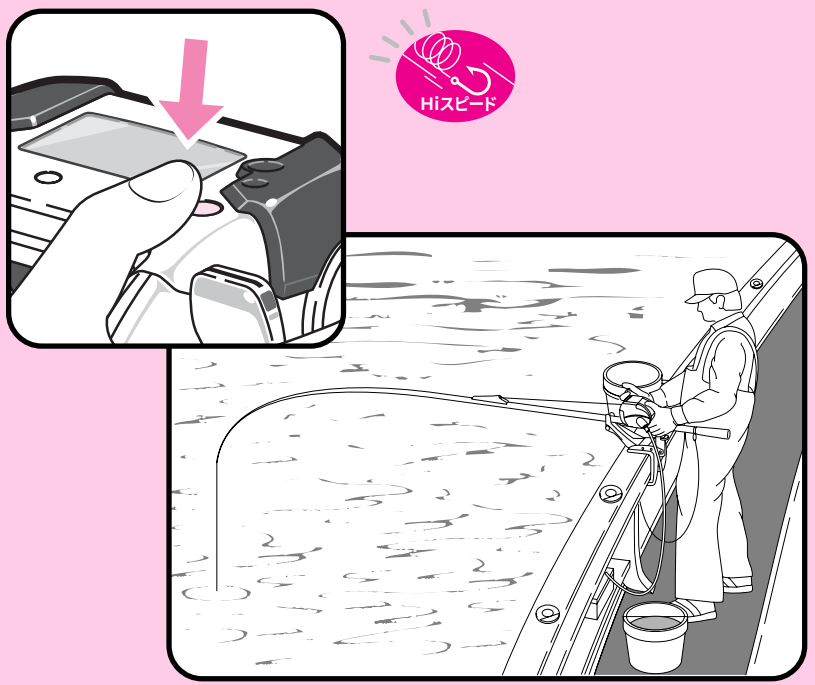


応用 その3

電動+手動で スピーディーにシカケを 回収するテクニック。

左記の方法に、手動巻き上げを合わせて行うことでスピーディな巻き上げが可能です。

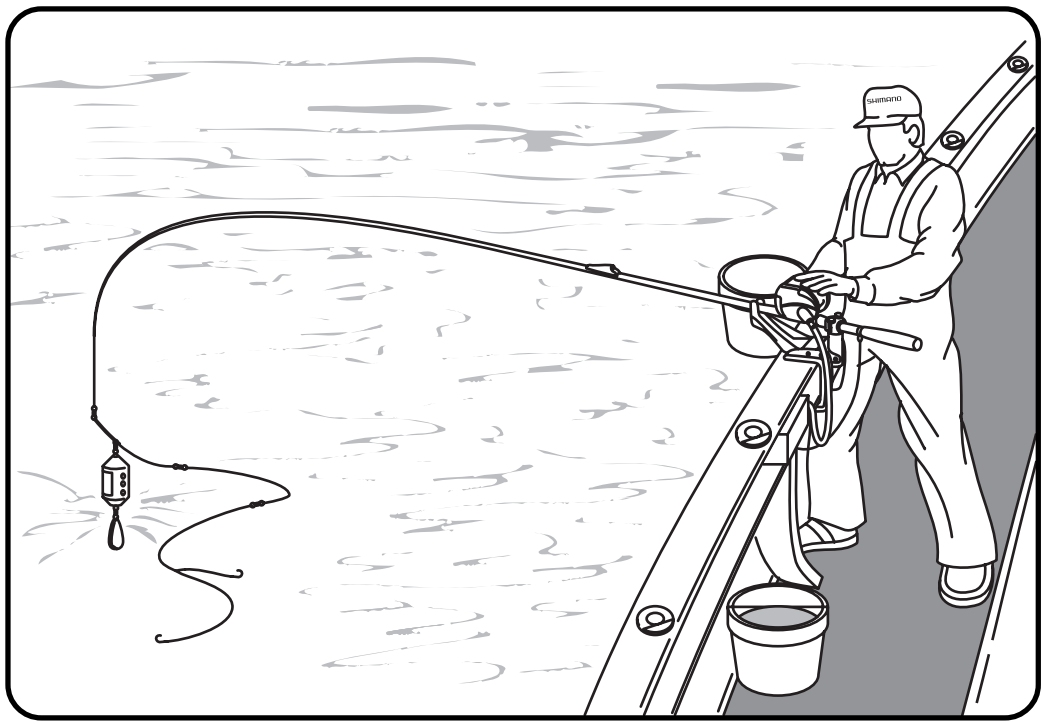
●速巻きスイッチを押して、さらに手動で巻き上げると速く巻けます。
（この時、ロッドキーパーに竿を取り付けたまま行えば楽です。）



0（ゼロ）セットの設定（釣りを始める前に必ず行なってください。）

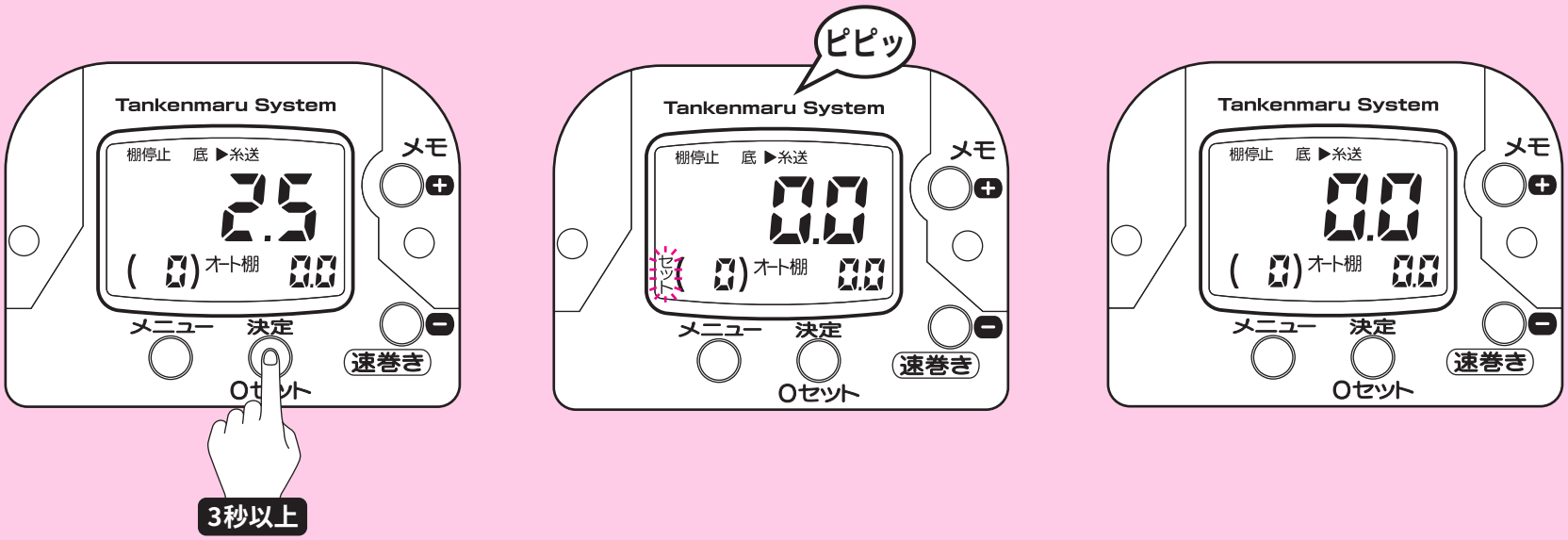
正確な棚取りを実現するために。

釣果アップには、正確な棚取りが不可欠です。
そこで「0セット」を設定します。
「0セット」とは、シカケが水面にある時を0mとして設定することです。「0セット」によって、シカケの位置が水深を示すようになり、正確な棚取りを可能にします。



シカケが水面にある時を0mとして設定します。

0セットをしてみましょう。



1 シカケを水面に合わせ、0セットスイッチを3秒以上押して下さい。

2 「ピピッ」のアラームが鳴り、上図のように表示が変わります。

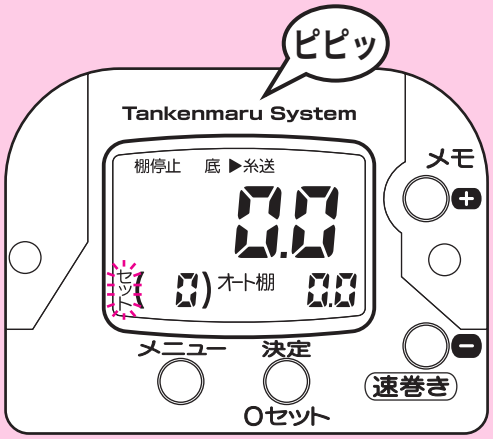
3 これで0セットは完了です。

高切れの補正

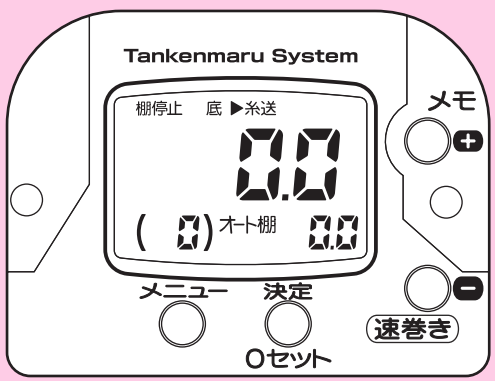
高切れセット

高切れした場合も、簡単操作で補正が可能です。

1 シカケを結びなおし、水面にシカケを合わせて、0セットスイッチを3秒以上押します。



2 上図のように表示が変わります。

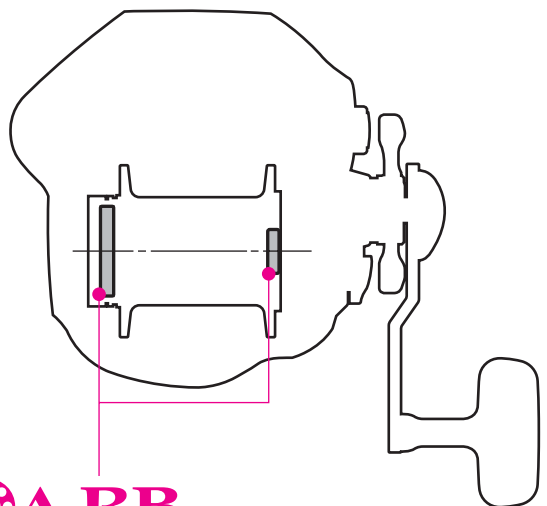


3 これで、コンピュータが自動的に高切れした位置からの実測値表示にプログラムを変更します。

A-RB（アンチラストベアリング）について

A-RB（アンチラストベアリング）で さらなるスプールフリーを実現!

スプールの両端に「表面改質」により、高耐蝕性金属を表面に高密度に密集させ、安定した「不動態層」が表面を確実にガードし、錆びから守るベアリングA-RBが内蔵されたことにより、シカケ落下時のスプールフリーが更に軽くなりました。
それによって電動リールでは困難と言われた完全フカセも攻略。また、完全フカセでよく言われるレベルワインド部分での糸ガラミを完全にシャットアウトする、セーフティーバーとレベルワインドのベストバランスを実現させました。



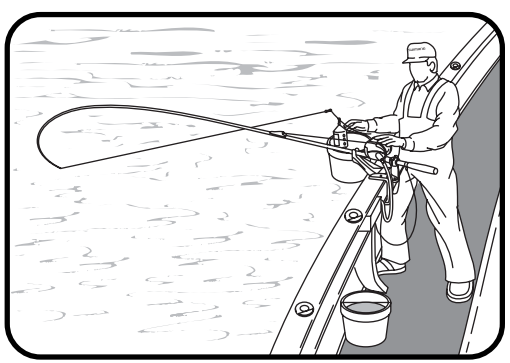
A-RB（アンチラストベアリング）

船べり自動停止について

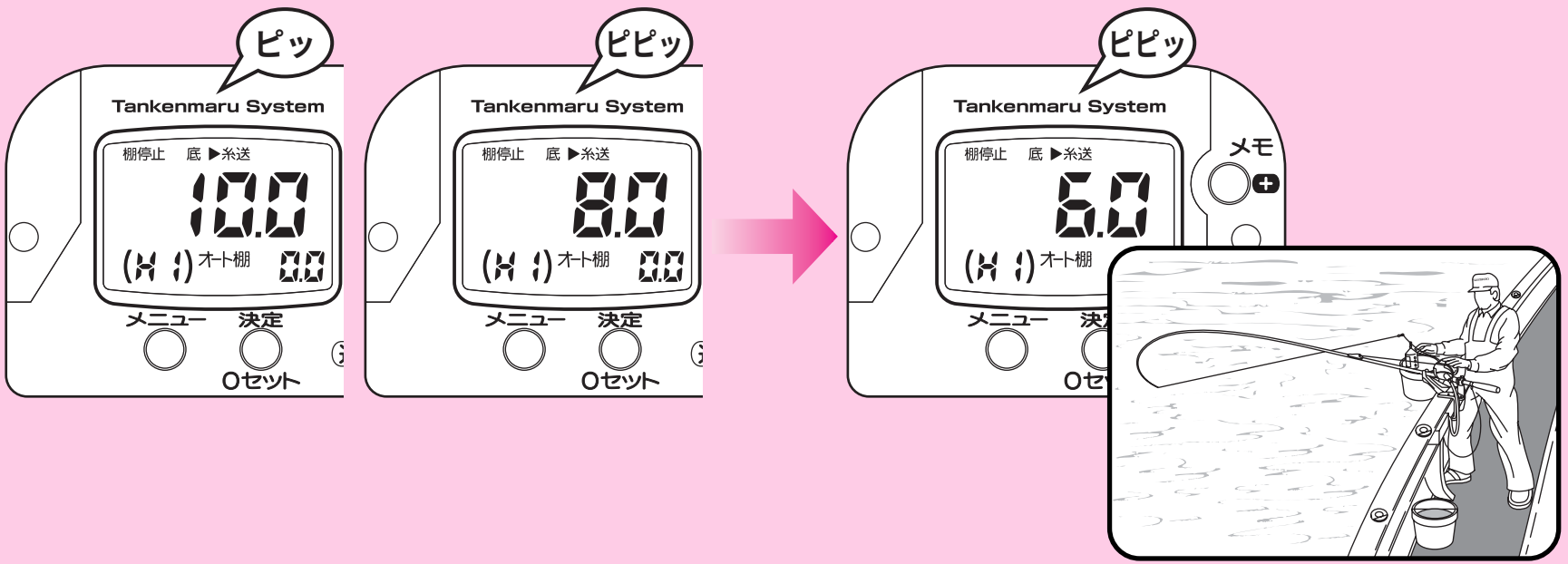
電動巻き上げ停止後、竿を立てればシカケが手元にもどります。

船べり停止後、竿を立てたときにシカケが手元にくるように自動的に設定されます。
※電源投入時初回のみ6mで船べり停止します。2回目以降は5秒以上止めていた位置を次回の船べり停止位置として、コンピュータが自動的に記憶します。
（この機能は1m～6mの範囲で作動します。水深表示がマイナスの時は、安全のため1mの設定になります。）

●ワンポイントアドバイス
短い竿、例えば1mの竿で足場の高い船のミヨシで釣りをされる場合、通常のように海面で0セットをされますと、船べり停止機能が働く1～6mの範囲に入らなくなります。そんな時はシカケを穂先位置まで巻き上げ、その位置で0セットをされますと手元にシカケが来るようになります。その際、海面で0セットされていない為、竿先から海面までの距離が実際にはズレてしまいます。



船べり自動停止位置の4m手前からアラームでお知らせします。



1 セットされている船べり自動停止位置の4m手前から、2mごとにアラームでお知らせします。
図は速巻きスイッチで巻き上げた場合の表示です。

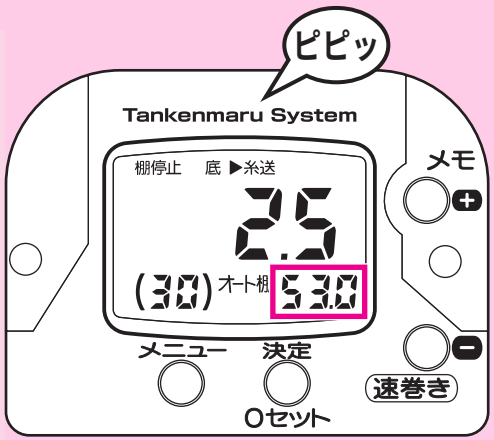
2 船べり自動停止位置（この場合は6.0m）で「ピピッ」のアラームが鳴り、自動的に巻き上げを停止します。
船べり停止後、竿を立てるだけで手元にシカケがくるので、すばやく上図のようにとりこむことができます。

棚または底の水深をメモリーする方法

メモ

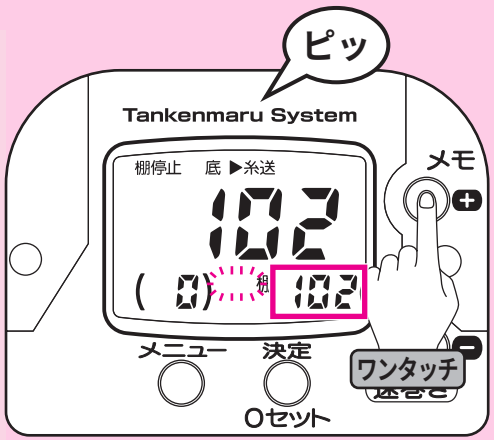
メモリーした水深の4m手前からアラームでお知らせします。

オート棚メモ

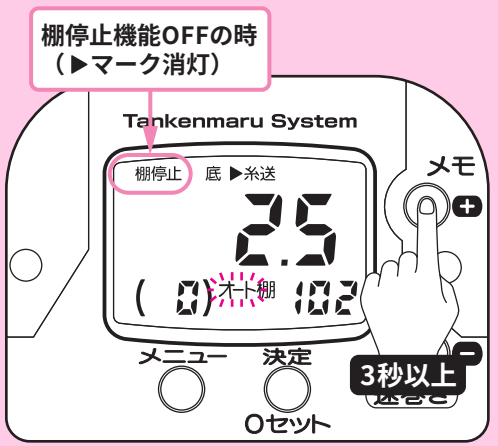


シカケが6秒以上停止していた水深（6.1m以上の場合）は、棚として自動的にメモリーされ、船べり停止時に画面右下に表示します。（□部分）
複数あれば一番最後の水深、6秒未満停止の場合は最も深かった水深をメモリーします。
図は上からモードの場合の表示です。
カウンター内の数値は例です。

手動棚メモ



シカケをメモリーしたい水深（6.1m以上）に合わせ、メモスイッチを押します。
「オート」の表示が消え、上図ですと102mの水深がメモリーされます。（□部分）
底からモードの場合、同時に現在の水深が0.0mになります。
このセットは何回でも入れ換えが可能です。



手動棚メモの解除方法

棚停止機能OFFの時、船べり停止時にメモスイッチを3秒以上押してください。
「オート」が表示され、オート棚セット機能が復活します。

（1日以上、電源を入れずに放置すればカウント値はリセットされます。）

次ページにつづく

棚停止の設定

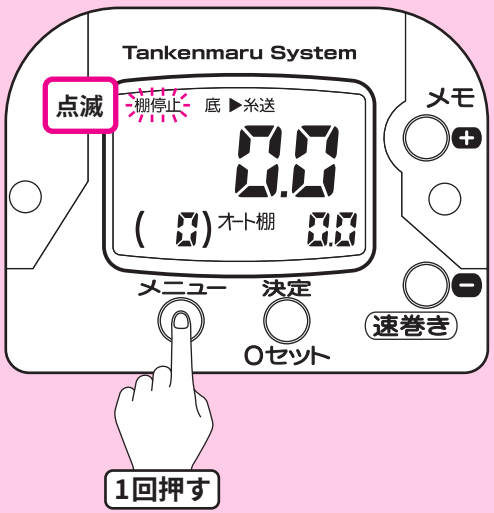
棚停止

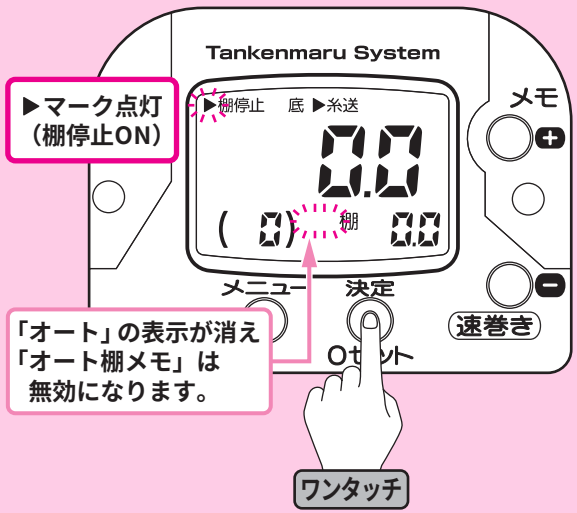
メモリーした水深でシカケの自動停止が可能です。

棚停止させたい場合はメニュースイッチで棚停止モードをONにしてください。必要に応じて停止水深の設定を行います。

棚停止のON/OFF方法

電源を入れたときは棚停止モードはOFFになっています。ONに変更する場合は下記の操作を行ってください。





●ご注意
- リールが低温（0℃以下）になりますと、モーターが作動しなくなったり、棚停止しなくなる場合が生じます。
- 棚停止の精度については、シカケ落下の早さにより±0.3m位の誤差が生じる場合があります。
- レバーによる強制糸送り時は棚停止しません。
- ハンドルやクラッチレバーを押さえ込むと、棚停止がきかなくなりますのでご注意ください。

1 モータが停止した状態で、標準モードの時に、メニュースイッチを1回押します。「棚停止」が点滅になります。（メニュースイッチの操作について、詳しくは6～7ページ「メニュースイッチの操作」をご参照ください。）

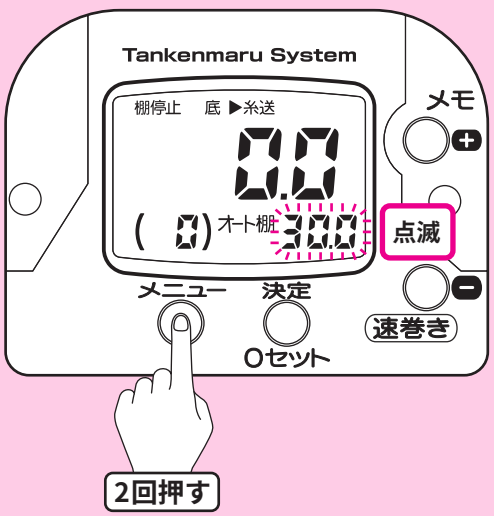
2 決定スイッチを押すと▶マークが点灯し、棚停止モードになります。これでメモリーした水深（画面右下の数値・6.1m以上）でシカケが自動的に棚停止するようになります。（水深を設定する方法は次ページをご覧下さい。）棚停止を解除したいときは、同様の操作を行ってください。

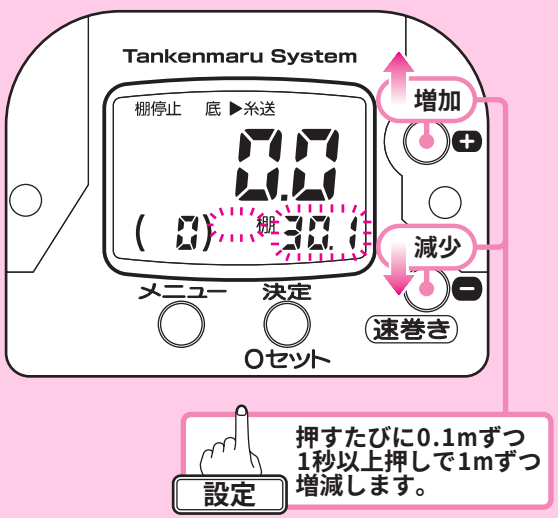
棚停止モードがONの場合、前ページ「オート棚メモ」は無効になります。また、「手動棚メモ」については、底からモードの場合メモスイッチを押しても水深はメモリーされず、現在の水深のみ0.0になります。

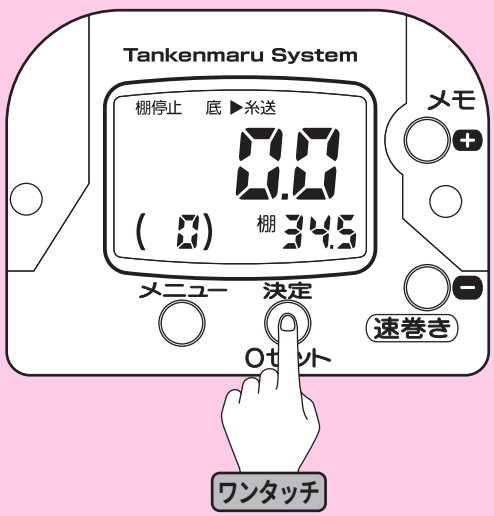
棚停止水深の設定

※この機能は棚水深6.1m以上の時に有効です。

●ワンポイントアドバイス　実際、棚停止をご使用になる際には、止めたい水深の時にメモで棚を入力し棚停止させるか、止めたい水深付近でメモを押し、メモ/＋スイッチと速巻き/－スイッチで微調整をすると簡単にできます。棚を調整する際には下記を参照してください。







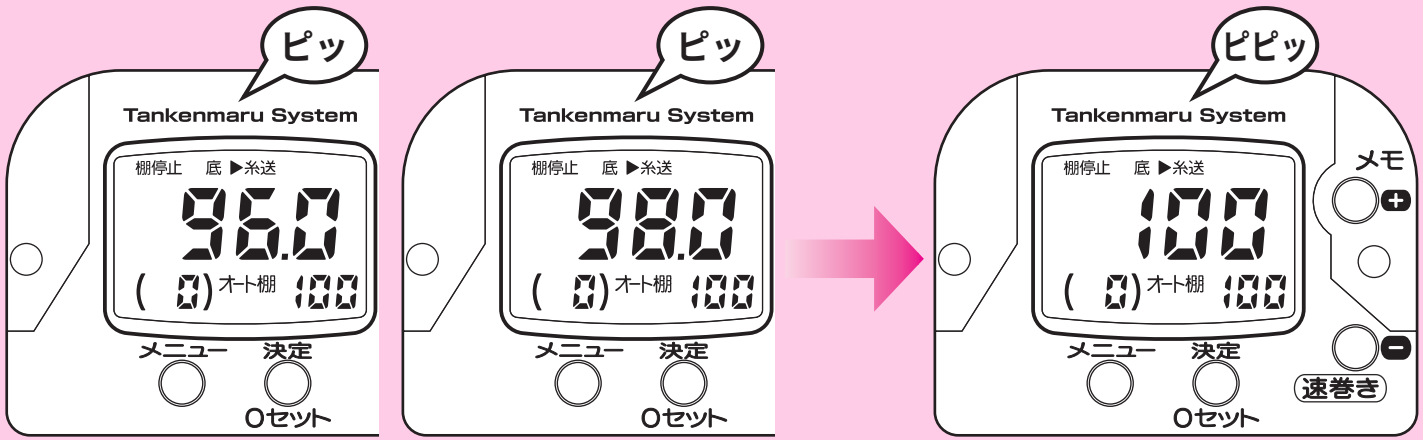
1 モータが停止した状態で、標準モードの時に、メニュースイッチを2回押します。画面右下の数値が点滅になります。棚停止する水深はこの数値で設定します。
ただし、棚停止は6.1m以上の設定の場合有効です。

2 メモ/＋スイッチと速巻き/－スイッチで画面右下の数値を増減させ、停止させたい水深（m）に合わせます。
スイッチは押す度に0.1mずつ、1秒以上押されると1mずつ増減します。
（表示が100m以上になった場合は押す度に1mずつ、1秒以上押されると10mずつ増減します。）設定は6.1～999までです。
水深の入力を始めると「オート」の表示は消灯します。

3 決定スイッチを押すと設定した水深が点滅から点灯に戻り、水深がメモリーされます。
停止水深を変更するときは、同様の操作を行ってください。

メモアラームと棚停止

シカケがメモ水深にくると「メモアラーム」によって知らせてくれます。
棚停止をONに設定した場合は、アラームとともにシカケが自動停止します。



1 シカケをおろす方向のみ、セットされているメモ水深の4m手前から、2mごとにアラームでお知らせします。

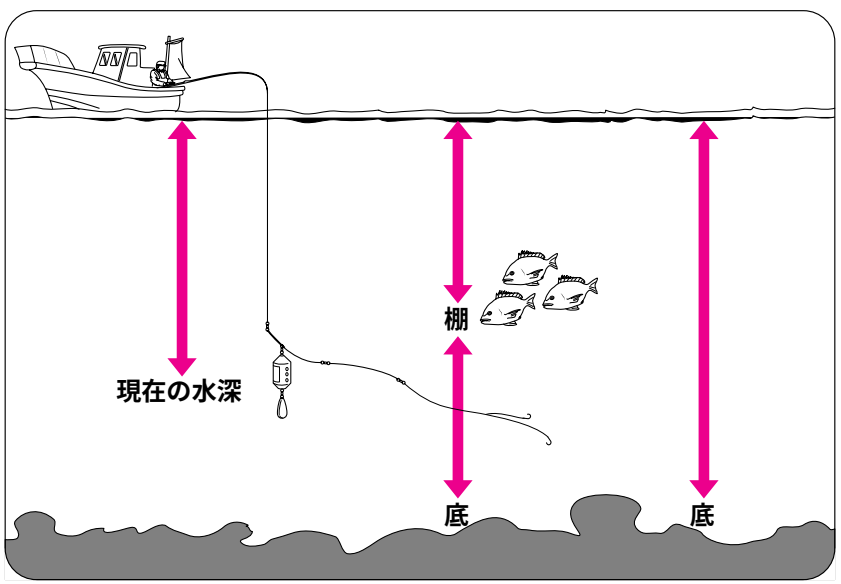
2 メモ水深（この場合は100m）で「ピピッ」のアラームが鳴ります。棚停止ONの場合は糸送りが5m手前でOFFになり、シカケが自動的に棚停止します。
1回の上げ下ろしにつきアラームは１回のみですが、棚停止はシカケをおろす度に行われます。
いったん6.0m未満まで巻き上げたり、0セットを行ったりした場合、再度アラームがメモ水深をお知らせします。

ご注意：棚停止が失敗しますと、アラームが鳴るようになっております。しかしながら道糸の出が極端に遅い場合、例えば日本海で行われる完全フカセのような場合、アラームが鳴らない恐れがあります。

２通りの棚の取り方・上からモードと底からモード

棚取りに便利な「上からモード」と「底からモード」。

船釣りで釣果を上げるコツは、いかに正確に魚のいる水深（すなわち棚）にシカケを降ろすかということです。
最近は高性能の魚群探知機により、魚のいる水深が正確にわかります。
通常、船長がこの棚を教えてくれます。
この場合釣場、釣り方、対象魚などによって水面から棚が指示される場合と、海底すなわち底から棚が指示される場合の二通りがあります。
ＮＥＷ電動丸1000XTは、上から棚をとるのに便利な「上からモード」と底から棚をとるのに便利な「底からモード」の２つのモードを備えています。
その日の釣りに合わせて、切り替えてご使用ください。

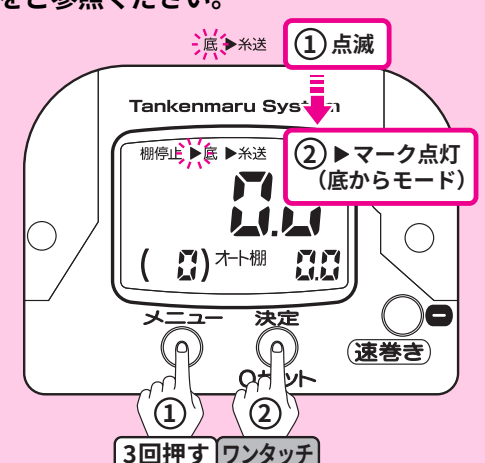


モードを切り替えるには…

電源を入れたときは上からモードになっています。モードを変更したいときは下記の操作を行ってください。

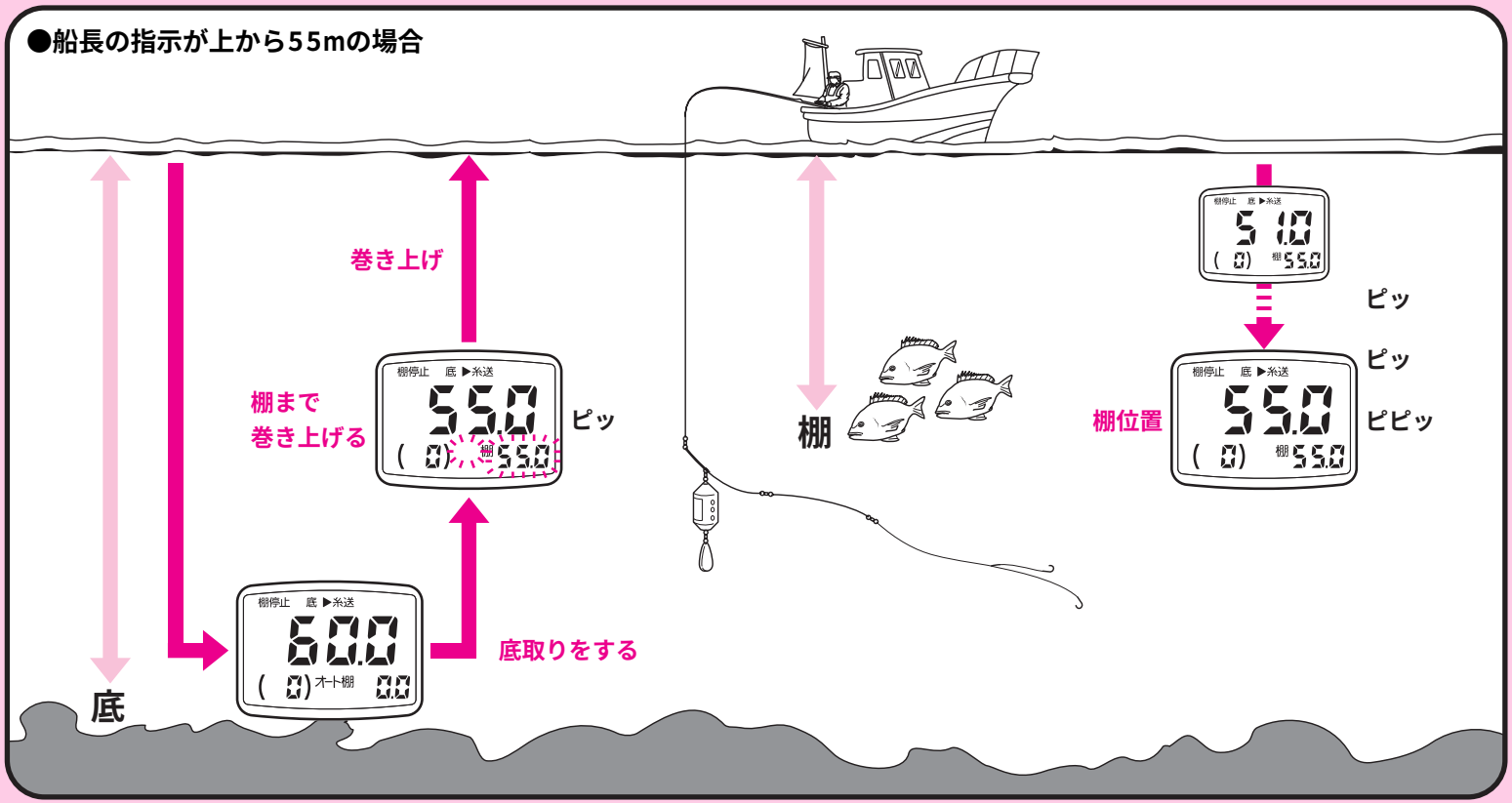
1. モータが停止した状態で、標準モードの時に、メニュースイッチを「底」が点滅するまで押してください。
2. 決定スイッチを押すと▶マークが点灯し、底からモードになります。
   上からモードに戻したいときは、同様の操作を行ってください。

メニュースイッチの操作について、詳しくは6～7ページ「メニュースイッチの操作」をご参照ください。



次ページにつづく

上からモードの実釣編

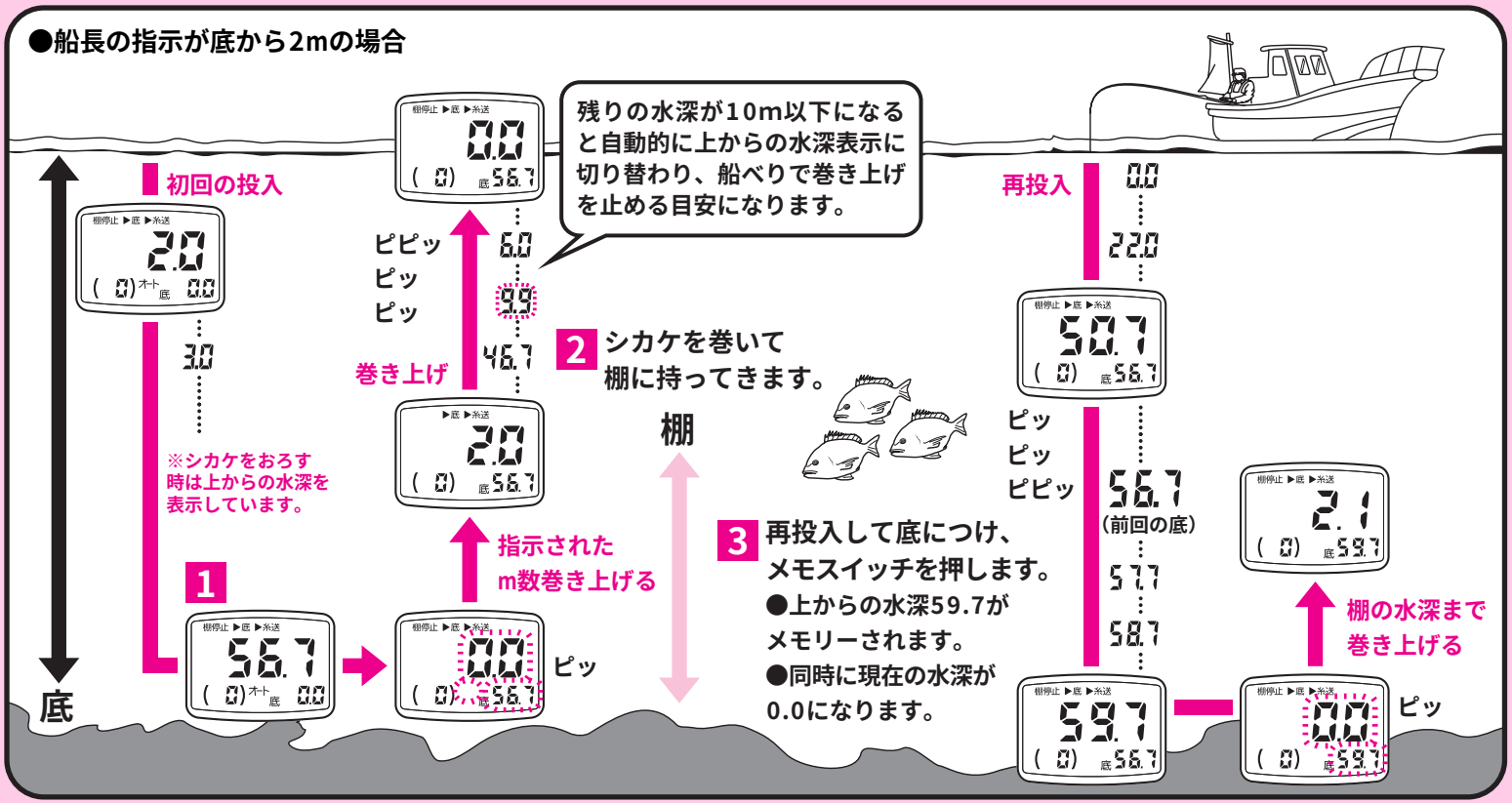


1 シカケをいったん底につけます。

2 シカケを巻いて棚に持ってきます。
メモスイッチを押して棚をメモリーします。
以上は底取りをして底の水深を知りたい場合ですが、直接指示の水深にシカケを投入しメモスイッチで棚をメモリーすることも可能です。

3 再度投入した際「メモアラーム」によって、シカケがメモリーした水深にきたことを知らせてくれます。

底からモードの実釣編



1 シカケをいったん底につけ、メモスイッチを押します。
●上からの水深がメモリーされます。
●同時に現在の水深が0.0になります。リールを巻き上げるとプラスにカウントし、底からの水深を表すようになります。

解説！
船長の指示が「底から何m」といった場合、釣り人はシカケをいったん底まで降ろして指示されたm数だけシカケを上げます。（通常この時にコマセを振ります。）

楽楽モード

楽楽モードとは?

「楽楽モード」は、お客さまが設定したテンションを一定に保とうとする機能です。つまりラインにかかるテンション（負荷）をリールが感知して、モーターの回転速度を自動的に変化させ、魚の引きに応じた巻き上げ方をします。

つまり

●モーターと魚の瞬間的な引っ張り合いを避けてくれる。	●波が荒くて竿の操作では追いつかないときにも便利。
●魚が突っ込んだり船が急に持ち上がったりしたときの急なテンションの上昇に応じてモータースピードが遅くなって調節してくれる。	●ポンピングで竿をおろしたときなど急なテンションの降下に応じてモータースピードが速くなってシカケにたるみができない。

これなら楽だし、手巻き感覚で安心です!

さらにこんなメリットも…

●電動と魚の瞬間的な引っ張り合いがなくなることによって、シカケ本来の強度が得られます。（一度１号のハリスを瞬間的に引っ張るのとじわっと引っ張るのとどちらが強いか試してみてください。）

⚠ その際手袋等をして、ケガのない様ご注意ください。

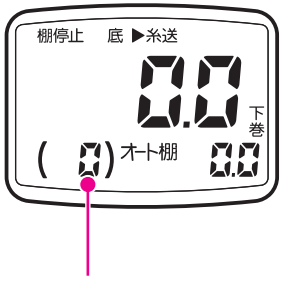
楽楽モードの設定方法

●テクニカルレバーで設定します。
巻き上げ設定は、全部で30段階設定できるようになっています。
テクニカルレバーの設定値はカウンターに表示されます。（右図）

●設定値1～30の中で1～4におきましては速度一定モードが入っておりますので「スローなさそいをしたい!」という場合は1～4を使われると非常に便利です。

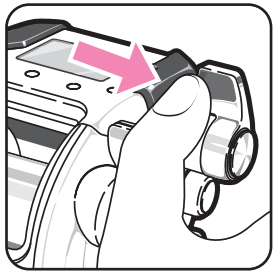
設定値	巻上速度(m/分)
1	4
2	8
3	12
4	16

●また、5～30は楽楽モードになっておりますので、魚とのやりとりには最適です。



テクニカルレバー位置を表示します。

■テクニカルレバー
楽楽モードのテンションの設定を行います。



●テンション設定数値　対象魚別の目安
テンションの数値は、使用するハリスおよびシカケを考慮して設定してください。
対象魚別の設定値は右記の一覧表を参考にしてください。
※設定値はあくまで目安です。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
アジ						■	■	■	■	■	■	■	■	■	■															
マダイ								■	■	■	■	■	■	■	■	■														
ヒラメ								■	■	■	■	■	■	■	■	■														
イカ											■	■	■	■	■	■	■	■	■	■										
ワラサ																■	■	■	■	■	■	■	■	■	■					

探見丸システム　システムの設置方法

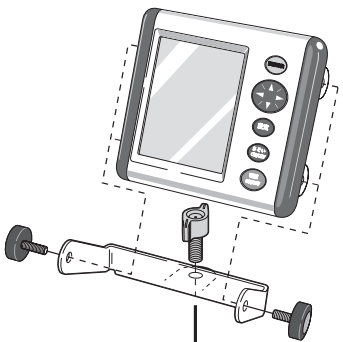
魚探と連動!! 探見丸システム対応

探見丸の設置方法は釣りのスタイルに応じてお選びいただけます。

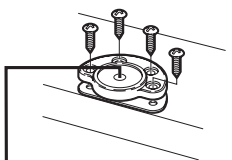
目的に合わせて、下記の取り付け器具・コードを選んでご使用ください。

探見丸システム設置方法

探見丸セット

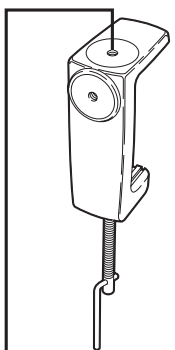


① 探見丸船べりベース
船宿様貸し出しorマイボート位置固定直付け

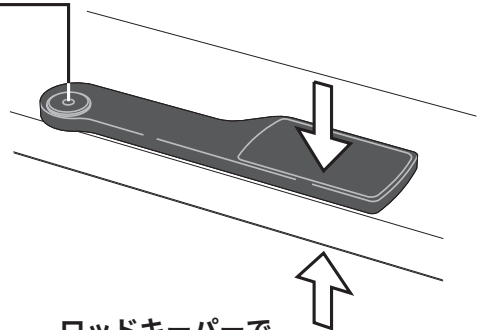


パッキンと共に船べりにネジで固定

② 探見丸固定クランプ
ジギングやカワハギ釣りに

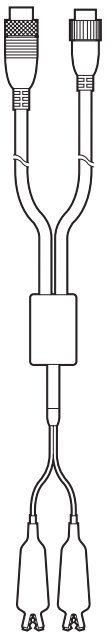


③ 探見丸サイドボード
市販のロッドキーパーを使って固定



ロッドキーパーで船縁に挟み込みます。

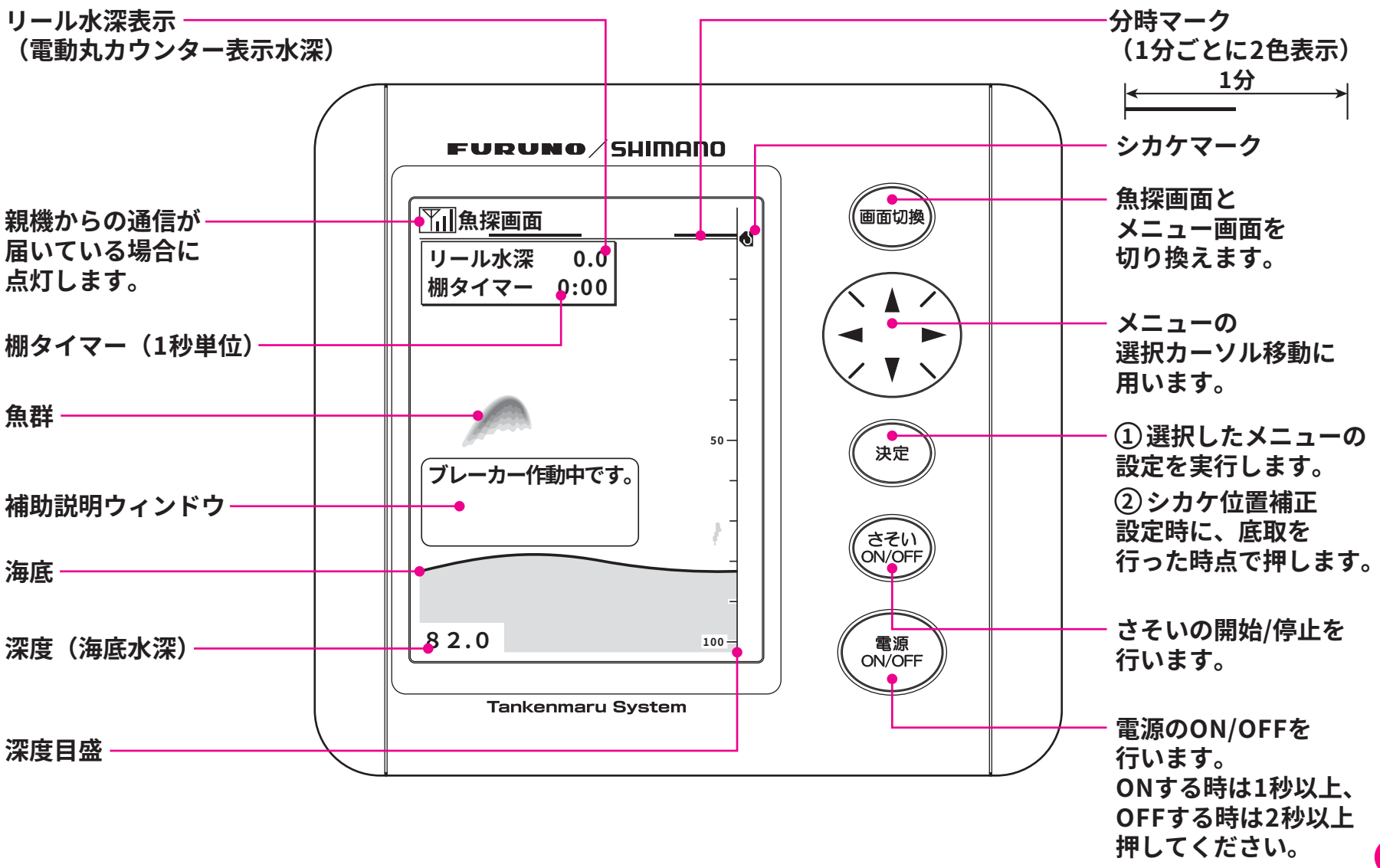
探見丸・電動丸通信ケーブル



DC12V

●必要に応じて、コード・取り付け器具を別途お買い求めください。

探見丸システム　電動丸接続時の魚探画面と操作ボタン



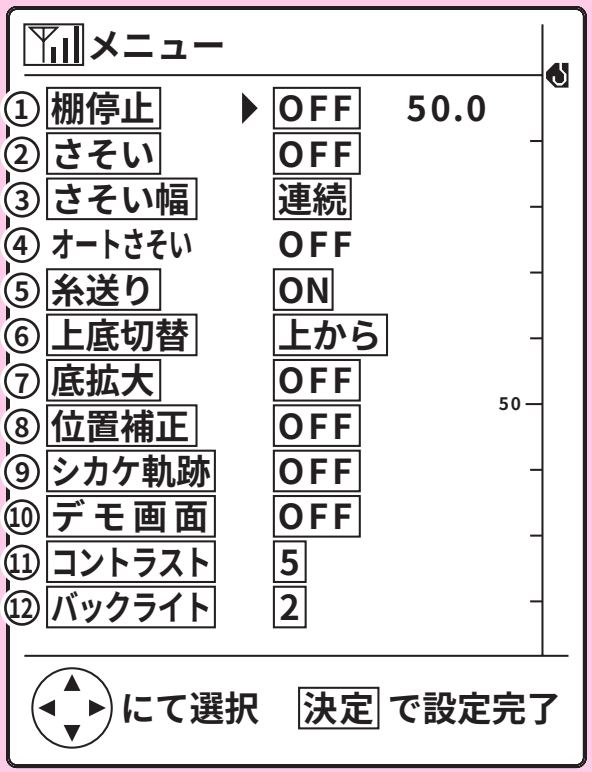
探見丸システム　電動丸と接続した場合の機能一覧

電動丸1000XTと接続した場合、下記の機能が探見丸で使用可能になります。

全てメニュー画面から設定を行います。メニュー画面の詳しい操作は次のページをご覧下さい。

《メニュー画面》

画面切換ボタンを押すと表示されます。



□囲みが現在有効な機能です。
電動丸の機種によって使える機能は異なります。
図の設定は例として表示しています。

①[棚停止]…

探見丸から棚停止モードの[ON]・[OFF]および棚停止水深の設定が操作可能です。（棚停止の詳細は34～36･49ページ参照）

②[さそい]…

電動丸にさそい動作を再現させることができます。さそいパターンを選択、または[学習]でオリジナルのさそいパターンを入力できます。（50～54ページ参照）

③[さそい幅]…

さそい動作を行う幅の指定ができます。（55ページ参照）

④[オートさそい]…

棚停止後、自動的にさそい動作を開始させることができます。[棚停止]が[ON]で、[さそい]の[1]～[5]のいずれかを選択している場合にのみ設定可能です。（56ページ参照）

⑤[糸送り]…

探見丸から自動糸送り機能の[ON]・[OFF]が操作可能です。（自動糸送り機能の詳細は26ページ参照）

⑥[上底切替]…

探見丸から水深表示の[上から]（水面から）・[底から]を設定できます。（上から・底からモードの詳細は37～39ページ参照）

⑦[底拡大]…

魚探深度の下半分を縦方向に2倍に拡大表示します。（65ページ参照）

⑧[位置補正]…

シカケの位置と画面を同調させます。（63～64ページ参照）

⑨[シカケ軌跡]…

シカケの軌跡を表示します。（47～48ページ参照）

⑩[デモ画面]…

[ON]にするとデモ画面をご覧いただけます。

⑪[コントラスト]…

探見丸の液晶画面のコントラストを調整します。（10段階）

⑫[バックライト]…

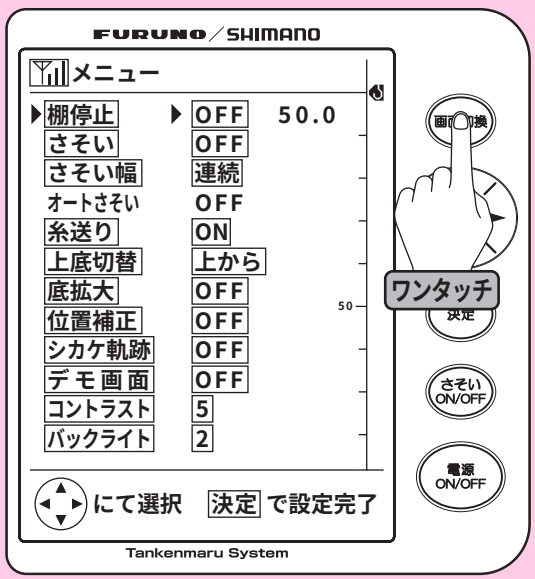
探見丸のバックライトを調整します。（4段階）

探見丸システム　メニュー画面の基本的な操作

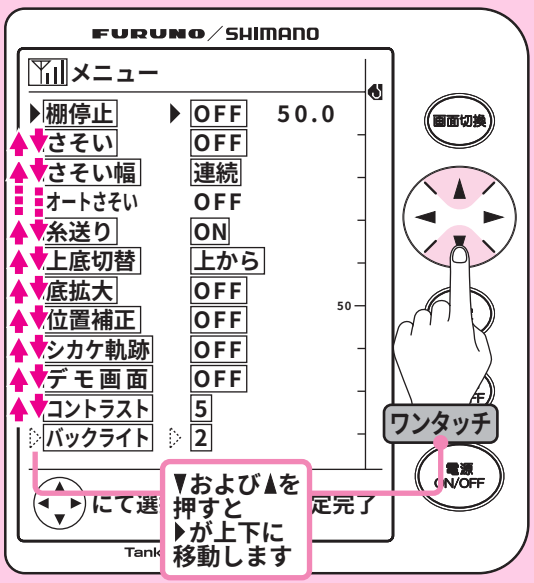
メニュー画面から共通の操作で機能の設定・変更ができます。

必要に応じて下記の操作方法を参照してください。設定可能な機能は前のページをご覧ください。
（危険防止のために、モーターOFF時のみメニュー画面に入ることができます。）

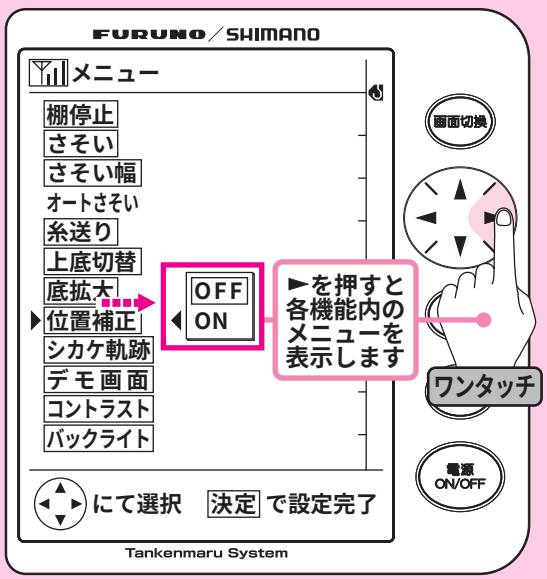
メニュー画面の基本的な操作



1 魚探画面より、モータが停止した状態で画面切換ボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。
□囲みが現在使用可能な機能とその設定です。
電動丸の機種によって使える機能は異なります。
図の設定は例として表示しています。
設定途中にモーターをONしたり、再度画面切換ボタンを押した場合は、設定の変更が行われず、魚探画面に戻ります。

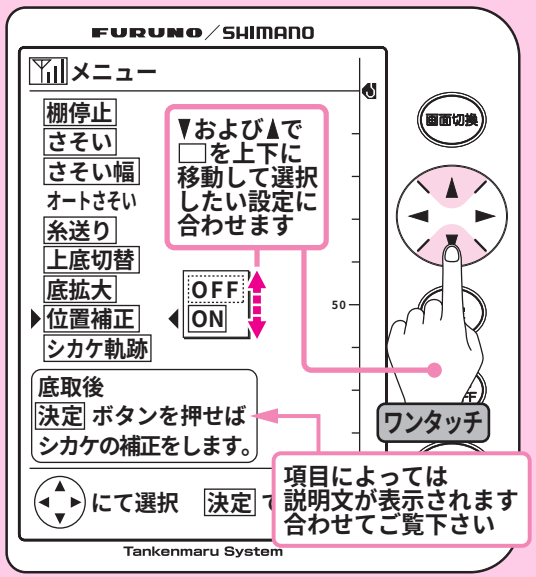


2 ▼および▲を押して▶カーソルを上下に移動させ、設定したい機能の行に合わせます。



3 ►を押すと各機能内のメニューが表示されます。
メニュー内の□囲みが現在の設定です。
表示されるメニューの内容は選択した機能によって異なります。図は[位置補正]を選択した場合を例としています。

次ページにつづく

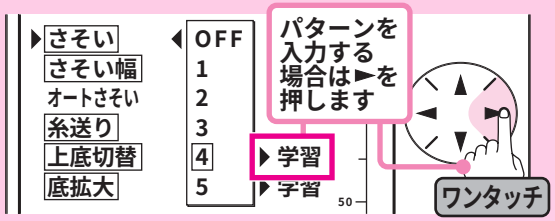


4 ▼および▲を押して□を上下に移動させ、設定を選択します。
右記の項目を選択された場合、さらに必要に応じて詳細設定を行ってください。
詳細設定を行わない場合はこのまま **5** の操作に進みます。
([さそい]→[4]・[5]は、出荷時には超スロー巻き上げのデータが入っています。)

詳細設定を行う項目について…

● [さそい]→[4]・[5]

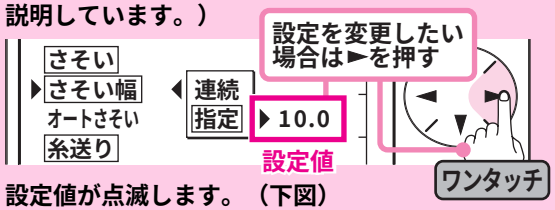
さそいパターンの入力が可能です。初回選択時、あるいは新しいパターンを入力したい場合は►を押します。(図は[4]の場合です。)



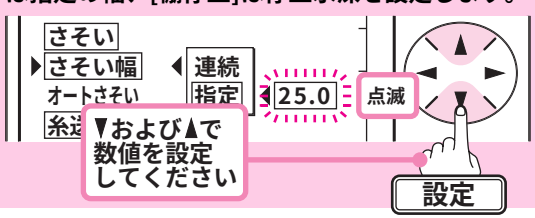
[学習]が点滅します。(下図)

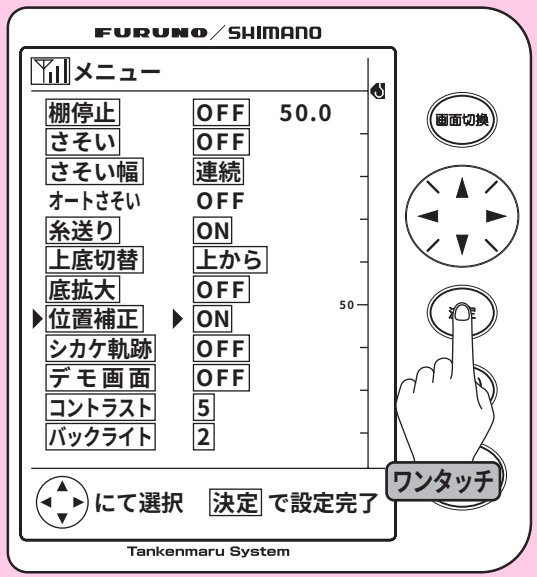
● [さそい幅]→[指定] ／ [棚停止]→[ON]

設定値(選択した項目右の数値)を変更する場合は►を押します。(図は[さそい幅]の場合で説明しています。)



設定値が点滅します。(下図)
▼および▲を押すと増減しますので、お好みの数値(m)に設定してください。[さそい幅]は指定の幅、[棚停止]は停止水深を設定します。



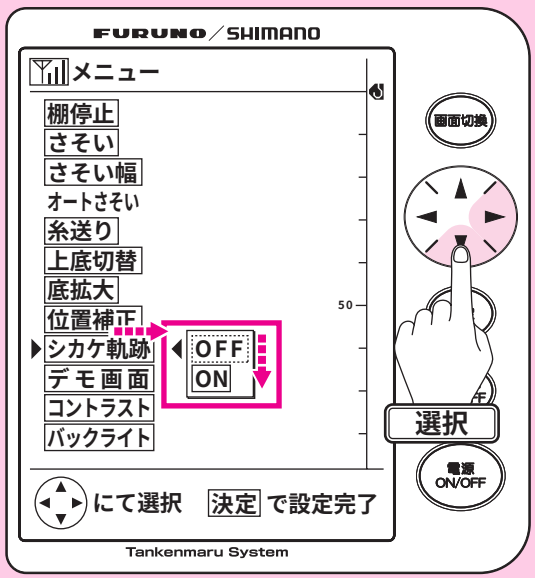


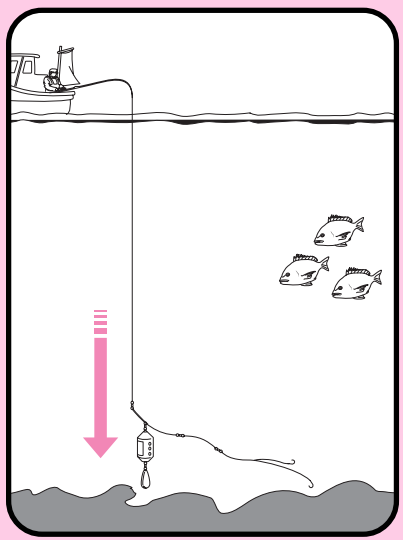
5 決定ボタンを押せば設定完了です。
[さそい]→[4]・[5]→[学習]を選択した場合のみここでさそい学習画面になります。以後のさそい学習の手順は52～54ページ「さそいの準備(さそいパターンの入力)」**3** ～ **5** をご覧下さい。
その他の場合はメニュー画面に戻ります。
続けて設定を行う場合は **2** からの操作を繰り返します。
魚探画面に戻る場合は、画面切換ボタンを押します。
決定ボタンを押さずに魚探画面に戻った場合、設定の変更は行われません。

探見丸システム　シカケ軌跡

投入したシカケの軌跡を表示することができます。

底の形状とシカケ位置の相関がたどれますので、どの時点でアタリがあったかなど簡単に把握できさそいの目安や、次回投入時の参考、コマセのタイミング等に便利です。
※先にシカケ位置補正を行うと、より正確な表示となります。





シカケ投入

1 メニュー画面で[シカケ軌跡]→[ON]を選択してください。
（メニュー画面の操作について、詳しくは45～46ページ「メニュー画面の基本的な操作」をご参照ください。）

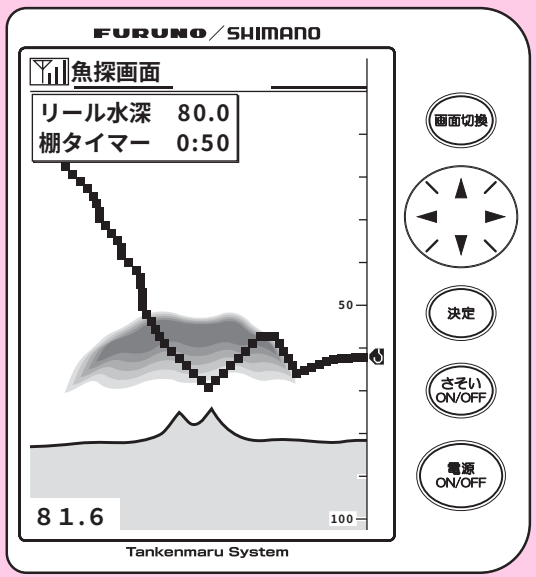
ご注意　シカケ軌跡はリール水深をトレースしています。従いまして糸巻学習、0セットを正確に行っておりませんと、正しい表示を行えませんのでご注意ください。

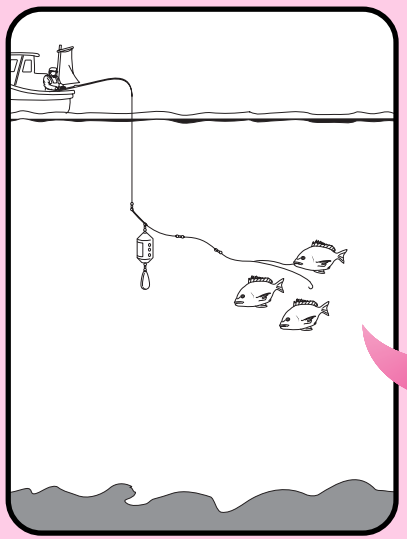
2 決定ボタンを押して設定を完了します。
シカケ軌跡がONになります。

3 画面切換ボタンを押して魚探画面に戻り、シカケを投入します。

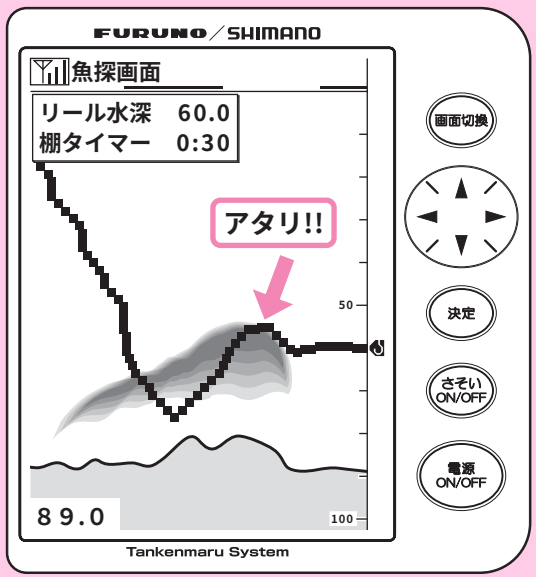
次ページにつづく

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ設定・数値を示すわけではありません。





アタリ!!



4 シカケマークの位置をトレースして、魚探画面上に軌跡が表示されます。

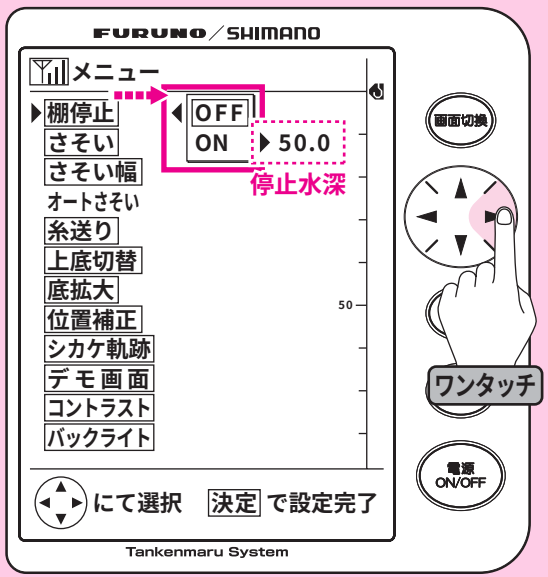
※ご注意
船長の指示棚は絶対に守りましょう!!　画面上に指示棚以外にも反応が映っているからといって、勝手に大きく棚を変えるのはルール違反です。
船長の指示棚は、長年の経験から導きだした、その場の状況に応じた最適な情報なのです。
自分勝手に大きく棚を変えると、他の釣客とのオマツリや魚を散らす原因になるなど、トラブルの元です。絶対にやめましょう!!

5 アタリがあった状況が一目で判ります。さそいの目安や、次回投入時の参考、コマセのタイミング等、応用範囲が広がります。

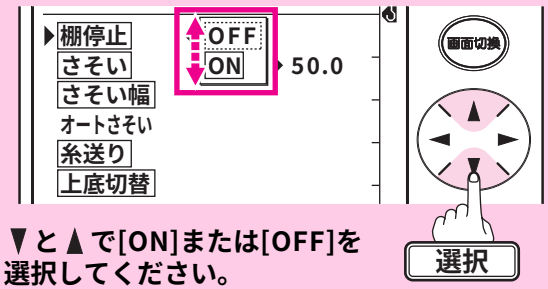
探見丸システム　棚停止の設定

探見丸から棚停止モード、棚停止水深の設定が可能です。

探見丸からも設定の変更が行えます。棚停止モードの詳細は34～36ページをご参照ください。



1 メニュー画面で[棚停止]を選択し、►で[棚停止]のメニューを表示させます。
（メニュー画面の操作について、詳しくは45～46ページ「メニュー画面の基本的な操作」をご参照ください。）

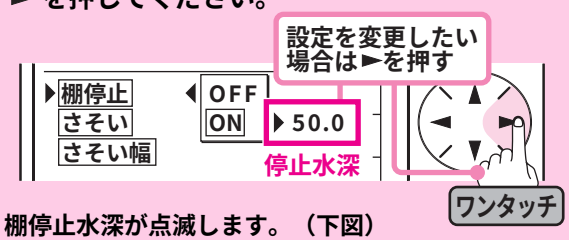


▼と▲で[ON]または[OFF]を選択してください。

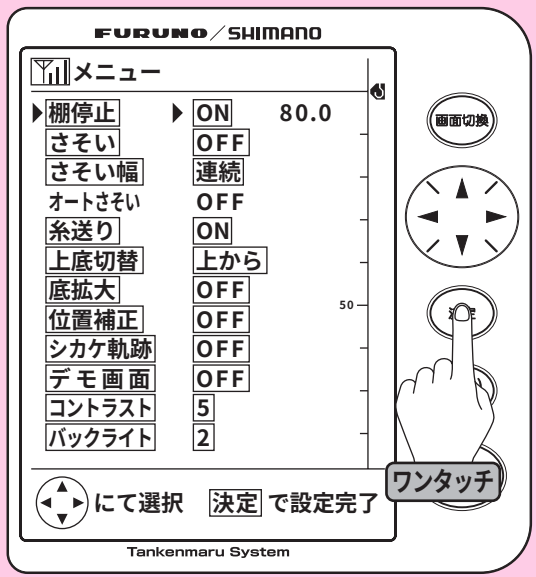
[ON]を選択した場合に、棚停止の水深を変更したい時は下記の要領で行います。

棚停止水深の変更方法

►を押してください。



棚停止水深が点滅します。（下図）
▼および▲を押すと数値が増減しますので、お好みの水深（m）に設定してください。



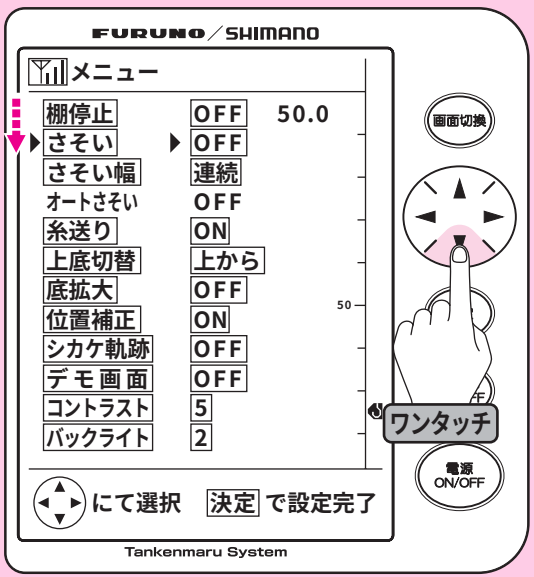
2 決定ボタンを押せば設定完了です。
メニュー画面に戻ります。

探見丸システム　さそいの準備

テクニック

探見丸の記憶しているさそいパターンで、電動丸がさそい動作を再現します。

一日中シャクリ続けるイカには特に便利です。
代表的なさそいパターン、またはお好みのさそいパターンが再現できます。



● [さそい]メニューの一覧

[1]… 代表的な2段シャクリ
[2]… 代表的な3段シャクリ
[3]… ウイリーの代表的なさそい
[4]… お好みのさそいパターン
[5]… お好みのさそいパターン

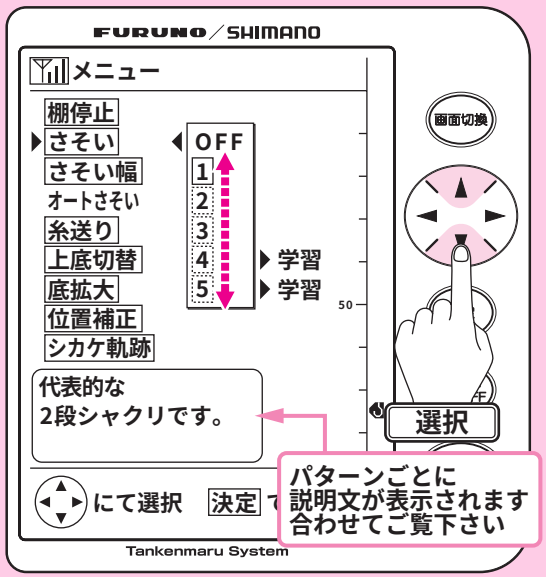
※ご注意
あらかじめ記憶しているさそいのパターンは代表的な例であり、竿の調子･オモリ負荷･水深等、条件によって動作は変化します。
実情に合わない場合はお客様オリジナルのパターンを[4]、[5]に入力の上、再現される事をお勧めします。

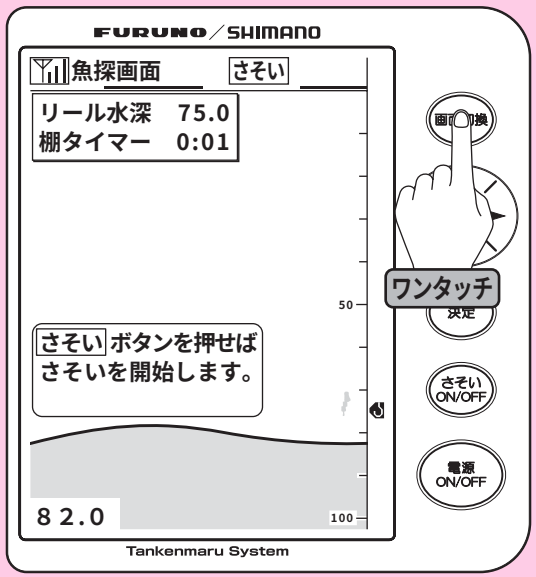
1 魚探画面より、モータが停止した状態で画面切換ボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。
▼を押して▶カーソルを[さそい]の行に合わせてください。
（メニュー画面の操作について、詳しくは前項「メニュー画面の基本的な操作」をご参照ください。）

2 ►を押すと[さそい]のメニューが表示されます。

[1]～[3]は上記のさそいパターン、[4]と[5]はお好みのさそいパターンとなっています。

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ設定・数値を示すわけではありません。





3 ▼と▲でさそいパターンを選択してください。
([さそい]→[4]・[5]は、出荷時には超スロー巻き上げのデータが入っています。)
[4]・[5]に新しいパターンを入力し直す場合は、ここから次ページ「さそいの準備（さそいパターンの入力）」へお進みください。

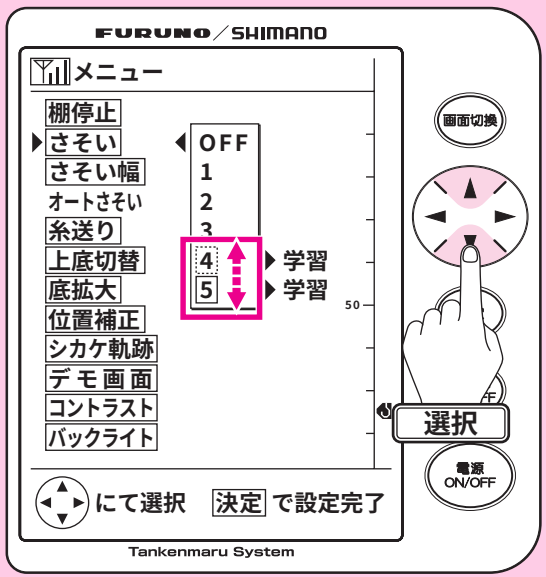
4 決定ボタンを押せば設定完了です。
メニュー画面に戻ります。
図は[3]を選択した場合です。
他の設定や、さそい幅の指定(55ページ参照)・オートさそい(56ページ参照)を行いたい場合はあらかじめ設定しておくか、ここで設定しておきます。

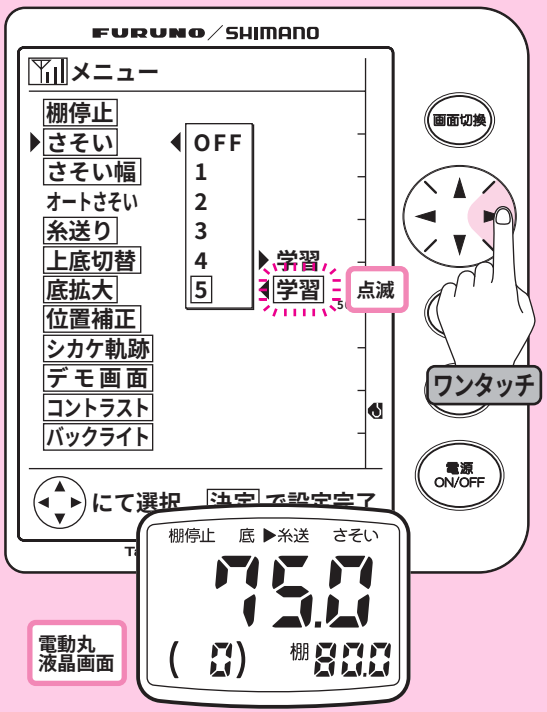
6 画面切換ボタンを押して魚探画面に戻ると表示は図のようになります。
これで電動丸にさそいを再現させる準備ができました。
さそいを開始する場合は57ページ「さそいの再現方法」へ進みます。

探見丸システム　さそいの準備（さそいパターンの入力）

あなたのオリジナルのさそいパターンも再現できます。

電動丸にお好みのさそいパターンを再現させたい場合は、下記の操作で探見丸にさそい動作を入力します。





1 前項の 1 ～ 3 の手順で、さそいパターンの[4]か[5]を選択しておきます。

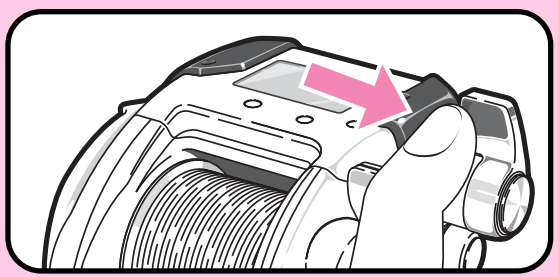
2 ►を押してください。

3 決定ボタンを押すとさそい学習画面になります。さそい学習は最大30秒間記憶させることができます。
□部分に記憶可能な秒数が表示されます。
スプールが巻き上げ方向に回転すると記憶を開始し、同時に記憶可能な秒数のカウントダウンが始まります。

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ設定・数値を示すわけではありません。

●テクニカルレバーで入力する場合…

記憶させたいタイミングと速度で巻き上げ、その後の静止状態も必要に応じて入力します。

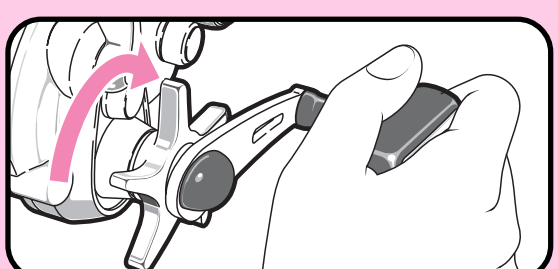


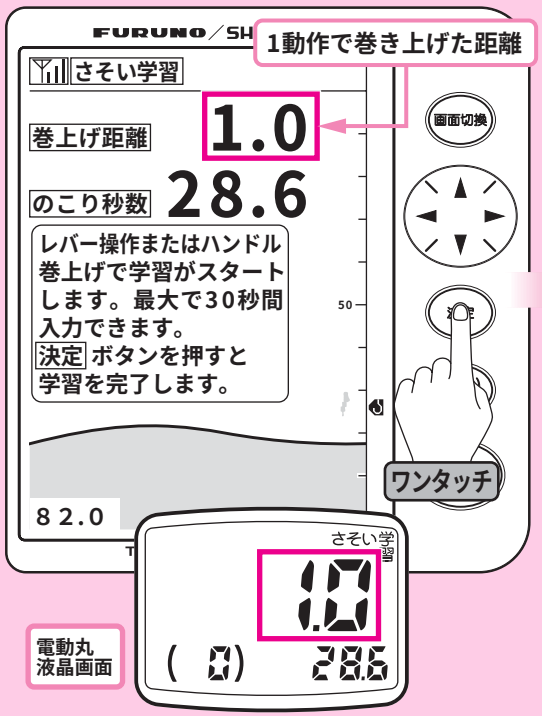
●ハンドルで入力する場合…

好みの速さでハンドルを回転させ、その後の静止状態も必要に応じて入力します。

ハンドル1回転に2秒以上要する超スローな巻き上げは学習しません。

また、テクニカルレバーの最高速度以上でスプールが回転した場合は、テクニカルレバーの最高速として学習します。





3 テクニカルレバーかハンドル操作でさそい学習を開始します。

記憶可能な残り秒数のカウントダウンが開始し、□部分に１動作ごとに巻き上げた糸の長さを表示します。

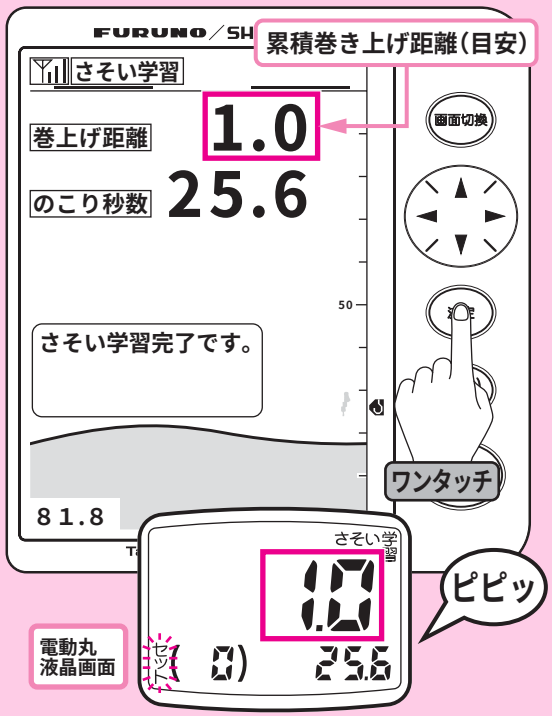
いったんスプールが回って入力が開始されると、その後の静止状態も入力されます。

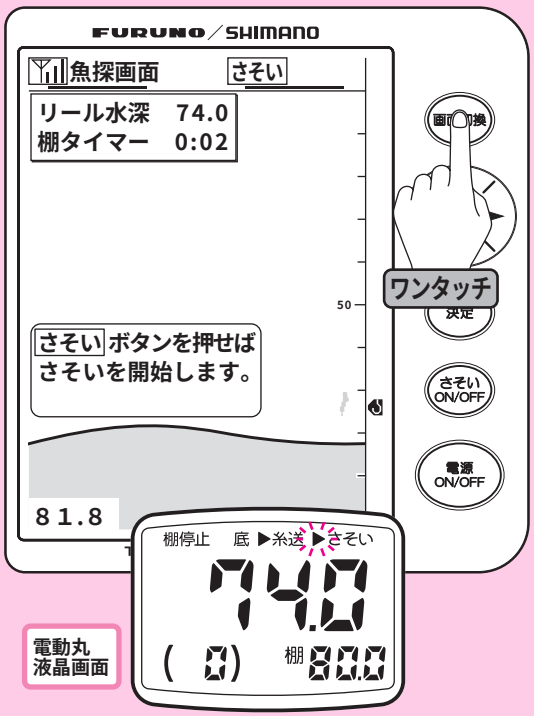
比較的短い操作をくり返すときは、その1回分の入力だけで記憶を終了します。

図はテクニカルレバー最高速で巻き上げ、3秒静止後の例です。

次ページにつづく

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ設定・数値を示すわけではありません。





4 決定ボタンを押せばさそい学習が完了します。
決定ボタンを押さなかった場合は学習開始から30秒で自動的に終了します。
カウントダウンがスタートした時点からのしゃくり、さそいが記憶されます。
さそい学習終了時の表示は図のようになります。
□部分に目安ですが、累積巻き上げ距離を表示します。

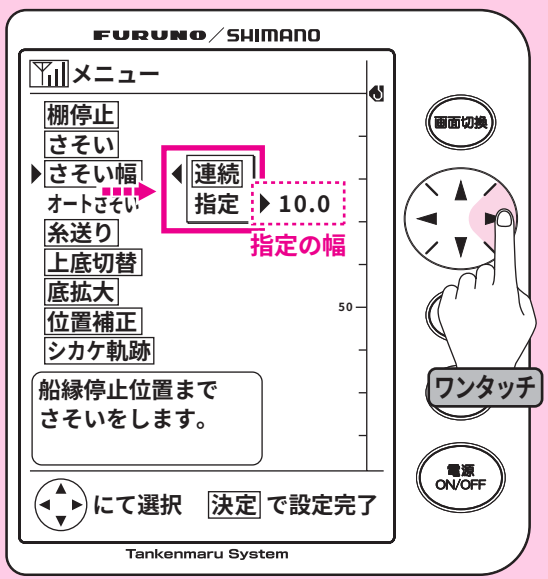
5 2秒後、自動的に魚探画面に戻ります。
図のように表示されます。電動丸側の「さそい」横に▶マークが点灯します。
※新たにさそい学習を入力しますと、前の学習データは消えます。

他の設定や、さそい幅の指定(55ページ参照)・オートさそい(56ページ参照)を行いたい場合はあらかじめ設定しておくか、ここでメニュー画面に切り換えて設定しておきます。
これで電動丸にさそいを再現させる準備ができました。
さそいを開始する場合は57ページ「さそいの再現方法」へ進みます。

探見丸システム　さそいの準備（さそい幅の指定）

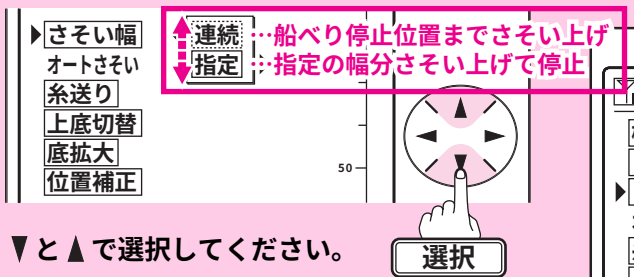
必要に応じて、さそい再現を行う幅の指定ができます。

さそい幅を指定すると、さそい再現時にさそい幅分さそい上げて停止するようになります。
再度さそい再現を開始するたびに、さそい幅分をさそい上げて停止します。



1 メニュー画面で[さそい幅]を選択し、►で[さそい幅]のメニューを表示させます。
（メニュー画面の操作について詳しくは45～46ページ「メニュー画面の基本的な操作」をご参照ください。）各メニューで下記の設定ができます。

[連続]…
船べり停止位置までさそい上げます。
[指定]…
図の指定の幅(m)分さそい上げて停止します。

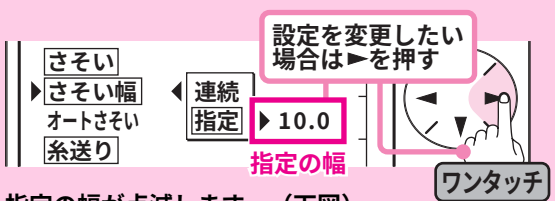


▼と▲で選択してください。

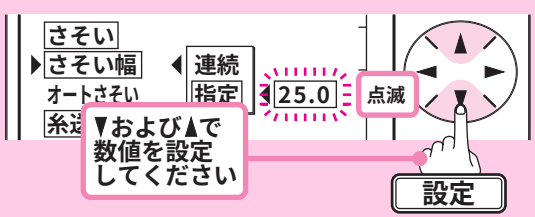
[指定]を選択した場合に、指定の幅を変更したい時は下記の要領で行います。

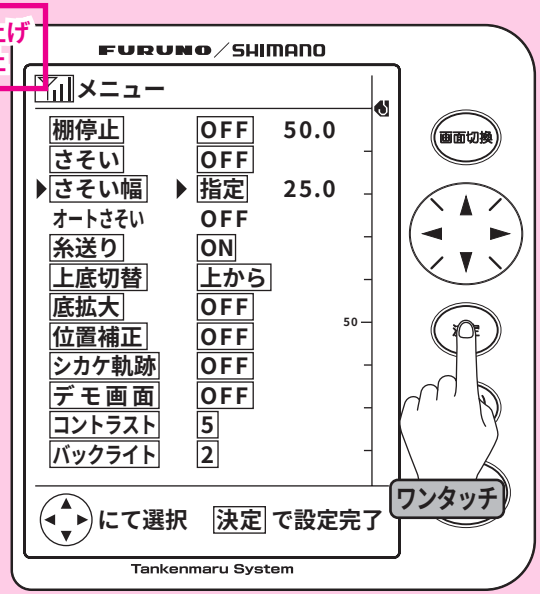
指定の幅の変更方法

►を押してください。



指定の幅が点滅します。（下図）
▼および▲を押すと数値が増減しますので、お好みの幅（m）に設定してください。



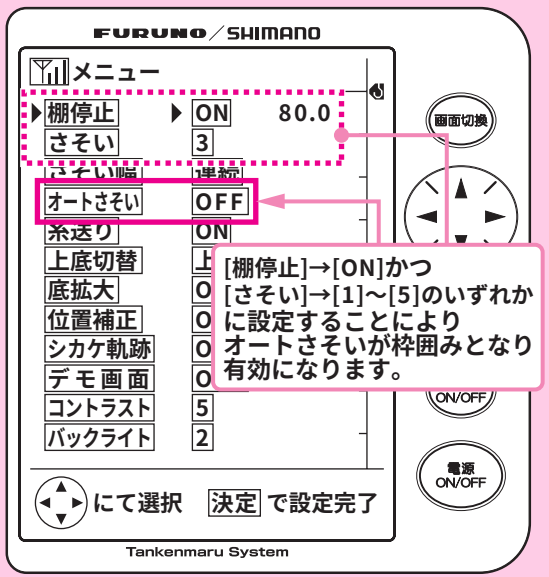


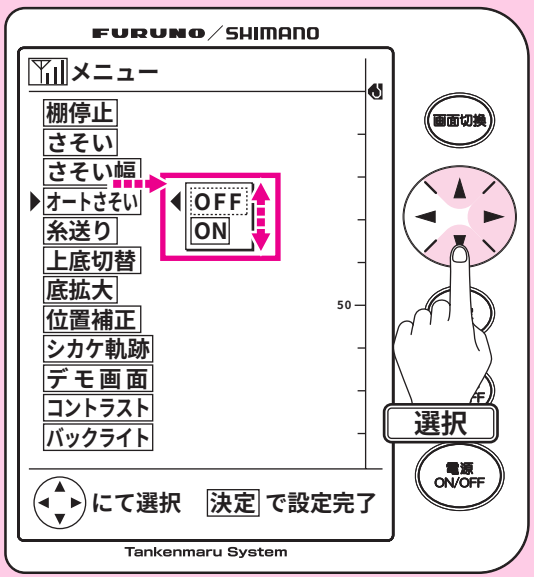
2 決定ボタンを押せば設定完了です。
メニュー画面に戻ります。
[指定]を選択した場合、図のように指定の幅が表示されます。

探見丸システム　さそいの準備（オートさそいの設定）

棚停止後、自動的にさそい再現を開始させることができます。

この機能は[棚停止]が[ON]で、[さそい]の[1]～[5]のいずれかを選択している場合にのみ有効です。





1 あらかじめ[棚停止]→[ON]の選択および棚停止水深の設定、50～55ページまでの「さそいの準備」を行うと、[オートさそい]の□囲みが点灯し、機能が有効になります。
これで機能の設定変更および使用が可能です。
図の設定は例として表示しています。

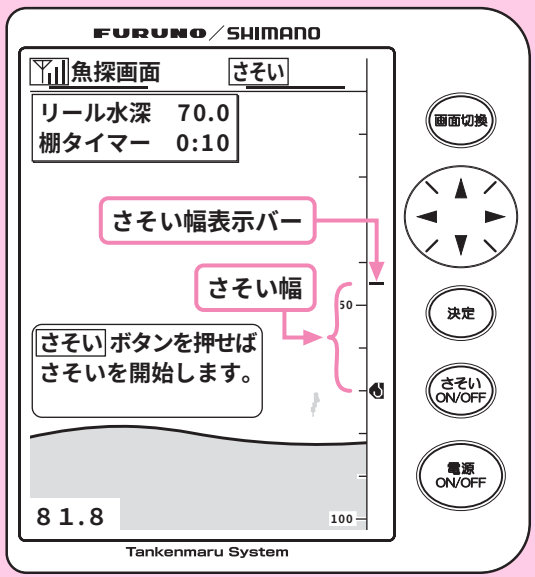
2 メニュー画面で[オートさそい]を選択し、►で[オートさそい]のメニューを表示させます。
▼と▲で[ON]または[OFF]を選択してください。
（メニュー画面の操作について、詳しくは45～46ページ「メニュー画面の基本的な操作」をご参照ください。）

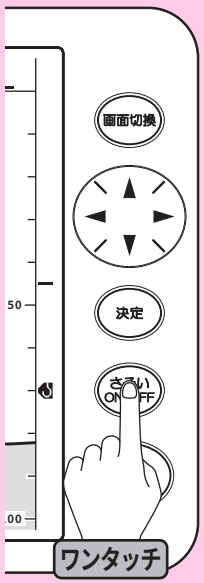
3 決定ボタンを押して設定を完了します。
[ON]を選択した場合は図のようになります。
[オートさそい]を[ON]に設定すると、棚停止の2秒後、自動的にさそい動作の再現を開始します。
棚停止、またはさそいをOFFにした場合、[オートさそい]の□囲みが消灯し、設定変更・使用ともにできなくなります。

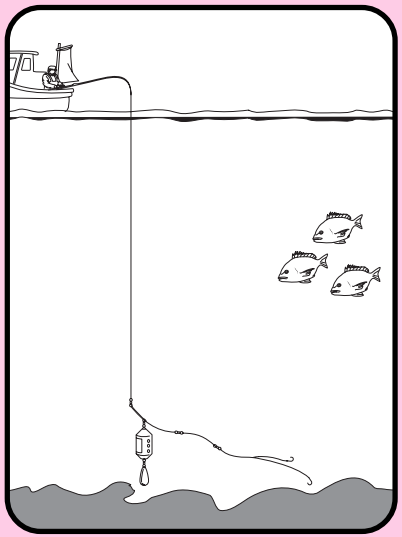
探見丸システム　さそいの再現方法

テクニック

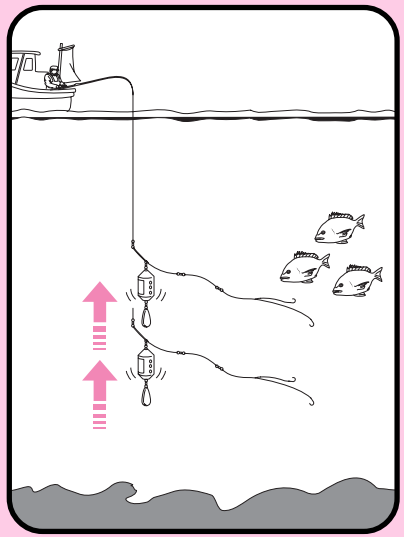
さあ！いよいよ設定したさそいを再現してみましょう。







さそいボタンON
さそい開始！



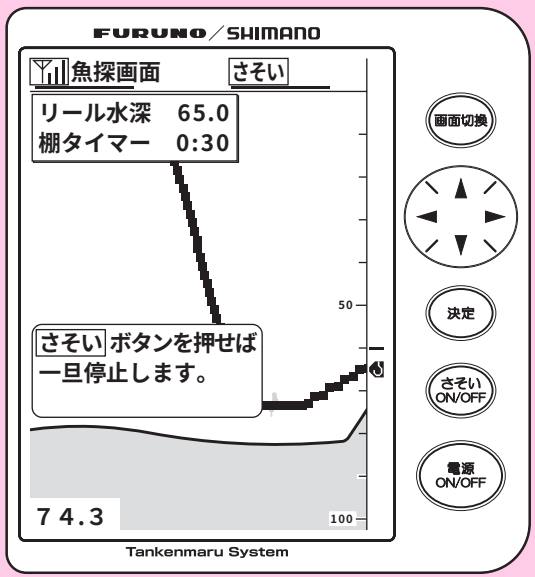
さそい動作再現中

1 あらかじめ50～56ページ「さそいの準備」を行っておきます。
魚探画面になっていない場合は画面切換ボタンで魚探画面に切り換えてください。
表示は図のようになっています。（数値や設定は例として表示しています。この場合、さそい幅は25mです。）

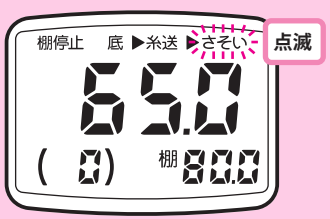
2 さそいボタンを押すと、記憶したさそいパターンをくり返し行います。
さそい幅を指定している場合は、指定の幅分さそいパターンをくり返して停止します。
さそい動作の途中停止、再スタートもさそいボタンを押します。
さそい幅指定で途中停止した場合も、さそいボタンを押した水深からさそい幅分をさそい上げて停止します。

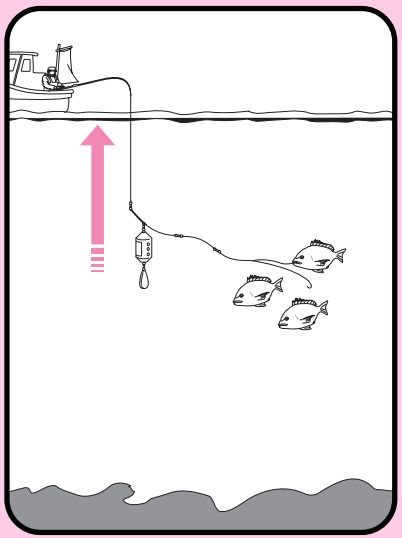
次ページにつづく

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ設定・数値を示すわけではありません。

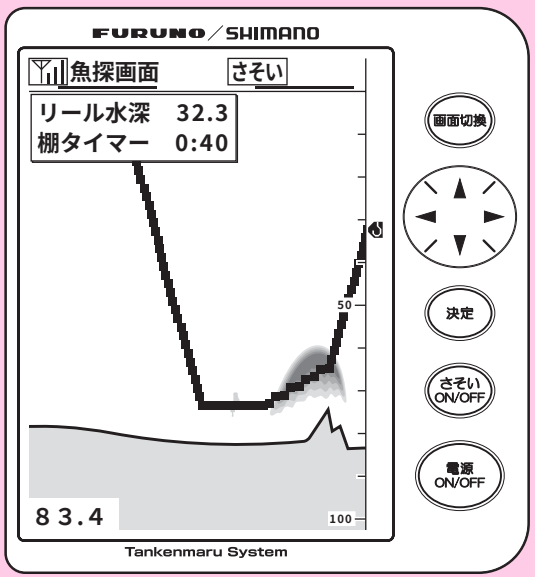


さそい動作中の表示は図のようになります。
（画面は[シカケ軌跡]をONにした場合です。）
電動丸は「さそい」表示が点滅します。



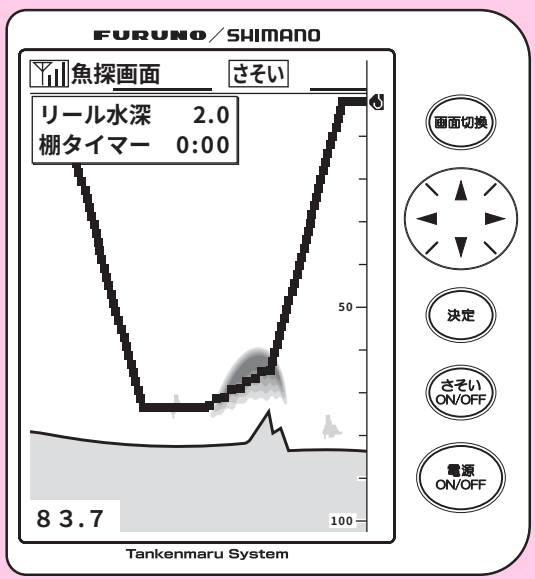


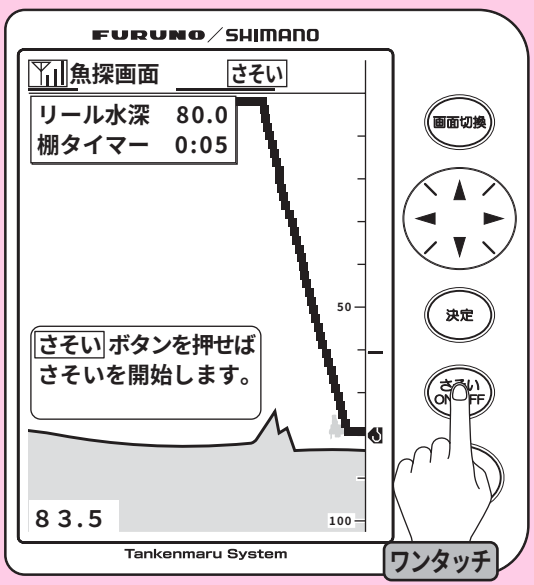
アタリ! 巻き上げ

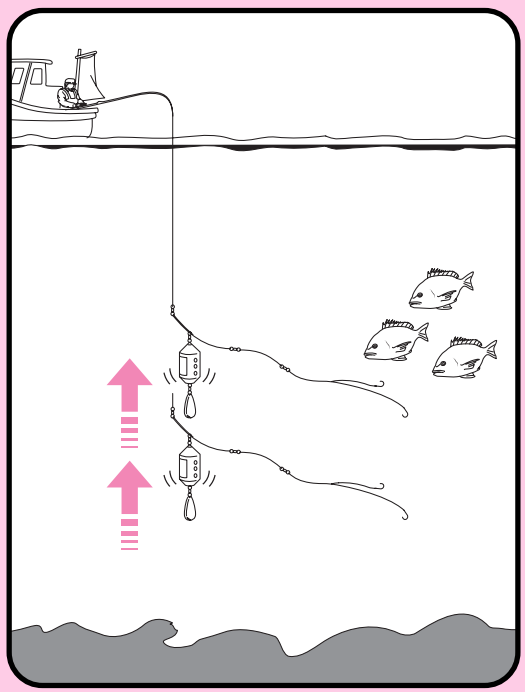


3 アタリがあればテクニカルレバーか速巻きスイッチで巻き上げます。
この場合、さそい幅は無視されます。
巻き上げ途中の表示は図のようになります。

魚を取り込み、もう一度仕掛けをおろして
さそい動作を行いましょう。







さそいボタンON
再びさそい開始!

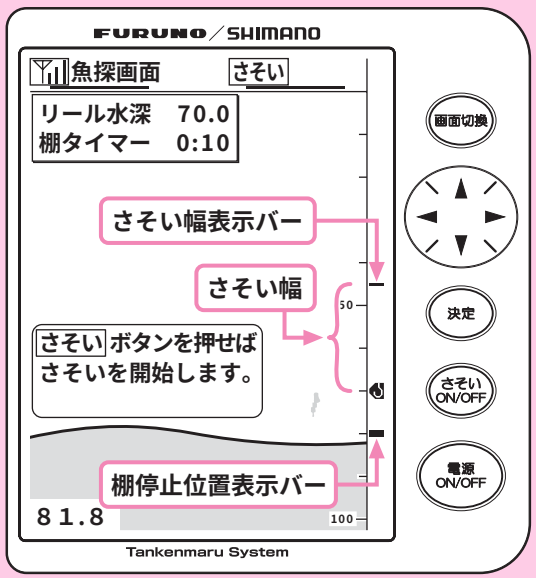
4 さそい再現で船べり停止した時の表示は図のようになります。
このままさそい再現を続ける場合は再度投入します。
やめる場合はメニュー画面を呼び出し、[さそい]メニューより[OFF]を選択してください。
（メニュー画面の操作について、詳しくは45～46ページ「メニュー画面の基本的な操作」をご参照ください。）

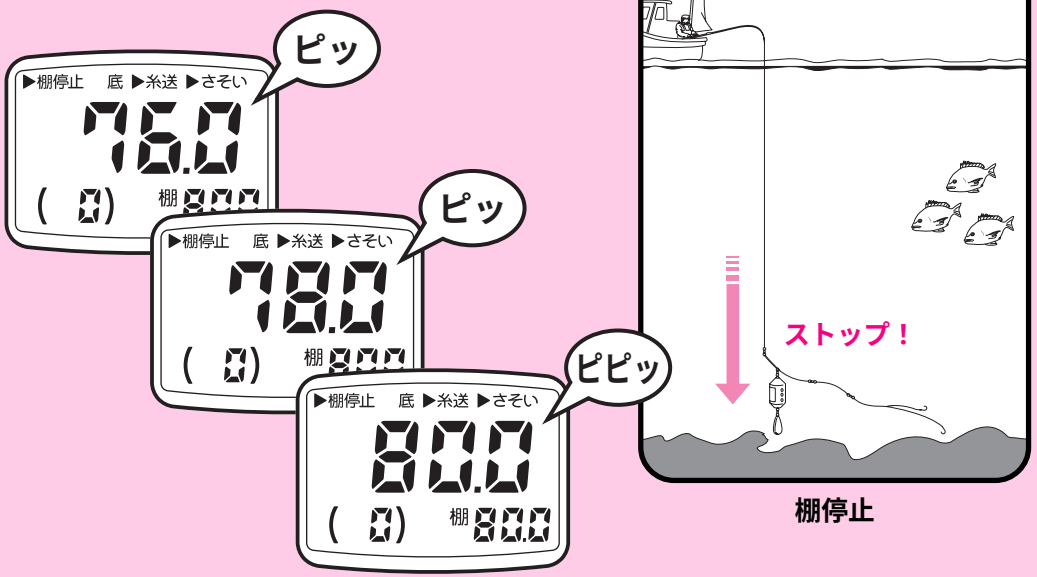
5 さそい再現を続ける場合、シカケをもう一度棚までおろします。
[棚停止]・[オートさそい]をONに設定していた場合は自動的にシカケが棚停止し、2秒後に再びさそい再現を開始します。
そうでない場合はシカケをおろした後、図のようにさそいボタンをONにすると、再度記憶した巻き上げをくり返し行います。
図は80mまでシカケをおろした場合の例です。

探見丸システム　さそいの再現方法（棚停止の利用）

テクニック

棚停止を利用してさそい動作を行ってみましょう。



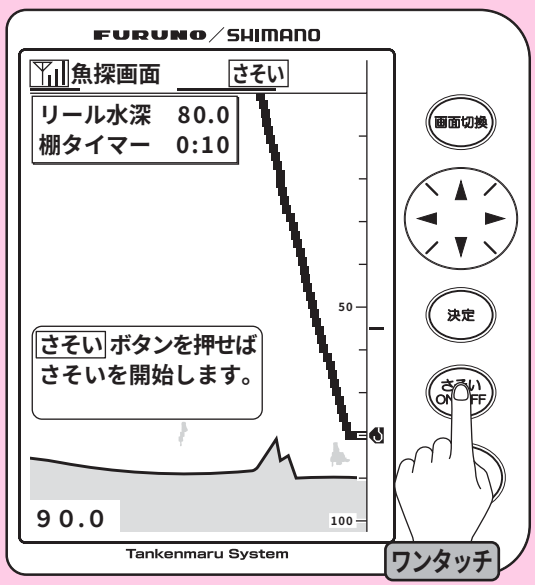


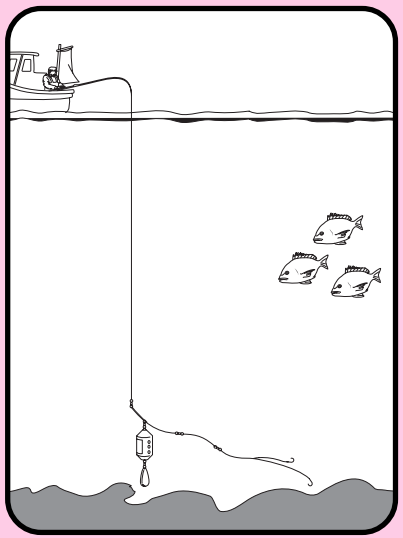
棚停止

1 あらかじめ[棚停止]→[ON]の選択および棚停止水深の設定、50～56ページまでの「さそいの準備」を行っておきます。
魚探画面になっていない場合は画面切換ボタンで魚探画面に切り換えてください。
表示は図のようになっています。（数値や設定は例として表示しています。この場合、さそい幅は25mです。）

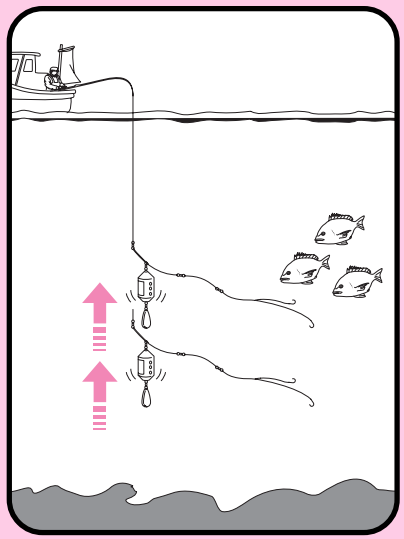
2 クラッチを切ってシカケを投入します。
シカケがメモ水深（棚停止水深）に来るとシカケが自動停止します。

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ設定・数値を示すわけではありません。





さそいボタンON
さそい開始！



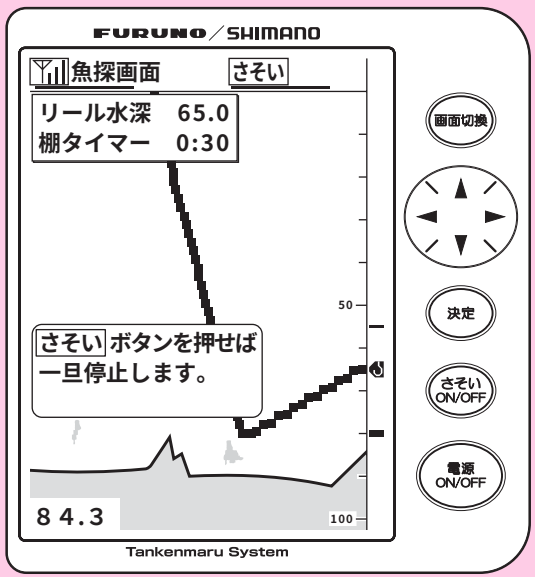
さそい動作再現中

3 さそいボタンを押すと、記憶したさそいパターンをくり返し行います。
[オートさそい]をONに設定している場合は棚停止の2秒後、自動的にさそい動作の再現を開始します。
（画面は[シカケ軌跡]をONにした場合です。）

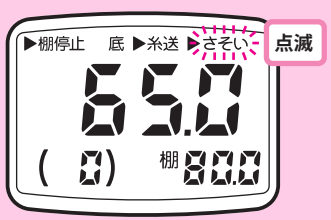
[オートさそい]がONならば
自動でさそい開始！

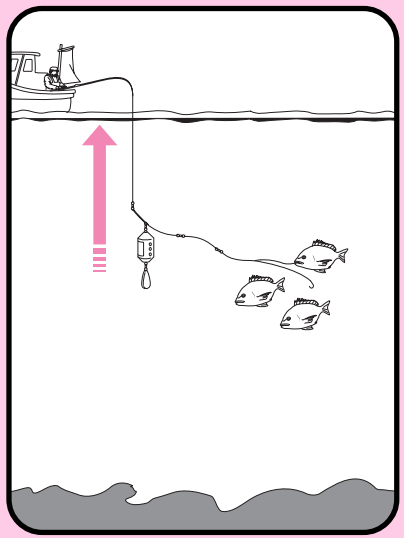
さそい幅を指定している場合は、指定の幅分さそいパターンをくり返して停止します。
さそい動作の途中停止、再スタートもさそいボタンを押します。
さそい幅指定で途中停止した場合も、さそいボタンを押した水深からさそい幅分をさそい上げて停止します。

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ設定・数値を示すわけではありません。

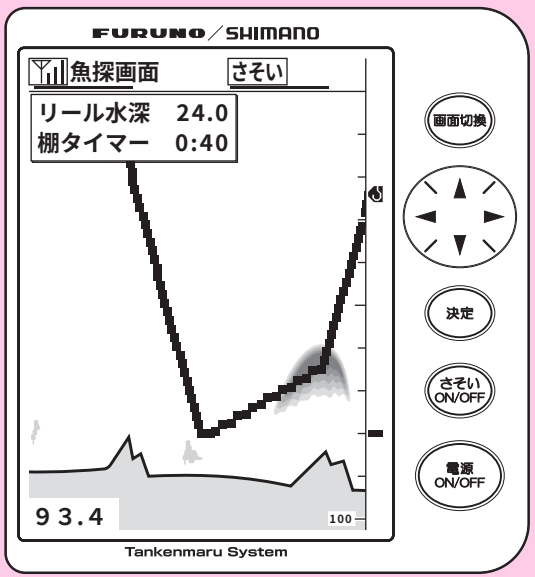


さそい動作中の表示は図のようになります。
電動丸は「さそい」表示が点滅します。





アタリ! 巻き上げ

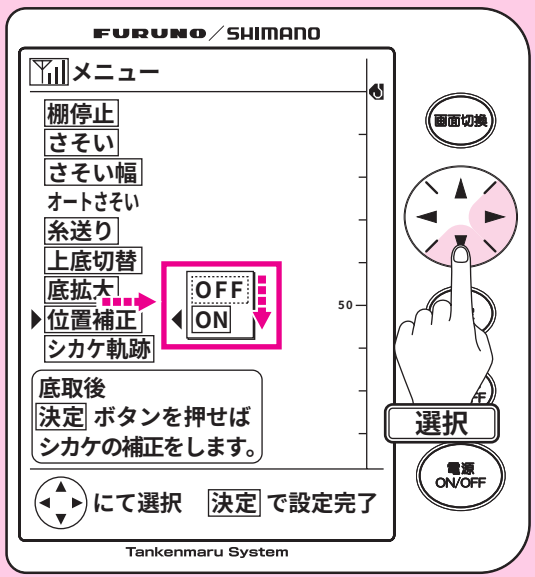


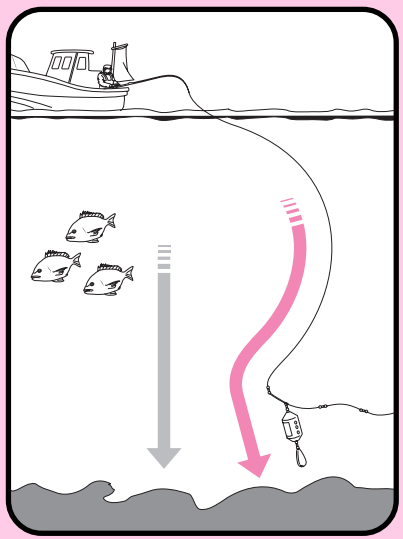
4 アタリがあればテクニカルレバーか速巻きスイッチで巻き上げます。
この場合、さそい幅は無視されます。
巻き上げ途中の表示は図のようになります。

探見丸システム　位置補正

シカケの水深と魚探画面上の位置を簡易的に同調することができます。

従来のカウンター付きリールが表示する水深は、あくまで巻かれていた糸の放出量であり
潮の流れなどで表示水深とシカケの位置にはズレが生じていました。
探見丸システムではワンタッチでズレを補正。以後、魚探画面上のシカケマークが実際の位置を表示してくれます。





シカケ投入・底取り

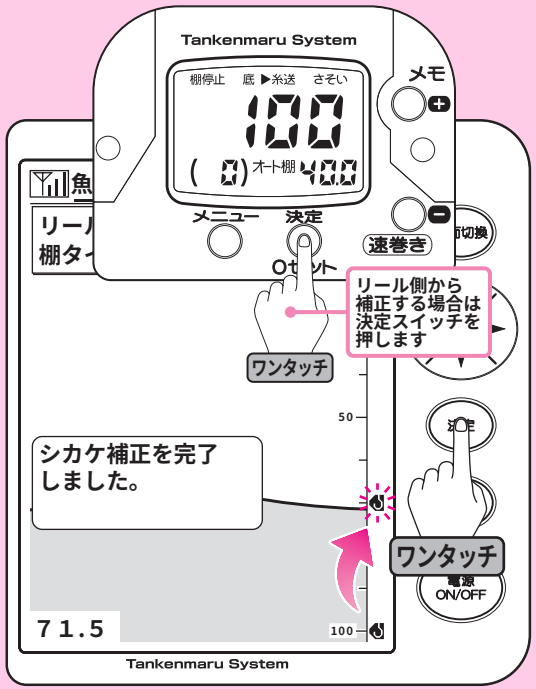
1 メニュー画面で[位置補正]→[ON]を選択してください。
（メニュー画面の操作について、詳しくは45～46ページ「メニュー画面の基本的な操作」をご参照ください。）

2 決定ボタンを押して設定を完了します。
位置補正がONになります。

3 画面切換ボタンを押して魚探画面に戻り、シカケを投入し、いったん底まで降ろします。

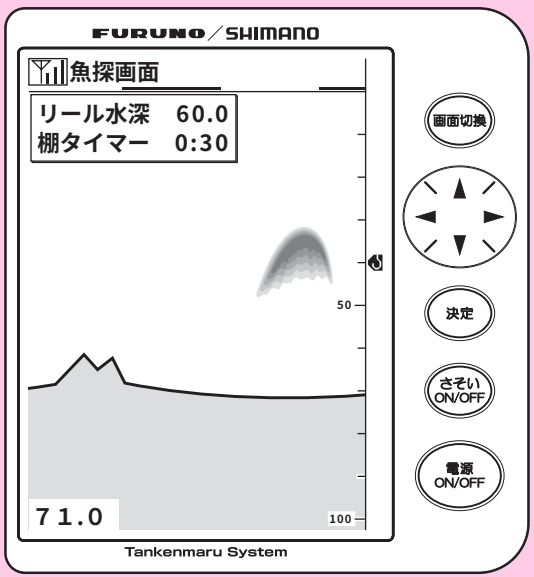
次ページにつづく

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ設定・数値を示すわけではありません。

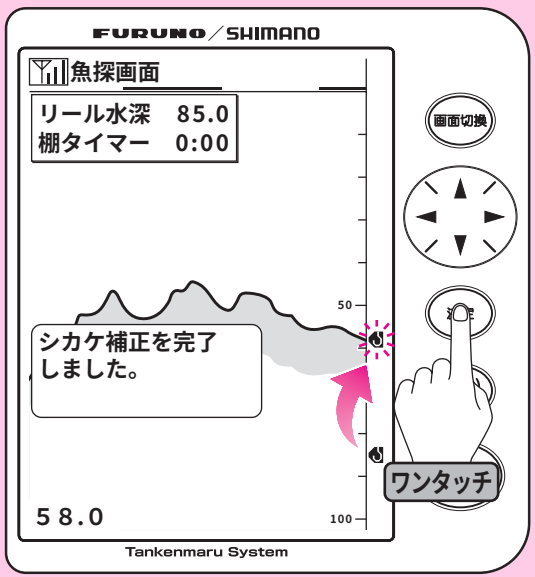


4 底取りできましたら、決定ボタンを押します。シカケマークが底の位置に表示されます。リール側からも補正する事ができます。底取りできましたら、決定スイッチを押します。（3秒以上押さないでください。）

ご注意!! 3秒以上押しますとリールが高切れと判断し、カウンターに誤差が生じます。その際にはお手数ですが再度糸巻き学習を行ってください。



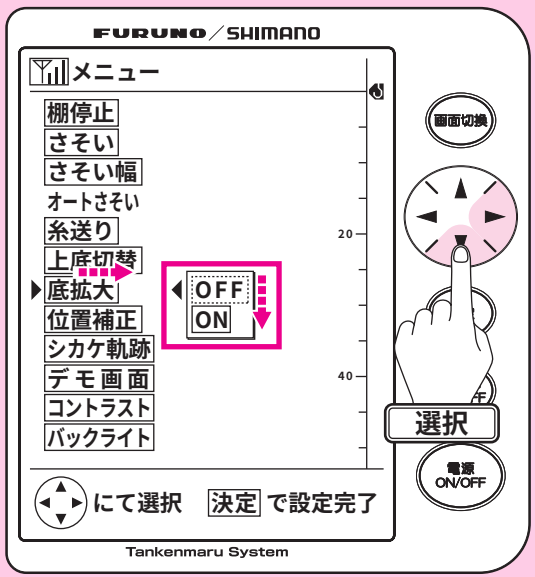
5 以後、希望の水深にシカケマークを合わせれば、シカケは実際その位置に来ていることになります。

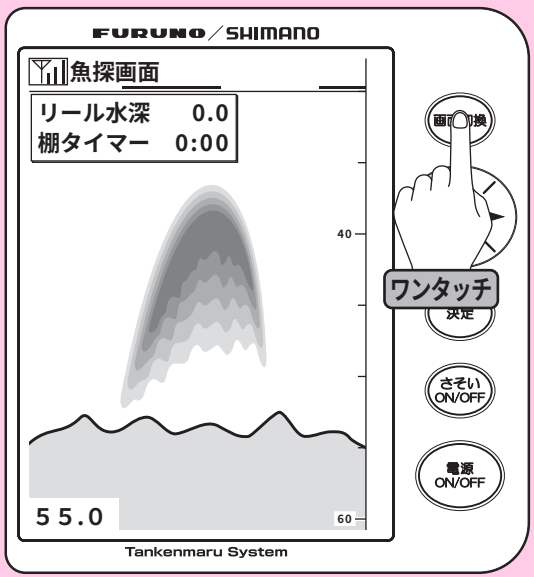


6 釣場を移動したり、画面とマークが一致しなくなってきた場合には、再度底取りをしてから、決定ボタンで再確定してください。
位置補正が正しく行われていない場合、シカケマークが画面から消える事があります。
その際にはシカケを再度投入し、底取りを行った上で再度位置補正を行ってください。

探見丸システム　底拡大

魚探深度の下半分を縦方向に2倍に拡大します。
海底付近の魚群を把握するのに便利です。





1 メニュー画面で[底拡大]→[ON]を選択してください。
（メニュー画面の操作について、詳しくは45～46ページ「メニュー画面の基本的な操作」をご参照ください。）

2 決定ボタンを押して設定を完了します。
底拡大がONになります。

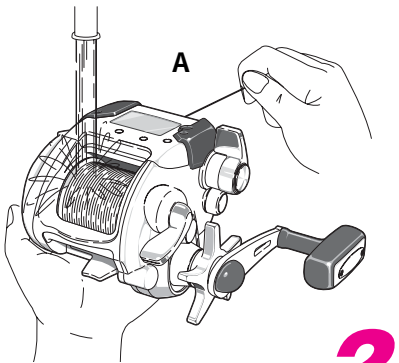
3 画面切換ボタンで魚探画面に戻ると、魚探画面の下半分を縦方向に2倍に拡大して表示します。

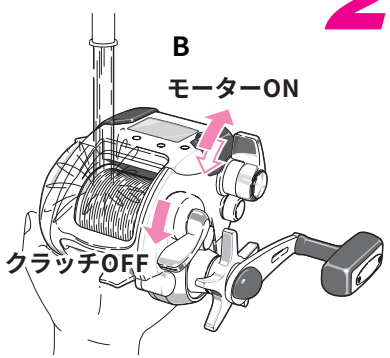
お取り扱い上の注意

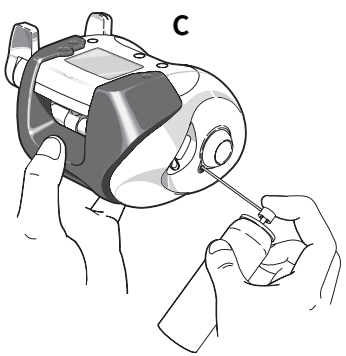
電動丸は、精密部品で構成されていますので下記注意事項を守ってお取り扱いください。また、釣行後の手入れを十分行ない、末永くご使用ください。

1 リールのお手入れ方法

1. 水道水をリールにかけながら、スポンジで汚れを落とします。
※水中に浸けて洗わないでください。
2. 水をかけて汚れを落とします。スプールと本体の間に水をかけながらクラッチを切って道糸を２～3m出します。（右図A参照）これによりスプール軸受け部に付着した塩分を洗い流せます。
3. 棚停止機構の一部分が塩もしくはゴミ等により正常に働かなくなる場合があります。この場合はスプールと本体の間に水をかけながらクラッチを切って電源をONしモーターを回転させてください。（クラッチを切って頂くと作業が簡単に行え、糸の巻き込みも防げます。）これにより棚停止機構に付着した塩もしくはゴミを洗い流せます。（右図B参照）
4. 右図Cの様に、電動リール本体の左サイドプレート下の穴より指定のグリススプレーを2～3回釣行毎に注入してください。
棚停止機構部分に直接グリスUPする事ができます。
※グリスはシュッと一吹きするだけでOKです。
指定グリススプレー:シマノ純正リールグリススプレーSP-023A







5. 影干ししてよく乾燥させてください。

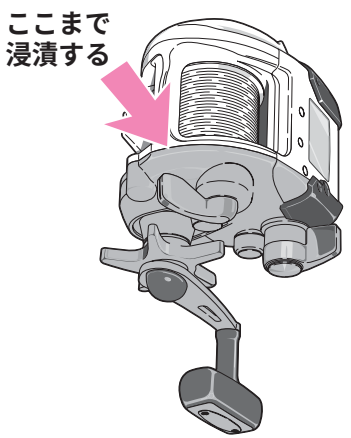
※ご注意
A-RB（耐塩水ベアリング）は錆び難いベアリングです。ベアリング内部に塩水が侵入する（塩カミ）のを防ぐものではありません。

※ベアリングの塩カミについて
基本的なメンテナンスを怠ると、ベアリング内部に塩水が残り、乾燥して塩カミを起こす恐れがあります。錆びている訳ではありませんが、同様に音鳴り、ゴロ付き等の症状が出ます。乾燥した塩を払拭する事は殆ど出来ません。例えA-RBであっても、完全な解消方法はベアリングの交換しかありません。ご注意下さい。

2 リールのお手入れ方法（スプール回転性能に低下が見受けられた場合）

●通常のお手入れ方法にて、スプール回転がスムーズでないと感じられた場合（リールのハンドル側ベアリングの塩カミによる場合）

1. リールのハンドル側のスプールと本体の間までリールを浸水させて（右図参照・リール全体を浸水させないでください。）スプールを回転させますと、ベアリングに噛み込んでいる塩が抜けて回転性能がUPします。
2. リールを水から引き上げてリールのコネクター側を下にして水を排水してください。（リール内部に溜まった水を完全に排水させます。）



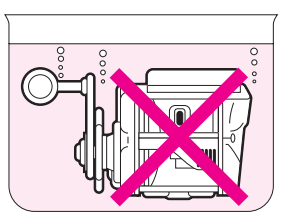
3 ご使用上の注意

●探見丸システムでは、親機の探知性能以上の水深の場合や、泡切れで親機が海底水深をキャッチできない場合があります。また、大魚群を海底と誤ってしまう場合があります。この時には水深情報を利用する各機能が使えないことになりますのでご注意ください。
●探見丸では魚探映像の感度、レンジの変更は行えません。
●探見丸は無線電波を受けているため、金属の箱などに入れると受信できなくなりますのでご注意ください。
●探見丸使用中に探見丸の画面表示が消え電源OFFの状態になった場合は、電源ON/OFFボタンを押していただきますと再起動いたします。これは、電源コードのワニ口クリップに力が加わったり、船電源の極端な電圧変動により、瞬間的に通電が遮断されたことが考えられます。この場合、探見丸の機構はOFFになる設定で、再度電源をONにする必要があるからです。
●根掛かりした時には、竿やリールで無理にあおらないで、できるだけ釣場に糸の残らないように引き寄せて切ってください。
●リールはていねいに扱ってください。移動時、特に放り投げやバッグ内で他の道具との接触による破損には十分ご注意下さい。
●リールは落としたり衝撃を与えないよう、ていねいに扱ってください。
●船の竿立てに収められる時は、リール後部及び電源コードに衝撃を与えないよう、また、コードを折り曲げないようご注意下さい。特にコードをリールと船べりの間にはさまないようご注意下さい。
●偏光グラスの種類によってカウンターの液晶画面が見にくくなる場合があります。
●リール本体に電源コードで電源を接続した時に、バックランプのみ点灯して液晶画面が表示されない場合は、電源コードのコネクターかワニ口クリップを、一旦外して再度接続していただきますと画面表示いたします。
●リールが低温（0°C以下）になりますと、モーターが作動しなくなったり、棚停止しなくなる場合が生じます。
●モーター作動時にクラッチを切り替える場合、異音を生じる場合がございますが故障ではありません。
●スタードラグはゆるめて収納してください。

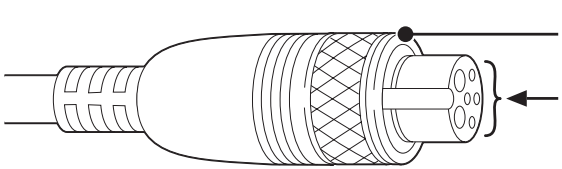
●ご注意　船長の指示棚は絶対に守りましょう!!
探見丸の画面上に指示棚以外にも反応が映っているからといって、勝手に大きく棚を変えるのはルール違反です。船長の指示棚は、長年の経験から導きだした、その場の状況に応じた最適な情報なのです。自分勝手に大きく棚を変えると、他の釣客とのオマツリや魚を散らす原因になるなど、トラブルの元です。絶対にやめましょう!!

4 お手入れの方法

●コネクター部の腐食防止のために、リールを使用にならない時は防水キャップをしてください。
●リールは絶対に分解しないでください。内部にはモーター、ブレーカーなどの電気部品が入っていますので故障の原因となります。
●ドラグ部分には絶対オイルを付けないでください。オイルが入るとドラグ力が低下することがあります。
●高温、高湿の状態で長時間放置されますと、変形や強度劣化の恐れがあります。長期保存される場合は、上記の手入れを実施後、風通しの良い場所で保存してください。
●リール本体、特にカウンターユニット部は、水没させないでください。
（カウンターユニットは日常生活防水仕様ですがトラブルを防止するため、水没させないでください。）



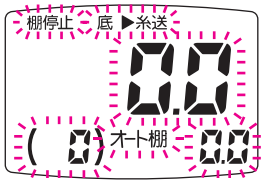
●お手持ちのリールを末永くご愛用いただけるよう特別のグリスを作成しました。下記の図のように電源コードの端子の6つの穴に付けていただくようお願いします。（リール本体側の電源コードの端子にもグリスを塗布していただくとより効果的です。）



5 セーフティ機能

●自動復帰ブレーカー

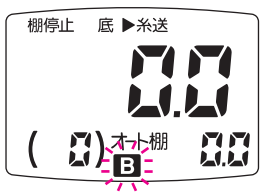
モーターに過負荷がかかった場合、モーターを保護するためにブレーカーが働きます。
ブレーカーが作動した時は右図のように全表示が点滅します。



※注意　この時、モーター保護のためモータースイッチをON・OFFせずに5分以上休ませてください。点滅が点灯になればブレーカーは復帰です。このような場合でも電源がON状態であれば、糸を巻く、出すことによってカウントされ、水深がずれることはありません。

●バッテリー検出表示

バッテリー電圧が10.5V以下になった場合、またはコード・コネクターの接触不良がおこると、バッテリーの絵文字が点灯します。

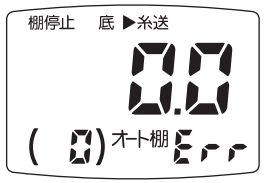


●電圧が高すぎる場合

DC20V以上の電圧がかかると右図のように表示されます。

●糸巻学習不成立の場合

●テクニカルレバー断線の場合



6 仕様

品番	製品コード	商品コード	ギヤ比	最大ドラグ力 (N/kg)	自重 (g)	糸巻量(号-m) デュラPE使用	最大巻上速度 (cm/ハンドル1回転)	電動巻上速度 (m/分)	スプール (径mm/幅mm)	ベアリング (A-RB/ローラ)
電動丸1000XT	RG211000	01871	3.7	49.0/5.0	580	3-400 4-300 5-200	57	速巻き180 +レバー操作による 30段数	49/39	2/1

●標準付属品　コード、布袋、取扱説明書、分解図、グリススプレー、糸通しピン、下巻きゲージ、保証書

●ご注意　3号を使用される場合は糸を巻きすぎたり、バックラッシュ等をしますと糸が細いため、スプールと本体枠のすき間に入り込んでしまう場合がありますので注意して下さい。

故障かな？と思われたときは

こんなとき	操作	参照
液晶が真っ黒、及び全文字が現れる。	高温度の状態（車のトランクの中等）にさらされた時に生じる場合がありますが、温度が下がるにしたがって正常にもどります。	
液晶が表示しない。	バッテリーと電源コードの（＋）（－）とが正しく接続されているかをお確かめください。 バッテリー容量が不足していないか、ご確認ください。	P.10
液晶が表示しない。（極寒で使用の場合）	液晶の特性上-15℃以下で放置されますと、電源をつないでもしばらくの間表示しません。 （電源がONの状態になり、カウンター内部の基板が温まれば表示されます。） 極寒で使用される場合、船がポイントに着くまでは電動リールをキャビンに入れてもらうかカバーを付け、保護することをおすすめします。	
糸巻学習がセットされない。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.11～P.23
ラインを送り出してもカウントしない。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.11～P.23
誤差が大きい。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.11～P.23
カウンター表示と、糸の水深色分けとが一致しない。	糸の種類により、程度の差はありますが、使用中に糸が伸びることによりカウンターの表示との間にズレを生じる場合があります。	
船べり停止位置が違う。	巻き上げのテンションや糸の伸びの影響と思われます。水面での0セットを行なってください。 また、入力可能な船べりセットは、1m～6mの範囲です。 1m以下のセットは安全のため1mに設定しています。	P.28～P.29 P.31
液晶表示はするがモーターが作動しない。	バッテリーの容量が十分かどうかご確認ください。 ※モーターが低速では作動するが、高速では作動しない場合もバッテリーの容量不足が考えられます。バッテリーを充電のうえ、ご確認ください。なお、充電しても正常に作動しない時は、バッテリーが古くなったことが考えられますので、新しいバッテリーと交換し、再度ご確認ください。 また、リールが低温（0℃以下）になりますと、モーターが作動しなくなったり、棚停止しなくなる場合が生じます。※1	P.10
棚停止しない。	リールが低温（0℃以下）になりますと、モーターが作動しなくなったり、棚停止しなくなる場合が生じます。※1 また、棚が入力されているか、あるいは棚停止ONになっているかご確認ください。 弊社以外のハンドルを装着されますと、棚停止機構に支障をきたす場合があります。	P.6～7 P.34～P.35

※1　この場合は何度かレバーのON･OFFを繰り返してください。（糸送り機能をON状態にして使用する事でも解消できます。）また、極寒の地で使用される場合は、釣場でのポイントまでの移動の際には、船のキャビンに入れておくか、電源をONしておいてください。

〈次ページにつづく→〉

こんなとき	操作	参照
カチカチと音が鳴るのに棚停止しない。	棚停止機構の一部分が塩、もしくはゴミ等により正常に働いていない可能性があります。 この場合は流水をかけながら、クラッチを切って電源をONし、モーターを回転させてください。（クラッチを切って頂くと作業が簡単に行え、糸の巻き込みも防げます。）また、2～3回釣行された後に、水洗い洗浄後の棚停止部分のグリスUPをおすすめします。（詳しくは66ページ「リールのお手入れ方法」を参照してください。）	P.66
棚停止後、すぐにクラッチを切ってシカケを落とすとクラッチが戻ってしまう。	指定した棚より若干手前で止まる場合がございます。その際、すぐにクラッチを切ってシカケを落とすとリールは指定の棚に来たと思い、再度棚停止機構が働くためにその現象が起きます。	
巻き上げ中にモーターが停止する。	電源コネクターのネジがしっかりと締め付けられているかご確認ください。 船電源の端子や、リールや電源コードのコネクター部分がサビていると、通電不良を生じます。 サビを落としてからもう一度ご確認ください。	P.10
電動リールから、巻いていないのに変な音がする。	不安定な電源から電動リールを守る為に、デジタルカウンター内部にコンデンサーを入れております。ご使用されています電源が不安定な状況下（ノイズ等や電圧降下）では、このコンデンサーが振動し音が聞こえる場合がありますが、リール機能には一切支障は御座いませんので安心してご使用ください。	

以上の確認を行なっても直らない場合は、お手数ですがお買上になった小売店にて、修理カードに故障内容をできるだけ詳しく書いていただき、シマノサービスセンターにお送りください。

製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内

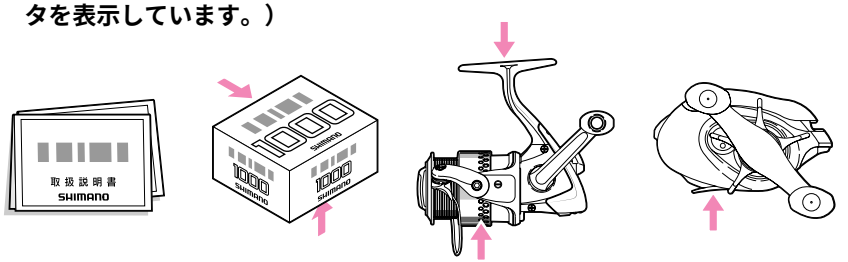
リールのメカニズムの説明には書面で表しにくいことがあります。
手紙での問い合わせにつきましては、必ずお客様の電話番号をお書き添えくださるようお願いいたします。

●修理に出されるときには、お買い上げの販売店へ現品をお預け願います。
その際には必ず、修理箇所、不具合内容を具体的に（例／ストッパーが働かない）お知らせください。
また、お近くにシマノ商品取扱店がない場合は、最寄りの営業所・本社（フリーダイヤル）へお問い合わせください。
修理品は部品代のほか手数料をいただきますのでご了承ください。商品の故障等によって生じる他のタックルの破損、紛失、釣行費等は保証できません。

●ご自分で修理をされる場合の部品や替えスプールのお取り寄せは分解図をご覧いただき、製品名・商品コードもしくは製品コード・部品番号・部品名をご指定の上、ご注文ください。
（内部の部品に関しましては、複雑ですのでリール本体ごと修理に出されることをお薦めします。）

例／製品名　　：ステラ1000S
　　商品コード：01840
　　製品コード：SC96B012
　　部品番号　：2
　　部品名　　：スプール

●商品コード/製品コードの位置
取扱説明書・分解図・パッケージ底面部もしくは側面部・製品（コードの上５ケタを表示しています。）



安全上のご注意

ご使用前に必ずお読みください。

⚠ 警 告

●電動リールを使用されますと微弱な電波が発せられ、補聴器、ペースメーカー等の医療機器が誤作動したりするなど影響を与える場合があります。
特に心臓ペースメーカーをご使用されている方が電動リールを使用されますと、動悸、目眩が起こる場合がございますので、本製品のご使用前に必ず当該各医用電気機器メーカー、もしくは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

●糸をリードするレベルワインドの所に指を近づけて、釣りをしないでください。指をはさまれて、けがをするおそれがあります。

●ハンドルとボディーの間に手をはさむと、けがをするおそれがあります。

●バッテリー、船電源の所定電圧（12ボルト）以外を使用しないで下さい。所定の電圧以外を使用すると、電動リールが発熱し、手をやけどするおそれがあります。

⚠ 注 意

●回転しているスプールには触れないで下さい。けがをするおそれがあります。

●電動リールは分解・改造等はしないでください。故障や事故につながる原因となります。

この説明書は再生紙を使用しています。

株式会社シマノ全国サービスネット

株式会社シマノ　北海道営業所
〒001-0925 札幌市北区新川5条1-3-50　TEL.(011)716-3301

株式会社シマノ　仙台営業所
〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町2-17-10　TEL.(022)232-4775

株式会社シマノ　埼玉営業所
〒362-0043 埼玉県上尾市西宮下3-194-1　TEL.(048)772-6662

株式会社シマノ　東京営業所
〒143-0013 東京都大田区大森南1-17-17　TEL.(03)3744-5656

株式会社シマノ　千葉営業所
〒284-0045 千葉県四街道市美しが丘1-30-11　TEL.(043)433-1780

株式会社シマノ　静岡営業所
〒410-0807 静岡県沼津市錦町674　TEL.(055)962-3983

株式会社シマノ　名古屋営業所
〒454-0012 名古屋市中川区尾頭橋2-6-21　TEL.(052)331-8666

株式会社シマノ　大阪営業所
〒590-8577 大阪府堺市老松町3-77　TEL.(072)223-3920

株式会社シマノ　中国営業所
〒700-0941 岡山市青江6-6-18　TEL.(086)264-6100

株式会社シマノ　四国営業所
〒768-0014 香川県観音寺市流岡町1496-1　TEL.(0875)23-2220

株式会社シマノ　九州営業所
〒841-0048 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜4-6　TEL.(0942)83-1515

シマノ臨海株式会社　釣具サービス課
〒592-8331 大阪府堺市築港新町1-5-15　TEL.(072)243-2851

株式会社シマノ釣具事業部
本　社：〒590-8577 大阪府堺市老松町3丁77番地

● 探見丸システムに関するお問い合わせ
フリーダイヤル 0120-651130
受付時間：AM9:00～12:00・PM1:00～5:00（土･日･祝祭日除く）

● 商品の性能、スペック、カタログ、イベントや、商品の修理、パーツなど
アフターサービスに関するお問い合わせ
フリーダイヤル 0120-861130（ハローイイサオ）
受付時間：AM9:00～12:00・PM1:00～5:00（土･日･祝祭日除く）

シマノホームページ アドレスは http://www.shimano.com です。

● シマノならではのオリジナル情報を発信しています。また、カタログのお申し込みも受け付けています。

Printed in Japan 031 t

SHIMANO

●糸通しピン

(050802)